



学びのプログラム集

— 2024年度 JICA中国・四国
教師海外研修 授業実践報告書 —



はじめに

全世界196カ国のうち開発途上国と呼ばれる国は未だ140カ国以上もあり、それらの課題を解決する必要があります。また、日本含めた世界と開発途上国の関係性が高まり、我々の身近な存在になってきています。それらの国の現状や課題、あるいは歴史的背景や先進国との関係などを知らずして、世界の今は語れません。多様な民族、言語、文化、暮らし、考え方、宗教などがあることに興味を持つ好奇心と、その多様性や違いを尊重する謙虚な姿勢と寛容な精神がないと、グローバル人材は育成できません。一方、開発途上国に、日本との共通点を意外に多く発見し、共感することで、開発途上国をより身近に感じることもあります。開発途上国の現状を知ること、日本や郷土のことを、新たな視点で振り返るきっかけになることもあります。

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）は、開発途上国における事業で培った経験と人材を活用し、日本国内の国際教育、ESD（持続可能な開発のための教育）の発展に寄与するための活動として「開発教育支援事業」に長年にわたり積極的に取り組んできました。開発途上国の抱える問題に関心を持ち、全国の小・中・高等学校・特別支援学校において国際教育に取り組んでおられる、または今後それらに取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施してきた「教師海外研修」もその事業のひとつです。参加される教員の方々には、開発途上国の社会の実情や文化・習慣などを肌で感じ、JICAが実施する国際協力の現場視察を通じて、開発途上国のみならず世界共通の問題や日本と世界の国々の関わりを理解していただき、その学びや知見を日本で待つ子どもたちに還元していただくことを目的として実施しています。

今年度は中国3県・四国3県から計10名の先生方がラオス人民民主共和国を訪問され、この海外研修での気づき、そして渡航前後に実施した国内研修での学びをそれぞれの授業に活用されました。さらにその内容を、本研修に参加していない方にも分かりやすく、類似の実践ができるよう編纂しなおしたものがこのプログラム集です。

本冊子が、「持続可能な社会の創り手」である児童生徒の育成に尽力されている教職員の皆さまの参考となり、学校教育現場での取組みの一助になれば幸いです。

独立行政法人 国際協力機構

中国センター 所長 村岡 啓道

四国センター 所長 田村えり子

目 次

研修国概要	3
教師海外研修概要	4
海外研修レポート	6
海外研修（ラオス）日程	17

【学びのプログラム】

異文化理解～世界と教室をつないで～	上 杉 卓.....	20
「豊かな暮らし」とはどのような暮らしだと思うか、 考えを広げよう・深めよう	黄 杏 子.....	30
これからの生き方を考える	木 村 美 咲.....	46
本当の幸せってなんだろう？	岡 崎 麻 央.....	64
多文化共生	高 森 菜 摘.....	76
数学を使って世界を考えてみよう	古 瀬 由 紀 子.....	93
ラオスから持続可能な地球社会について考えよう	末 村 和 也.....	106
国際的視点でとらえ、「あり方」を深く考える	吉 岡 裕 司.....	129
誰もが安心して生きられる社会の実現に向けて ～ラオスの事例から考える～	仁 木 敦 子.....	142
「ラオス×日本」から学ぶ国際理解	玉 井 日 向 子.....	152

※各章の「参考文献・引用資料」にある動画および資料のURLは本冊子作成時（2025年3月）のものです。

※記載内容は執筆者個人の見解であり、所属校およびJICAの見解を代表するものではありません。

★本プログラム集はJICA中国HPでも公開しています。HPからワークシートなどのダウンロードが可能です。



JICA中国HP



研修国概要

ラオス人民民主共和国

(Lao People's Democratic Republic)



- 首 都：**ビエンチャン
- 面 積：**24万平方キロメートル（日本の約3分の2）
- 人 口：**744万3,000人（2022年、ラオス統計局）
- 政 体：**人民民主共和制
- 民 族：**ラオ族（全人口の約半数以上）を含む計50民族（2018年12月にブル族を採用）
- 言 語：**ラオス語
- 宗 教：**仏教
- 気 候：**熱帯モンスーン気候に属し、高温多湿で雨季（5～10月）と乾季（11月～4月）がはっきりしている。
ビエンチャンの年平均気温は乾季22.1℃、雨季28℃
- 通 貨：**キープ（Kip） 10,000キープ=約72円（2025年1月）
- 一人あたりGDP：**2,022ドル（2022年、ラオス統計局）
- 主要産業：**サービス業（GDPの約37%）、農業（約18%）、工業（約34%）、製品及び輸入に係る税（約11%）
（2022年、ラオス統計局）
- 主要貿易相手国：**タイ、中国、ベトナム 他（2021年、ラオス商工業省）

<日本との関係>

- 従来より良好な関係。1955年に外交関係を樹立し、2020年3月に65周年を迎えた。2015年に両国関係は戦略的パートナーシップ関係に格上げされた。
- 在留邦人数：**578人（2023年10月、海外在留邦人数調査統計）
- 在日ラオス人：**3,602人（2023年6月、出入国在留管理庁発表）
- 文化関係：**日本は1976年より文化無償協力案件を実施。
文化遺産保存、スポーツ交流、人物交流等の文化交流も拡大中。
- 経済関係：**日本の輸出 約130億円…機械類、車両、電気機器・部品、合成繊維、プラスチック原料・製品等
日本の輸入 約234億円…靴・靴関連、電気機器・部品、衣類、香水・化粧品、動物の毛・羽、
コーヒー豆等（いずれも2021年、ラオス商工業省）
- 日本からの投資：**コンサルティング、縫製・部品製造業、電力等（2021年、ラオス商工業省）
- 日本の援助実績**（2021年度まで）：

(1) 有償資金協力	484.36億円
(2) 無償資金協力	1,735.85億円
(3) 技術協力	848.72億円

（2024年12月付 外務省ホームページ「各国・地域情勢」（ラオス）より）

教師海外研修概要

JICAの開発教育支援事業

グローバル化が進む現在、地球に暮らす私たちが自ら足元を見つめ直し、日本を含めた国際社会が抱える課題に取り組むことが急務となっています。そのため、国際教育や開発教育、持続可能な開発のための教育（ESD）といった取組みを多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

また、学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」の育成がうたわれ、多様な価値観・生活習慣をもつ人々と国内外で共存できるよう、児童・生徒が互いの文化を理解し、尊重し合い、違いを認められるなど、新たな社会で生きていくために必要な資質・能力を育むことが求められています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICAでは途上国と日本の地域との懸け橋となるべく、国内でも様々な事業を行っています。中でも、長年にわたる国際協力の知見を活用して、小・中・高校や大学、教育委員会や自治体、市民団体などと連携して展開しているのが、「開発教育支援事業」です。

JICAでは、国際協力出前講座、JICA施設訪問、開発教育指導者研修といったプログラムを通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりを支援しています。教師海外研修は、そのプログラムのひとつです。



教師海外研修とは

●ねらい

本研修は、国際教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童生徒への教育に役立ててもらおうことを目的として実施しています。

国内で実施する派遣前・帰国後の研修では、ワークショップ体験などを通じて参加型学習の手法を学び、海外研修での知見をより効果的に還元するための授業づくりのサポートも行います。

帰国後は、教室にいる児童生徒はもちろん、地域において他の教職員や市民にもその経験を発信してもらい、持続的に国際教育・開発教育の担い手として活躍していただくこともねらいとしています。

主催：独立行政法人国際協力機構 中国センター（JICA中国）

独立行政法人国際協力機構 四国センター（JICA四国）

後援：外務省、文部科学省

鳥取県教育委員会、島根県教育委員会、岡山県教育委員会、

広島県教育委員会、山口県教育委員会、徳島県教育委員会、

香川県教育委員会、愛媛県教育委員会、高知県教育委員会、

岡山市教育委員会、広島市教育委員会

● 研修のながれ (2024年度)

募集・選考

- 募集 (4月～5月16日)
- 書類選考、結果通知 (5月下旬)
- 面接選考 (5月27日～6月3日)
- 最終結果通知 (6月12日)

派遣前研修

- 6月29日(土)～30日(日) 会場：第1セントラルビル1号館(岡山県岡山市)
- 海外研修について：教師海外研修のねらい、研修日程と訪問先解説、安全管理について
- 講義：「ラオスの概要」
 - 宍戸 孝行 氏 (ファーマーズ協同組合/JICA海外協力隊OB (ラオス派遣))
 - 「教師海外研修過年度参加者による体験談」
 - 中村 秀司 教諭 (鳥取県立鳥取西高等学校/2019年度教師海外研修参加)



海外研修 (ラオス) 8月7日(水)～17日(土)

海外研修レポート提出 8月26日(月)

帰国後研修 8月31日(土)～9月1日(日) ※台風のためオンラインで実施

- ・海外研修で得た資料や情報を参加者全員で共有・整理。参加型手法を改めて学びながら、現地の知見をどう教材化するか考え、授業案を作成。
(助言指導：山中 信幸 氏 (川崎医療福祉大学非常勤講師・開発教育ファシリテーター))
- ・教師海外研修過年度参加教員 (2023年度) による講義。授業実践への事前準備、テーマ設定や児童・生徒の様子、周囲の教職員の反応や今後の課題などを共有し、参加教員の授業案作成へのアドバイスも行う。
(発表者：勝部 知早野 教諭 (島根県浜田市立長浜小学校)、藤原 孝夫 教諭 (鳥取県立米子東高等学校))

所属校での授業実践 9月～2025年1月



授業実践報告書提出 2025年1月14日(火)

授業実践共有会 2025年1月25日(土) 会場：岡山国際交流センター
海外研修参加者全員が所属校で行った授業内容、児童生徒の変容や課題などを報告。

授業実践報告会 2025年1月26日(日) 9:30～13:00 会場：岡山国際交流センター
一般参加者30名を対象に開催。ラオス研修の報告、小・中・高校の教員が行った授業をワークショップ形式で実施。



海外研修レポート



8月7日(水)

古瀬 由紀子

訪問先

スワンナプーム空港→ワットタイ国際空港

研修内容

福岡空港からスワンナプーム国際空港を経由し、ワットタイ国際空港まで移動

所感

待ちに待った出発の日。東南アジア唯一の内陸国であるラオス人民共和国（以下ラオス）とはどんなところだろうか。東はベトナム、北は中国、西にミャンマー、タイ、南はカンボジアに囲まれた国。メコン川が国の南北を貫いて流れている。日本からの直行便がないため、今回はバンコクを経由してビエンチャンを訪れる。カオ・ニャオ、ラープ、ケーン・ノーマイ、カイ・ペーン、カオ・ソーイ。ラオスの食事はとてもおいしいらしい。2016年、ニューヨーク・タイムズ紙で「世界で一番行きたい国」第1位に選ばれている。のどかで素朴な農村風景、穏やかな表情で暮らす人々。写真で見るラオスに、私は昭和のような懐かしい印象を持った。

福岡空港からバンコクまで5時間20分。経由地のスワンナプーム国際空港に到着した。スワンナプーム国際空港の敷地面積は成田空港の約3倍もあるらしい。空港内には「Musulim Prayer Room」があった。最近では日本でも商業施設、駅、空港などで「Musulim Prayer Room」の設置が増加している。インバウンドだけでなく、外国就労者数も増加している現在、異なる国で暮らす人々の文化や生活を知り、互いの違いを認め合い、尊重する社会の実現を目指すことの重要性を感じた。バンコクからビエンチャンのワットタイ国際空港までは1時間20分。ワットタイ国際空港を出たところで日本とラオスの国旗が記された碑を見つけた。ワットタイ国際空港の国際線ターミナルビルや駐車場などの施設整備は日本の支援によるものらしい。1965年、日本から最初に青年海外協力隊が派遣された国がラオスだったということを出した。ラオスへの初派遣から50年以上経った今もなおラオスに協力隊が派遣されているのはなぜだろう。ワットタイ国際空港から送迎のバンに乗りホテルに向かう。タワーマンションのような高層建築物は見当たらない。ごちゃごちゃした電線が気になる。町の中には空港で見たような石碑がところどころにあった。日本以外の国旗が記された石碑もあった。通訳のブンタさんから「いろいろな国の支援で信号が作られているので、ラオスにはいろいろな国の信号があって面白いですよ」と聞いた。これから始まる10日間、五感をフル稼働させて、ラオスという国とそこで暮らす人々の生き方を見ていきたい。



空港（タイ）の案内板



ラオスの町の様子



ワットタイ国際空港



空港（ラオス）の碑



8月8日(木)

吉岡 裕司

訪問先

- ① JICAラオス事務所
- ② 「みんなのカフェ」
- ③ デナイモ浄水場

研修内容

- JICAラオス事務所：ラオスにおけるODA事業説明後、ラオスの教育の現状と課題についてのブリーフィングを受けた。
- みんなのカフェ：「ADDP（アジアの障害者活動を支援する会）」の事業説明後、昼食を食べた。その後クッキー作製過程や店内の見学を行った。
- デナイモ浄水場：「水道事業運営管理能力向上プロジェクト（MaWaSU3）」の概要とラオスにおける水道の現状を聞いた後、メコン川の水が浄水場によってきれいにされ、生活水になっていく過程を見学した。

所感

JICAラオス事務所では田澤さん（JICAラオス事務所）と長岡さん（ラオス教育政策アドバイザー）のお話を聞いた。お二人ともラオスについてとても詳しく、JICAの事業以外にもラオスの文化についても教えていただいた。ユーモアを交えながらも落ち着いたトーンで話をされる姿からは並々ならぬ情熱を感じた。研修メンバーにも気合が入る最高の導入となった。複式学級の割合が3分の1にのぼること、ボランティア（無給）教員が多数いるというラオス国内の状況を聞いた時には日本と全く異なりとても驚いた。

「みんなのカフェ」ではADDPの新井さんに事業について説明をしていただいた。説明の中で「スポーツ、就労、教育の支援で生きる力が生まれる」というフレーズが心に残っている。カフェでは障害をもつ従業員さんがいきいきと働いておられるようだった。笑顔で丁寧に接客をしておられ、皆それぞれが自分の役割をこなし、他の人のフォローをしていた。まさに生きる力を養っていると感じた。「みんな」が多彩で多様な可能性を持った素敵なお店だった。

午後からはデナイモ浄水場の見学に行った。説明のなかで水道の普及率が25%であることや、適正な料金設定や無収水率（浄水場から排水した水量に対して料金収入にできない水量の割合）を減らすことで経営が成り立つようにするという話を聞いて、蛇口を捻ったら透明できれいな水が出るのが当たり前ではないことがよくわかった。この浄水場はメコン川から水を引いていて、雨期ということもあってかなり濁っているように見えた。凝集剤を加えて分離していく過程を経て、最後は透明できれいな水になっていく様子は圧巻だった。

この日からふり返りを一日の終わりに一人ずつ口頭で共有するようになった。「浄水場の検査室があったがセキュリティ面が気になった」や「教育の優先順位が低い→水道事業でもお金がない→お金はどこ？もともとないの？」など、自分にはなかった視点を補ってもらう良い時間となった。



JICA ラオス事務所での
長岡さんによる説明



「みんなのカフェ」と従業員さん



メコン川。
雨季のためか濁って見える



浄水場。
奥の水がきれいになっている

訪問先

- ①サタティラート病院
- ②ラオス日本センター

研修内容

- サタティラート病院：病院施設見学、質疑応答
- ラオス日本センター：JICA専門家（米山芳春チーフアドバイザー）から日本センターについての説明。日本語を学ぶ学生たちとの交流。

所感

午前は日本のODAの無償資金協力によって建てられた「サタティラート病院」へ向かった。施設に入って中を見渡すと、明るくて天井が高く開放的であるという印象をもった。しかし、地域の拠点病院としては規模が小さいように感じた。病院敷地内にはシーサーがいる。これにはサタティラート病院に関するプロジェクトに琉球大学が協力している背景がある。歯科医師に話を伺うと、琉球大学に留学した経験があることや、手術のために日本から医療チームが来ていることなどがわかった。また、歯科の診察台や待合スペースのベンチに日の丸を見つけた。日本の技術がラオスの医療の発展に貢献していることを知り誇りに思うと同時に、1つの病院だけでこれだけ日本を感じると思っていなかったので正直驚いた。施設を見学した後、病院スタッフからラオスの病院が直面している課題等についての話を聞いた。看護師や救急対応をする人材の不足が問題であり、特に救急に関しては病院のレスキューが機能していない状態で、2週間程度のトレーニングを受けた学生ボランティアが対応していることが分かった。また、経済的な理由から適切な医療を受けられなかったり、地方に住む人は病院へのアクセスが難しかったりする課題もラオスにはあることが分かった。どれもすぐに解決するものではないが、どこの国でも人の命と健康は第一に考え守られるべきものであってほしいと切に願った。人命を救うために懸命に活動する国内外の医療従事者や技術者たちがいることを生徒たちに伝えたい。

午後はラオス日本センターに移動した。これも日本のODAの無償資金協力のもとビジネス人材育成と日本と各国間の相互理解促進を目的として設立された。2008年に開始されたMBAプログラムは最初こそ日本人が入っていたが今では現地化できているという。最終目標は現地化することだという話は他の事業でも聞いたが、実際にラオスの人に寄り添い共に事業を育て実現しているところがあると知って、JICAの活動が現地に根付いていることを実感した。日本センターについての説明を米山専門家から受けた後、日本語を学んでいるという中学生～大学生との交流会の時間をいただいた。まずは、日本食を代表する「お味噌汁」についての紹介を行い、実際に食べてもらった。部屋にお味噌のいい香りが漂ったが、お味噌汁を食べるのは初めてという人が大半で、完食していない人もいてお味噌はあまりなじみのない味だったのかもしれないと思った。

次に、小中高の校種別に学校を紹介する動画を上映した。夏休みに入る前、私は自分の生徒に、「ラオスの学生にうちの中学校と地域を紹介する動画を作るから協力してね」とお願いをすると、すこし恥ずかしそうに、でも日本を代表する気持ちをもって撮影に協力してくれた。生徒は、ラオスの学生がどのような反応を示してくれるのかを気にしていたので、給食や部活動、地元の特産品などに興味を示してくれたことを日本に帰って早く伝えたい気持ちになった。

次に、小学生の将来の夢や好きなもの・ことについて発表する動画の上映、日本に関するクイズ大会を行った。日本のお笑い芸人のネタをラオスver.に作ったものも披露した。日本のお笑い文化が伝わるのかどきどきしたが、だんだん大きくなるその笑い声にほっとした。最後には会場全体を巻き込んでおなじみ



のポーズをとった時の一体感は忘れられない。様々なアクティビティのおかげで和やかになった雰囲気の中、小グループに分かれて日本語でお互いについて知るために交流をした。日本のアニメや漫画、アーティストなどが好きなこと、今度日本を訪れることを楽しみにしていることなどを教えてくれた。日本のことが好きという気持ちが伝わってうれしく思った。同時に、自国のラオスや家族のことも好きで大切にしていることも分かった。日本の子供たちにも自分の国や地域、家族のよさに気づき大切に思ってもらい、思ってもらえるように大人たちができることをしたいと考えた。

最後に、高知出身の教員のレクチャーのもと、日本の文化の1つである「よさこい」をみんなで踊った。音楽や踊りには言葉は必要なく、世界を超えて良さが伝わり一緒に楽しめるものであると実感した。限られた時間ではあったが、ラオスの学生と交流できたことは心から楽しく充実したものとなった。学ぶことを楽しいと思い、外国に興味を強く持っているラオスの学生と交流することを通して、教師として生徒に学ぶことの楽しさを感じさせられるような、また自国の良さに気づき他国のことも知りたいたいと思える授業・教育活動をしていきたいと改めて思った。



病院の出入り口にあるシーサー



待合室の様子



歯科の診察台



みそ汁を食べる学生たち



日本やラオスについて話す様子



みんなで『あのポーズ』をとっている様子



一緒によさこいを踊っている様子



訪問先

ルアンパバーン ロンラオ村

研修内容

- 草の根技術協力事業「ルアンパバーンの公認ガイドの技術向上を目指したインタープリテーショントレーナーの養成事業（一般社団法人エコロジック）」視察
- Khmu（カム）族の家庭でホームステイ

所感

ルアンパバーンからの道中、車窓から見える風景は徐々に山間部の緑豊かな景色へと変わる。道路は舗装されておらず、車が大きくバウンドするほどの悪路を進んでいく。村に近づくにつれて、都市の喧騒から遠ざかっていくのが感じられ、随分遠くまで来てしまったなとロンラオ村でのホームステイへの期待と不安が込み上げてきた。村に到着したとき、私が感じたのは、少しの戸惑いと緊張感だった。村の人々が家の前で作業をしながらこちらを見ていることに気づく。表情には笑みもなく、むしろ警戒の色が浮かんでいる。自分が場違いな場所に立ちってしまったのではないかという感覚さえ覚えた。思い切って挨拶をしてみると、挨拶を返してくれたが表情は固いままであった。「彼らから見る私たち日本人はどのようになっているのだろう。」と思い、少し身を引き締めた。

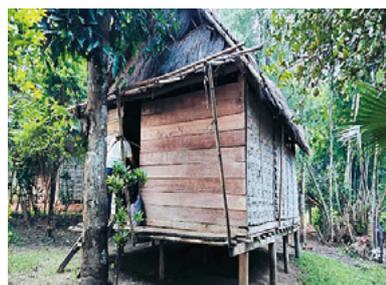
インタープリテーショントレーナー養成事業では、トレーナーとなるガイドが、現地の自然環境や狩猟道具の扱い方、文化の保護にも配慮しながら、観光客にその価値を伝えるためのスキルを学んでいた。フィールドワークを通じ、観光ガイドは単なる案内人ではなく、訪問者に新たな視点を提供し、その場所や文化への理解を深める重要な役割を果たしていると感じられた。このような技術が普及することで、観光客にとっての体験価値が高まり、ラオスの観光産業が発展していくように思えた。夕方になり、近くにあるモン族の村を訪れる道中、村の小学校があった。建物には、日本の某スーパーマーケットのロゴが刻まれており、遠く離れた日本との繋がりがこんな形で目の前に現れるとは想像もしていなかった。一方で、校庭や学校の周りには、ゴミと作物であるはずの綿花が散乱しており、村の人々のモラル、教育はどうなっているのだろうと心の中に違和感がじわじわ広がっていくのを感じた。また、村での生活の中で一番の衝撃だったことは、子どもたちがスマートフォンを使用してゲームや動画を楽しんでいたことである。私は勝手にこの村の生活がもっと素朴で、自然とともにあるものだと勝手に想像していた。電気や水も限られたこの場所で、スマートフォンを使いこなす姿は、私の思い描いていた「村の子どもたち」のイメージとはあまりに異なっており奇妙に見え、現代的な側面をもっていることを知った。それでもなお、井戸水でお風呂に入ったこと、蚊帳の中で眠ったこと、朝まだ薄暗い中、鶏の鳴き声で目を覚ましたこと、そして村の人々と拙いラオ語やボディランゲージで交流したことは私にとって伝統的な村での生活を体験する貴重な経験となった。伝統と現代が入り混じったロンラオ村。村の外から持ち込まれた技術が村での生活を変えつつある。その変化が良いことなのか、悪いことなのか。開発すること、そして「豊かさ」とは何か考えさせられた一日となった。



携帯電話を見る子どもたち



モン族の子どもたちとの交流



村の伝統的な家



8月11日(日)

木村 美咲

訪問先

- ①ロンラオ村でのホームステイ2日目
- ②クアンシーの滝

研修内容

- ホームステイ(朝食、寺)
- クアンシーの滝トレッキング
- 中間ふり返り(ホテルにて)

所感

ロンラオ村でのホームステイ二日目の朝も、参加者は体調が特に悪くなることなく元気な様子が見られた。女性陣はカム族の高床式の家に泊まったが、比較的涼しく快適であり、虫や風の音を聞き眠り、鳥や犬の声で朝起きる体験を楽しんでいる様子があった。男性陣は、実際にカム族の方が住んでいる家の一部に泊まったそう。朝ごはんは、ホームステイ先の家族が用意してくださった(カオニャオ、卵焼き)。昨日の村のツアーガイド育成の際に、竹籠作りを見させてもらったが、その際に作っていたカオニャオ専用の蒸し器を実際に使って、上下を上手に裏返す場面を見ることができ、大変興味深かった。当然ながら、ガスはないのでかまどを使っての料理であったが、やはり幼少期から、このような自然の中での経験をすることで得られる気づき(例えば、かまどでいえば、物の燃え方、燃えやすい木のくべ方など)があると感じ、「体験より知識を！」と教室で教科書が中心にある日本の教育の在り方を考える時間になった。

朝食後は村のお寺まで散歩。ロンラオ村では精霊信仰が強く、仏教の文化はあまり浸透していないそう。山の奥の村の僧侶の生活も厳しいという話も聞いた。(托鉢で得られるごはんの量に限りがあることや、仏教の勉強に町まで降りなければならず交通の便が悪いことなど山奥ほど難しい。)どこも、都市部への人口流出があるのだな、島根県とも変わらないなと感じた。村に来る前に、少数民族の結婚のしきたりについて話を聞く機会があった。女性を山に3日間閉じ込めることができれば婚姻成功というものだった。日本で話を聞いた際には、「女性の人権の尊重がされていない！」と理解ができなかったが、村で1日過ごした後、同じ話を聞いた際には、「そういうこともあるかもしれないな」と心に落ちてくる感覚があった。日本と全く異なる文化に一日どっぷり浸かったことで、自分の受容力が上がったというか、日本の当たり前が当たり前じゃないからな、という気持ちが出てきたことが興味深かった。

クアンシーの滝は日本にはないスケール感。欧米の方が多い印象。ゴミ箱の設置も各所にあり、観光地の環境を守る取り組みもできているかと思った。

中間ふり返りでは、それぞれの校種・教科に合わせた授業の構想やこれから先の研修でどんなことに目を向けて教材を集めていくか、それぞれが発表し合った。いろいろな情報がたくさん入ってくるが、どのような授業に使えるかをその都度考える視点をもって取り込んでいきたいと今一度再確認した。



カオニャオの調理



クアンシーの滝にて

訪問先

- ①子ども文化センター (CCC)
- ②国立博物館

研修内容

- 草の根技術協力事業「少数民族児童の指導・学習環境改善事業（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会）」視察：CCCの活動内容を聞き、子どもたちの活動の様子や読み聞かせを見学した後で子どもたちと一緒にラオスの歌を歌った。また、そのあと公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の活動内容を聞き、少数民族の子どもたちへの教育の現状について学んだ。
- 国立博物館
JICA海外協力隊 宮脇好和隊員の活動視察。宮脇さんのガイドのもと国立博物館の見学を行った。

所感

子ども文化センター (CCC) は6～18歳の子どもたちが学校外の時間に集い、読書や伝統文化に触れることを通して情操教育を進めることを目的とした施設である。150人ほどの子どもたちが通っており、理科の部屋や読書室などが置かれていた。子どもたちへの読み聞かせにも参加させていただき、子どもたちが笑顔で声を上げて楽しんで聞いている姿が印象的だった。子どもたちのダンスや伝統舞踊を見せてもらった後に参加教員で練習したラオスの伝統的な歌を子供たちの前で披露し、交流を深めることができた。

また、シャンティ国際ボランティア会の活動拠点にも行かせていただき、少数民族の子どもたちへの教育状況とそれに対してどのような支援を行っているかを説明していただいた。中学高校での中退者が多いなど厳しい現状の中でも子どもたちのために本に触れる機会を増やしたり、災害支援などもされているという話を聞き、子どもたちの未来のために真摯に取り組まれる姿勢に感銘を受けた。

国立博物館では現協力隊員の宮脇さんのガイドのもと見学を行った。展示品についてユーモアあふれる解説をしていただき、ラオスの歴史についても理解をすることができた。宮脇さんは博物館の来場者が見学しやすいよう館内マップを作られたとのことで、自身にできることを考え、活動をされている姿が印象的であった。

この日のふり返りでは、少数民族の子どもたちが言語的な制約のためになぜ苦しめられなければならないのかという話が出た。CCCでも見た子どもたちの笑顔を守るためにも、誰もが安心して学べる環境づくりが大切だということを話し合った。



CCC の子どもたちとの交流



国立博物館での見学



8月13日 (火)

玉井 日向子

訪問先

- ①UXO-Laoビジターセンター
- ②UXO-Lao活動視察（不発弾処理）

研修内容

- UXO-Laoの職員による、ラオスの不発弾の歴史や現状、UXO-Laoビジターセンター設立の目的に関する説明を聞いた。また、被害状況に関するビデオを視聴した。
- 不発弾処理現場に移動し、説明を聞いた後、実際に不発弾処理を体験した。

所感

世界で最も空爆された国であるラオスには、ベトナム戦争時に米軍が投下した膨大な量の爆弾が、戦後約50年経過した今もなお不発弾としてラオスの人々を苦しめている。我々はラオスの負の遺産について学ぶため、ルアンパバーン県にあるUXO-Laoビジターセンターを訪問した。

建物に入りまず目に入ったのは、私の身長よりもはるかに大きな3つの爆弾の残骸である。その爆弾には、彫刻が施されており、その模様からは不発弾の被害者の人生を読み取ることができる。不発弾により大切な家族や友人、自分の夢を失った人。被害者の苦しみは想像に絶する。不発弾による年間死亡者数は平均200~300人程度であり、先月はルアンパバーン県で、子どもがクラスター爆弾をボールとして遊んでおり、1人が亡くなり、1人が眼を失ったようだ。

今もなお不発弾被害は後を絶たないが、ラオスの18個目のSDGsゴール「不発弾のない暮らしを目指して」のもと、UXO-Laoは様々な取組を行っている。不発弾撤去の活動以外にも、地域住民向けの啓発活動や地域の人々からの情報収集、不発弾発見時に迅速に対応する専門チームが結成されている。啓発活動が行われる前は、そもそも不発弾について知らない住民もいたようだ。

午後からは不発弾処理現場へ。現地についてまず求められたことは、血液型の記入だ。不発弾処理現場は命の危険と隣り合わせであることを改めて実感させられ、参加者の間に緊張が走った。その日はすでに3つの不発弾が発見されており、それらの不発弾処理を体験させていただいた。処理前には周辺住民への避難を放送で呼びかけ、安全を確保する。その後、職員の合図でボタンを押した。その瞬間、視界が揺れ、心臓に響くような爆発音が鳴り響き、体全体に振動が伝わってきた。驚きと恐怖で言葉を失った。不発弾の危険性や避難放送、強烈な爆発音が日常生活と隣り合わせの住民がいる。人生で初めて戦争の恐怖を体感し、その恐ろしさを身にしみて感じた瞬間だった。

これらの戦争の被害は決して他人事ではなく、我々にも関わることである。教師として子どもたちに「戦争」や「平和」について自分事として考えさせるためにできることは何か、改めて真剣に考える日となった。



UXO-Lao ビジターセンターでの集合写真



金属探知機で
不発弾を探す様子

訪問先

ルアンパバーン→ビエンチャンへ移動

- ①ワット・シェントーン
- ②教科書印刷会社
- ③パトゥーサイ
- ④手工芸品展示販売会

研修内容

- 托鉢体験、ワット・シェントーン見学（JICA海外協力隊の宮脇隊員による解説）
- 教科書印刷会社訪問（ラオスの子どもたちが学校で使用している教科書等の閲覧や購入）
- パトゥーサイの見学
- JICA海外協力隊員が関わるラオス手工芸品の展示販売会の見学

所感

8月12日（月）にルアンパバーン国立博物館を案内して下さった協力隊員として活動中の学芸員宮脇さんが、この日もワット・シェントーンを案内して下さることになった。「シェントーン」はルアンパバーンのかつての名称で「黄金の都」を意味している。壁には様々なモザイクが施されており動物や人々の生活、戦いの姿などが描かれていた。

午後からは4日間過ごしたルアンパバーンを後にし、ビエンチャンへと飛行機で向かった。ロンラオ村でのホームステイ、CCC、UXOでの体験・活動を通して、空の上から見るルアンパバーンの街並みが、4日前のワクワクした気持ちと大きく異なるものになっていると気付いた。自然豊かなこの緑の地にはまだ多くの不発弾が残っていること、そしてそこで暮らす人があたりまえのようにいること、未舗装道路や村で生活する人々の様子についてなど、4日間の出来事が走馬灯のように駆け巡り、約1時間の飛行時間があっという間だった。

ビエンチャンではラオスの子どもたちが学校で使用する教科書を販売している印刷会社を訪問した。ラオスでも日本と同じように義務教育期間（6～14歳）の子どもたちには教科書が無償で配布されることとなっているが、国の予算不足から一人一人に行き行き渡っていないのが現状である。今回の研修を通して、ラオス政府の財政が非常に厳しく、教育に十分な予算を付けられていないという話を何度も耳にした。ラオスの未来を担う子どもたちが十分な環境の中で学習できるようになる日はまだ遠いのかもかもしれないと感じると同時に、生まれて来る場所や環境によって受けることのできる教育に不平等が生まれてしまうという事実を実感し、やるせなさを感じた。

そしてその後はパトゥーサイを見学し、ラオスで特産品開発をしている協力隊が開催された手工芸品やお酒等の展示販売会を見学させていただいた。この販売会は地域特産品の販売促進支援、生産者の生計向上を目的として開催されており、ハンドメイドの織物商品は丈夫で質も良く、手作りの温かさも感じられ、ラオスの伝統産業の良さや魅力を再確認することができた貴重な経験であった。



ルアンパバーンでの托鉢体験



ワット・
シェントーン
本堂にて記念撮影



飛行機から見た
ルアンパバーンの町



パトゥーサイ（凱旋門）



手工芸品の展示販売会



8月15日 (木)

末村 和也

訪問先

- ①バンクーン教員養成校
- ②ナムグムダム第一水力発電所

研修内容

- バンクーン教員養成校を訪問し、副校長先生の誘導で施設内を見学。教員養成に関する質疑・応答をした後、JICA海外協力隊の山本佳奈隊員の活動について聴講した。
- 有償資金協力「ナムグムダム第一水力発電所拡張事業」を視察。発電所の概要に関する説明を聞き、動画を視聴した後、発電所の施設を見学した。

所感

首都ビエンチャンからバンクーン教員養成校のあるビエンチャン県まで車で約1時間半。草の生い茂る自然豊かな環境に養成校はあった。夏休みのため隣接する付属幼稚園や小学校に子どもたちの姿はなかったが、校舎内には「継続教育」として大学卒業と同じ資格を得るために、エアコンのない教室で夏期研修に励むラオスの現職の先生方の姿があった。養成校では生物、英語、ICT、ラオス語、幼児教育、初等教育の6科目の講義があり、日本の教員養成カリキュラムとの違いに興味や疑問を抱いている参加者が多かった。また、ラオスの教員不足の深刻さが分かった。高校卒業後に新規入学してくる生徒数は4-5年前まで1000人以上いたが、現在は95人という数字に衝撃を受けた。背景には経済的な負担や卒業後の採用の不安定さ、低賃金といった理由があると聞いた。日本も深刻な教員不足に陥っている現状があるが、国の発展のために人材育成は重要である。背景は異なるが、共通する「教員不足」という課題の解決のために、目先の解決ではなく長期的な視点を見据えた対策が早急に必要だと感じた。

JICA海外協力隊として派遣され、授業の補助や児童への支援等を行っている山本佳奈隊員からも話を聞いた。現地での活動の様子や長期的な目標達成のために各月の活動プランを設定されていることなど、意欲的な姿勢に刺激を受けた。また、授業方法のアドバイスを活用してもらえないことがあることや初等教育希望の学生がいらないことなど、現地での悩みも知ることができた。

ナムグムダム第一水力発電所では、はじめにダム建設に至るまでの背景や発電量、電力の輸出といった概要に関する動画を視聴した。乾期には他の発電所の水量が不足するためナムグムダムはフル稼働するそうで、ラオスの経済成長や人々の生活に重要な役割を果たしていることが分かった。また、説明の終わりに「日本のダム建設に関する援助について大変感謝しています」という言葉があり、数十年前に国際貢献されてきた先人の功績や、それに伴うラオスとの友好関係をとても嬉しく感じた。その後の施設見学では、タービンやダム湖の大きさを目の当たりにするとともに、湖上に太陽光パネルを設置する計画があることなど新たな知見を得ることができた。

過去に技術協力などで国際貢献されてきた日本人や、現在協力隊として活動されている日本人に触れる機会が多かった一日で、そのかっこよさを日本の生徒にも伝えたいと強く感じた。



教員養成校の校舎前で記念撮影



山本佳奈隊員の活動についての聴講



ナムグムダムの施設見学

訪問先

- ①リーガルプロジェクトオフィス
- ②JICAラオス事務所

研修内容

- リーガルプロジェクトオフィスにて法律専門家の矢尾板さんから技術協力プロジェクト「法の支配発展促進プロジェクトフェーズ2」について説明を受けたのち、質疑応答にて理解を深めた。
- JICAラオス事務所では、本研修にて各参加者が学んだことや授業での活用方法等について、一人一人がパワーポイント等にまとめてJICAラオス事務所のスタッフへ発表を行った。

所 感

リーガルプロジェクトオフィスでは、ラオスの法整備支援を行っている。一部の権力者による「人の支配」ではなく、誰もが納得することができ、国民全員の権利を守る「法の支配」が推進されることを目指し、1998年から活動を続けているそうだ。もともとラオスに存在した家族法や所有権、契約に関する取り決め等各分野の決まりを、民法という一つのものに矛盾なくまとめるという大変な業務。ただ決まりを作るのではなく、ラオスの人々の文化、価値観に合うものになるよう熟議していく。しかもそれを日本語、英語、ラオス語の三言語を用いながら、齟齬のないよう慎重に行う。想像しただけでも途方もないミッションだが、現在では法律の整備が進み、法の周知や人材育成に力を入れているそうである。

元検察官である法律専門家 矢尾板さんのお話を聞きながら、ラオスに住む人々が安心して共同生活を送れるように、そしてラオスという国家が自立していけるようにと願いながら、長い時間をかけ、多くの人々が協力して今があるのだということに胸を打たれた。今回の研修で訪問した他の施設についても同じことがいえるが、形だけの支援ではなく、真に他者の現在・未来の幸福を願い真摯に業務にあたる協力隊員の姿は輝いていた。自分にできることは何か考え、課題にぶつかっても他者と協力し乗り越えていく。素晴らしい活躍をしてきた日本人の姿を、帰国して子どもたちにも伝えたいと思った。

JICAラオス事務所では、これまでの学びをふり返し、一人5分ずつの発表を行った。自治体も校種も違う参加者10名。それぞれに視点や感じ方が違い、どの発表も大変興味深いものだった。このメンバーと一緒に研修ができたことの意義深さを改めて感じた。学びを広げ、深めてくださった山中信幸先生、JICA広島デスクの新庄さんにも心から感謝申し上げたい。



リーガルプロジェクトオフィス



JICA ラオス事務所での発表



女性陣はオーダーメイドのシンを着用

海外研修(ラオス)日程

日程	時間	内 容	移動・宿泊	
8月7日 (水)	午前	福岡空港を出発、タイ・バンコク経由でラオスへ	ビエンチャン	
	夜	ラオスの首都ビエンチャンのワットタイ国際空港に到着		
8月8日 (木)	午前	JICAラオス事務所 ブリーフィング		
	昼	【みんなのカフェ】で昼食、運営団体「ADDP(アジアの障害者活動を支援する会)」の活動視察		
8月8日 (木)	午後	【JICA事業視察】 チナイモ浄水場訪問 「水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU3)」(技術協力プロジェクト)		
	早朝	トンカンカム市場見学(希望者のみ)		
8月9日 (金)	午前	【JICA事業視察】 セタティラート病院訪問 「セタティラート病院及びチャンパサック県病院整備計画」(無償資金協力) 「看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト」(技術協力プロジェクト)		
	13:30 ↓ 16:00	【JICA事業視察】 ラオス日本センター(LJI)訪問、学生との交流 「ラオス日本センタービジネス人材・ネットワーク強化プロジェクトフェーズ2」(技術協力プロジェクト)		
8月10日 (土)	午前	ビエンチャンを出発、空路ルアンパバーンへ		ビエンチャン ↓ ルアンパバーン (ロンラオ村ホームステイ)
	午後	【JICA事業視察】 「ルアンパバーンの公認ガイドの技術向上を目指したインタープリテーション トレーナーの養成事業(一般社団法人エコロジック)」(草の根技術協力事業) ロンラオ村にてホームステイ		
8月11日 (日)	朝	ホームステイ終了、ロンラオ村を出発		ルアンパバーン
	午前	クアンシーの滝見学		
	午後	ホテルにて研修の中間ふり返り		
8月12日 (月)	午前	【JICA事業視察】 子ども文化センター(CCC)訪問、子どもとの交流 「少数民族児童の指導・学習環境改善事業(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会)」(草の根技術協力事業)		ルアンパバーン
	13:30 ↓ 15:30	【JICA海外協力隊活動視察】 国立博物館訪問		
8月13日 (火)	午前	UXO Laoビジターセンター訪問		ルアンパバーン ↓ ビエンチャン
	午後	UXO Laoが活動する爆破処理現場の見学		
8月14日 (水)	早朝	托鉢体験(希望者のみ)	ルアンパバーン ↓ ビエンチャン	
	午前	ワット・シェントーン訪問などルアンパバーン散策		
	午後	ビエンチャン市内見学(パトゥーサイなど)、教科書印刷会社にて教材購入 JICA海外協力隊員が参画する伝統工芸品の展示・販売会の見学		
8月15日 (木)	午前	【JICA海外協力隊活動視察】 バンクーン教員養成校訪問	ビエンチャン	
	午後	【JICA事業視察】 ナムグムダム訪問 「ナムグムダム第一水力発電所拡張事業」(有償資金協力)		
8月16日 (金)	午前	【JICA事業視察】 リーガルプロジェクトオフィス訪問 「技術協力プロジェクト：法の支配発展促進プロジェクトフェーズ2」	ビエンチャン ↓ タイ・バンコク	
	午後	JICAラオス事務所にて研修報告		
	夜	ビエンチャンのワットタイ国際空港を出発、タイ・バンコク経由で日本へ		
8月17日 (土)	朝	福岡空港着、帰路へ		

学びのプログラム



異文化理解～世界と教室をつないで～

はじめに

異なる文化を理解し、尊重し合うことは、グローバル化が進む現代において、他者との円滑なコミュニケーションや共生を可能にするために不可欠である。学校教育においても、子どもたちが世界の多様な文化に触れ、他国の人々と交流することを通じて、共感力や柔軟な思考を育てることが求められている。しかし、私が通う小学校では、海外とのつながりが希薄であり、子どもたちにとって異文化に触れる機会は限られている。このような背景を受け、実際に海外の子どもたちと交流し異文化理解を深めることを目的として、教材作りに至った。

この教材の使い方

この教材は、小学校中学年を対象としている。中学年は、自分の身の回りの世界から少しずつ外へと興味や関心が広がる時期である。この段階では、「他者理解」「異なる文化への興味関心」を育てることが重要だとされる。この時期の子どもたちの異文化に対する興味関心を育てていくために、映像や写真、歌などのクイズやオンライン交流を楽しみながら行い、異文化理解を深めて欲しいと思う。そして、子どもたちの「楽しい!」「もっと知りたい!」というポジティブな気持ちを育むことを狙いとした授業にしたい。

全体のねらい

子どもたちがラオスの文化や生活について学び、異文化理解を深める。ラオスという国について知るだけでなく、自分たちの文化との違いを実感し、他国の人々との交流を楽しみながら、他国に住む人々を尊重する心を育むことを目指した。

アクティビティ1 「ラオスについて知ろうクイズ」

●概要

このアクティビティは、ラオスの衣食住や文化について楽しく学びながら、異文化理解を深めることを目的としている。日本との違いや共通点に気づき、多文化への関心を育てる。また、クイズ形式にすることで、子どもたちが主体的に学べるようにしている。

●ねらい

日本とラオスの文化の共通点・相違点を考えることを通して、海外の人々や文化に親しみをもつ。

●主な対象

小学1～6年生

●用意するもの

- ・パワーポイント（ラオスについてのクイズ、日本とラオスの違いクイズ）（P22～24）
- ・ラオスと日本の国旗：それぞれグループ数分

● 所要時間

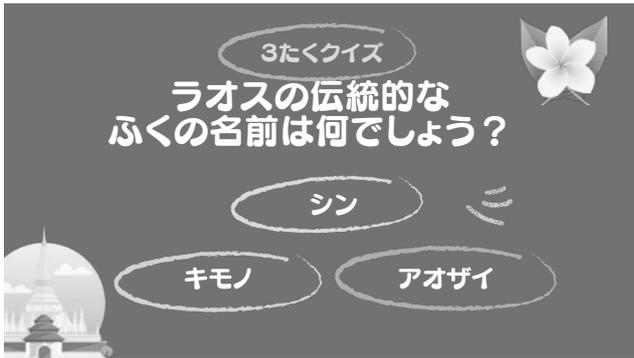
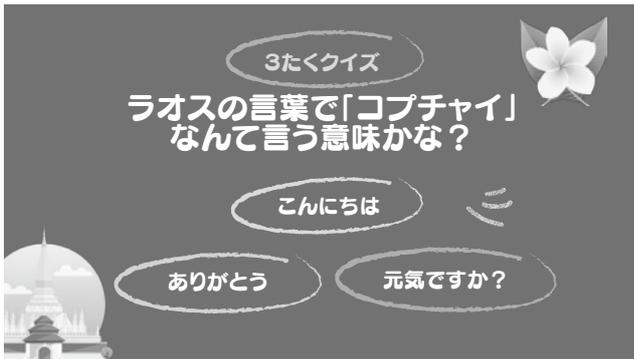
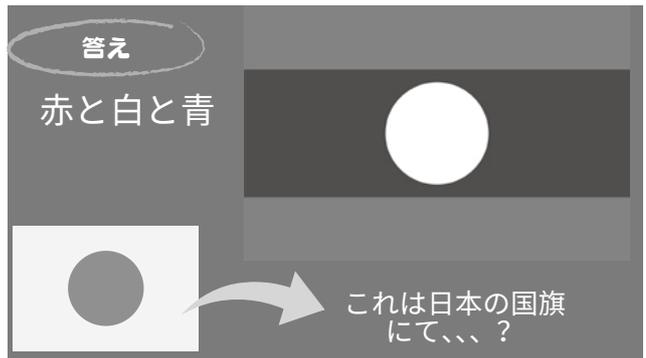
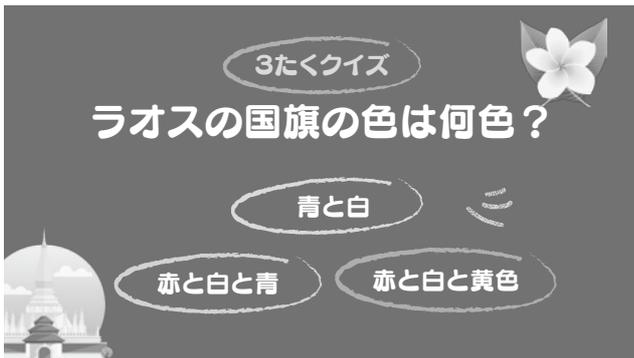
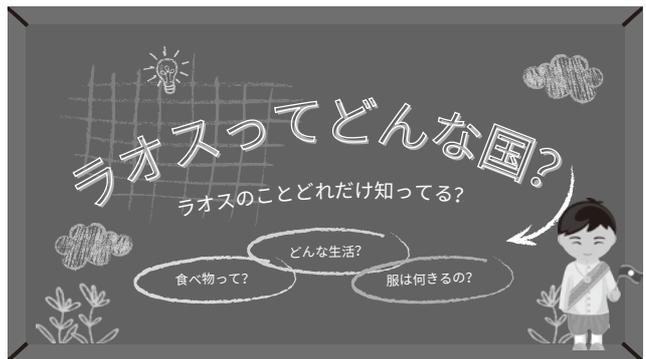
30～45分

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 海外について知っていることを共有し、ラオスという国の概要を知る。 「ラオスって国を知っていますか？」 「ラオスの場所は日本からみてどこに位置してるかな？」</p> <p>2. 本時のめあてを確認する。 「ラオスについて知ろう。」</p> <p>3. パワーポイント（P22～）を使って3択クイズを提示する。 「ラオスの衣食住についてのクイズをします。日本と同じかな？」</p> <p>4. グループ毎に3つの選択肢のうちどれを選ぶかについて話し合い、グループ毎に答えを発表する。</p> <p>5. 「これは日本かな、ラオスかなーはたあげクイズ」のスライドを提示する。 「今から写真を見せます。ラオスの写真だと思ったらラオスの旗を、日本の写真だと思ったら、日本の旗をあげてください。」</p>	<p>予め4人程度のグループに分けておく。 世界地図を掲示し、ラオスの位置を確認することで、興味関心を促す。</p> <p>「3択クイズ」「写真クイズ」などのクイズを行う。学年の実態、所要時間に合わせてこれらのクイズから適宜問題を選んでよい。</p> <p>クイズの選択肢に番号を振っておき、児童が指で1、2、3と示すことで、自分たちの答えを表現することもできる。</p> <p>グループにラオスと日本の国旗を1つずつ配り、相談しながら回答することを伝える。 写真を見て、気付いたことを交流させる。</p>
<p>ふり返し クイズを通して、ラオスについてわかったこと、日本とのちがいや同じところなどを、ロイロノートを使用し、ふりかえる。</p>	<p>次時ではオンライン交流でラオスの小学校とつながることを告知し、聞いてみたいことや疑問に思ったことも、ふり返りに記入させ、次時への見通しを持たせる。</p>

パワーポイント（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。



3たぐクイズ

ラオスの市場では、
どんなものが買えるかな？

車

電化製品

肉や野菜




答え

肉や野菜




3たぐクイズ

ラオスのいなかでは、どんな家に
住んでいることが多いでしょう？

木でできた
高床式の家

石でできた
大きな家

テント




答え

木でできた高床式



ねる部屋はこんな感じ！
これは、かやというよ！

キッチン
外にあったよ！




3たぐクイズ

写真のキーホルダーは
何でできているかな？

ばくだんのはへん

ゴミ

動物のほね




答え

ばくだんのはへん
(ふはつだんのはへん)

ラオスでは
昔、大きなせんそうがあつて、
2億6000万こもばくだんが
おとされました。今でも、80
00万こ、ばくはつしてなくて、
地面にうまったままです。




これは日本かな？
ラオスかな？

はたあげクイズ





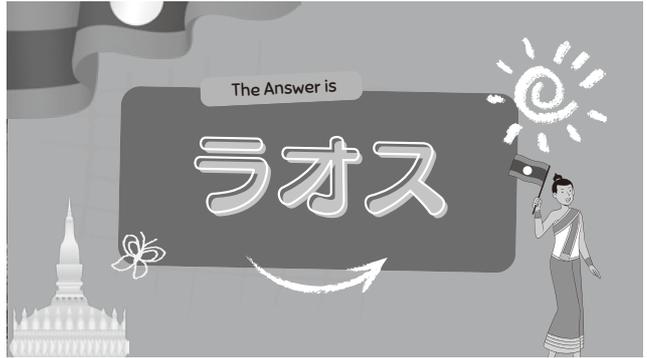


The Answer is

ラオス



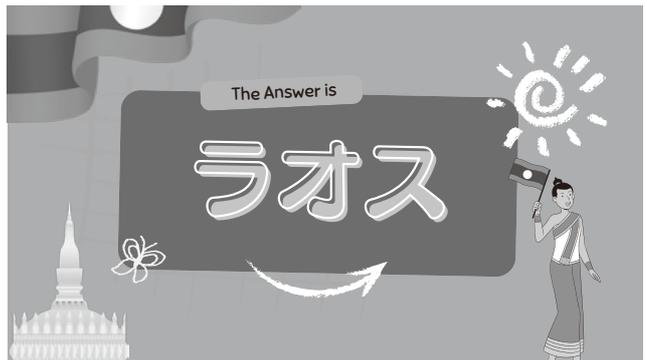
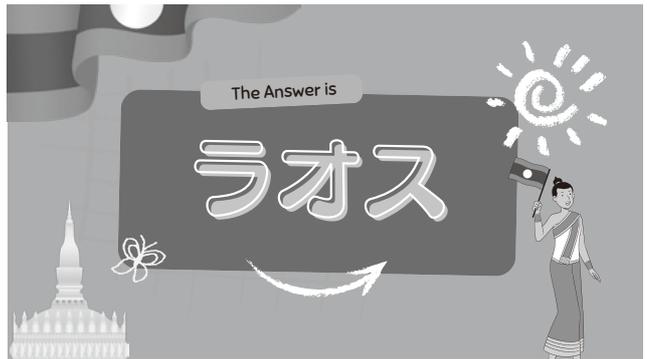




日本の会社(トヨタやホンダ)が
ラオスにはたくさんあるよ！
道路も日本の車がたくさん走っ
てました！



日本のJICAという団体はラオス
の人々のために、教科書を作った
り、子どもたちが学校に行けるよ
う支援したりしてるよ！



アクティビティ2 「画面の向こうに広がる異文化（ラオスとのオンライン交流）」

●概要

本授業では、ラオスの小学生とのオンライン交流を通して、子どもたちが異文化に触れ、相互理解を深めることを目的とした。事前学習として、ラオスの生活や文化についてのクイズを行い、食べ物や学校生活、住まいなどについて学んでいる。交流を通して、異文化に触れる楽しさや、言葉や文化が違っていても心を通わせることができるという貴重な経験を得ることができる。JICA主催の「国際協力出前講座」といった、様々な国とつながることができるプログラムがあるので、ぜひ活用してほしい。

●ねらい

ラオスの子どもたちと直接交流することで、言葉や文化、生活習慣の違いを学びながら、互いの文化を尊重する態度を育てる。

●主な対象

小学1～6年生

●用意するもの

- ・タブレット（使用アプリ：Google Meet）
- ・折り紙

●所要時間

30～45分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 授業の目的を共有する。また、事前学習（アクティビティ1）で学んだラオスの生活や文化を簡単にふり返る。	相手国の挨拶や礼儀に関する基本的なルールを事前に学び、失礼がないように声かけをしておく。
2. オンラインを接続し、ラオスの子どもたちとの交流を開始する。	
3. 自己紹介を行う。最初に日本側の児童が自己紹介をし、名前や好きなものを簡単な言葉で伝える。ラオスの児童からも自己紹介してもらい、お互いの名前を覚える時間を作る。	

<p>4. 日本の文化紹介を行う。</p> <p>①リコーダー、歌の披露</p> <p>②折り紙（紙飛行機）の紹介</p> <p>5. ラオスの友だちからも文化紹介をしてもらおう。 （歌の披露など）</p>	<p>リコーダーを演奏し、「さくら」を歌う。 折り紙を作る様子を実際に見せ、作り方を簡単に説明する。</p> <p>※今回はラオスの歌「ホックハックサム」の歌唱があった。</p>
<p>ふり返り</p> <p>ロイロノートに感想を書き、日本のクラス内で共有（交流）する。</p>	

● 解 説

- ・ 事前準備として、インターネットの接続やカメラ、マイクの動作確認を行い、スムーズな通信ができる環境を整えておく。
- ・ 文化の違いに驚いたり、否定的な発言をしないよう事前に話しておき、お互いの文化を尊重する態度の大切さについて話しておく。また、相手国の挨拶や礼儀に関する基本的なルールを事前に学び、失礼がないようにする必要がある。

※今回、子どもたちが質問を考えるために、事前指導として、交流するラオスの小学生の写真を何枚か見せた。



教室の様子（板書に注目させ、どんな言葉がかかれてあるのか予想させたり、日本の教室とのちがいや着ている服に注目させたりした）



売店の様子（おかしを買いにきている。ラオスと日本のちがいを写真を通して視覚的に考えさせた）

●資料

①オンライン交流の前に、以下の情報を伝えた。

- 相手国のあいさつ…親しみをもってもらうために、ラオスのあいさつや感謝の気持ちをあらわす言葉を全体で確認した。
- 礼儀…日本では、あいさつするときにおじぎをするが、ラオスでは、手を合わせる挨拶をすることを伝えた。
- オンラインでの基本的なルール
 - ・挨拶するときのポイント…相手の目を見て、はっきりと「こんにちは」と言おう！
 - ・ラオス語で「サバイディー」と言うと喜ばれるよ！
 - ・話すときの注意点。順番を守る。相手が話しているときは静かに聞こう。
 - ・ゆっくり、はっきり話そう。

②自己紹介や質問内容を予め考えておく。今回児童が考えた質問は以下のようなものがあった。

- ・ランドセルはある？
- ・どんな遊びがある？
- ・お昼ごはんは学校で食べる？
- ・学校の広さは？
- ・休み時間は何をするの？
- ・授業は何時間あるの？
- ・下校時間は何時？
- ・ラオスの売店には何があるの？
- ・ラオスの学校は何階建て？
- ・ラオスの学校にも給食はあるの？
- ・ラオスの学校に授業はいくつある？

実践事例報告

プログラム作成・実践者

上杉 卓

学校名

高知市立泉野小学校

担当教科

全教科

実践教科

外国語、総合的な学習の時間

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ：「ラオスと日本をつなぐ ～オンライン交流で広がる世界～」

(2) 単元のねらい

- ・教師海外研修で学んだラオスの文化や子どもたちの生活について知る。
- ・異文化交流を通じて、相手を尊重する心や自分の思いを伝える力を育てる。
- ・日本とラオスの文化の違いや共通点を発見し、広い視野を持つ。

(3) 概 要

交流相手：ラオス ノーンメンダーの小学校 4年生

交流方法：オンラインビデオ通話 (Google Meet)

活動内容：1. 自己紹介：お互いに名前や好きなことを伝え合う。

2. 日本の文化紹介：リコーダー演奏や折り紙で日本文化の紹介。

3. ラオスの文化紹介：ラオスの歌を聞く。

4. 質疑応答：お互いに質問し合い、交流を深める。

(4) 指導上の留意点

- ・子どもたちが緊張せずに自分の思いを伝えられるようにサポートする。
- ・ラオスの文化や生活について、事前学習を行い、興味・関心を高める。
- ・言葉が通じにくい場面では、ジェスチャーや絵などを活用して伝える工夫をする。

(5) 児童の感想や学び・気づき

- ・最初は緊張したけど、うまく自己紹介できて嬉しくなりました。日本の小学校もいいけど、ラオスの小学校もいいなと思いました。
- ・大きな声でラオスの友だちに伝わるように自己紹介や質問できたのでよかったです。ランドセルではなく、リュックで学校に行くことを知って、日本の小学校とちがうところもあって驚きました。
- ・折り紙をつくる時、うまく伝わるか不安だったけど、ジェスチャーをしたり折り方をよく見せたりしたら、ラオスの友だちも上手に紙飛行機をつくらせてくれたので、嬉しかったです。
- ・ラオスの友だちが、日本語であいさつしてくれたことが嬉しかったし、ラオス語であいさつしたときに相手も反応してくれたことがとても嬉しかったです。

【授業実践をした上での感想・ふり返し】

今回のオンライン交流授業では、ラオスの小学生とつながることで、子どもたちが異文化に触れ、互いの違いを認め合いながら理解を深めることを目指した。初めてのオンライン交流ということもあり、授業の最初は子どもたちも緊張した表情で画面を見つめていた。しかし、自己紹介が始まると少しずつ笑顔が見られるようになり、「自分の名前を英語で伝える」「好きな食べ物を紹介する」といった活動を通して、緊張がほぐれていったように思う。

次に行った日本の文化紹介では、子どもたちがリコーダーを演奏したり、折り紙を披露した。特に折り紙の時間で紙飛行機を作って飛ばした場面では、ラオスの子どもたちが画面越しに興味津々で見つめ、驚いた表情を見せる姿が印象的だった。ラオスの子どもたちが歌を披露してくれた際には、日本の子どもたちが真剣に耳を傾け、文化の違いを楽しんでいる様子が見られた。質疑応答では、「ラオスではどんな遊びが人気なの?」「学校は何時に始まるの?」など、子どもたちから積極的な質問が飛び出し、興味や関心が自然に引き出されていた。最初は恥ずかしがっていた子どもも、交流の終わりには「もっと話したい!」「また会いたい!」と目を輝かせていた。

この授業を通じて、子どもたちは異文化を知る楽しさやコミュニケーションの大切さを学んだように感じている。また、自分たちが日常的に過ごしている環境や文化が、他国では当たり前ではないことに気づき、視野が広がるきっかけにもなったと感じている。今後もこのような交流の機会を大切に、子どもたちが世界に目を向け、異文化理解や他者を尊重する心を育てられるような学びを提供していきたい。



「豊かな暮らし」とはどのような暮らしだと思いか、 考えを広げよう・深めよう

はじめに

私は児童一人一人が、生涯にわたって幸せになってほしいと願い、日々教育活動に携わっている。JICA教員海外研修の事前研修や実地研修を通して、多くの場面で「幸福の価値基準とは何か?」「豊かに生きるとはどういうことか?」と考えさせられた。近代的で衛生的、ものにあふれていて一見「豊か」なように思える日本だが、2024年の世界幸福度ランキングでは143か国中51位となっている。一方、アジア最貧国といわれるラオスを訪れると、便利で快適とは言い切れない生活を送っているように思われたが、多くの人々は笑顔で温かく私たちを受け入れてくれ、隣人と支えあって生活し、彼らの時間は余裕をもってゆったりと流れているような気がした。

幸せとは何か?豊かに生きるとはどういうことか?一人一人にとってその答えはさまざまであろうし、答えを見つけることは容易ではないが、問いをもち答えを探究し続けること、他者の考えを受け入れ新たに見方を広げていくことが、幸せに生きることにつながると感じた。

多様な価値観や考え方にふれたり、自分の思いを言語化したりすることで、新たな答えを見つけ、よりよい自己の生き方を考え行動できるようになってほしいと願う。

この教材の使い方

本教材はラオスを訪問して見聞きしたこと、体験してきたことをもとに作成したため、ほぼすべてがラオスについての内容となっている。しかし、対象の児童生徒に応じて、学習したい国や指導者が行ったことのある国などの内容に差し替えたり、補足説明を加えたりすることでアクティビティを行うことができるので、アレンジして活用してほしい。

全体のねらい

- ・ラオスについて知ったり、日本と比較して考えたりすることを通して、人々の文化や生活、考え方は多様であると理解するとともに、世界の国々に興味関心をもつ。
- ・「幸せ」「豊かさ」とはどのようなものか考えることを通して、良い生き方について考えを深める。

アクティビティ1 「ラオスについて知ろう！」

●概要

本単元の学習の導入として取り扱う。

●ねらい

ラオスについて知ったり、日本とラオスとを比較して考えたりすることを通して、世界の多様性を感じるとともに外国への興味・関心を高める。

●主な対象

小学生

●用意するもの

- ・パワーポイント（P32～33）
- ・伝統衣装、お札、工芸品など

●所要時間

45分

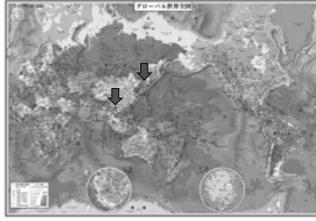
●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<ol style="list-style-type: none">1. ラオスの基本情報（パワーポイント 1～9 / P32）について知る。2. パワーポイントの写真（P33）を提示し、それぞれの写真が撮影されたのは日本・ラオスのどちらかを考える。3. 教師の経験したことや訪問の感想について話を聞く。	<p>児童に知っていることを尋ねたり、答えを予想させたりしながら、発言しやすい雰囲気をつくる。</p> <p>日本・ラオスのどちらだと思うかを挙手させ、意思表示を促し全員が参加できるようにする。クイズの答えを示しながら補足説明を加え、ラオスについてさらに興味関心が高まるようにする。</p> <p>写真よりも、動画や実物があるとより伝わりやすく、興味関心を高めさせることができる。</p>
<p>ふり返り</p> <p>授業の感想をノートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none">・知る前と後で自分の気持ちやイメージにどのような変化があったか。・疑問に思ったこと、もっと知りたいと感じたこと。	<p>さらに詳しく知りたい、調べてみたいと思ったことについては、別で時間を取りインターネットや書籍を使って調べ学習を行うとよい。</p>

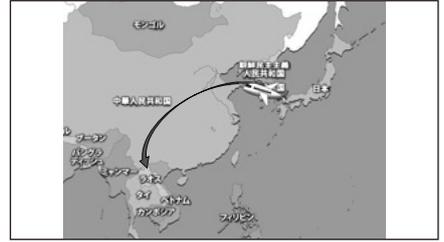
パワーポイント (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

ラオスについて知ろう！



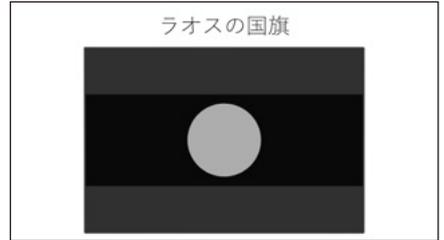
日本とラオスの位置



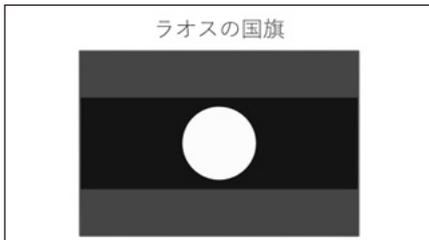
日本からの移動にかかる時間



日本とラオスとの時差



(白黒で表示する)



ラオスの国旗



ラオスの国土面積



ラオスの人口

クイズ！
ラオスでしょう？
日本でしょう？



ラオスで走るトヨタのハイエース



福岡県上空からの街の様子



ビエンチャン上空からの街の様子



山口県秋吉台のカルスト台地



ラオス上空からの山の様子



メコン川



山口県秋吉台サファリランド



ラオスを走る原付



ラオスを走るトラック（荷台に乗る人）



ラオスのセブンイレブン



ルアンパバーンの市場の様子



ルアンパバーンの屋台寿司



市場で売られる昆虫（食材）



屋台の昆虫スナック



ラオスの紙幣（多民族の女性）



工芸品のコースター・ランチョンマット



夜市のおみやげ物

●資料・解説

【ラオスの基本情報】

- ・ラオス民主主義人民共和国 面積：約24万平方キロメートル（日本の本州くらい）
（東南アジアの内陸国）
人口：約740万人（埼玉県民くらい）
首都：ビエンチャン
通貨：キープ（1,000キープ=約7円）
- ・ラオスの国旗の赤色：独立闘争で流された血や犠牲、青：メコン川や国の繁栄、白：平和、輝かしい未来の展望、白い丸：満月、共産主義 をそれぞれ表している。
- ・ラオスは5つの国に囲まれた内陸国であり、アジア最貧国といわれている。
- ・ラオス国内では、トヨタのハイエースやハイラックスがたくさん走っている。電化製品も、日本製品が多く使用されていた。
- ・ラオス国内の道路は様々な国の支援で整備されている。そのため、様々な国の様式の信号機が設置されている。交通ルールについての取り締まりは甘く、事故も多い。
- ・ラオスには海がないため、魚は川魚を食べることが多い。冷凍で輸入する海水魚が提供されるお店もある。
- ・ラオスでは昆虫食が一般的であり、市場では様々な種類の昆虫が売られている。調理されたものが売られている屋台もあるが、地元の人々は新鮮なものを食べるために生きたままの昆虫を購入することが多い。
- ・ラオスはおよそ50の民族が暮らす多民族国家であり、1,000キープ（約7円）紙幣には様々な民族衣装を着た女性たちの姿が写されている。
- ・ラオスは優れた織物の産地で、手先が器用な労働者が多い。

【児童に伝えた教師の体験談、感想】（写真、動画を交えて紹介）

- 食事について……………カオニャオというもち米が主食で、手を使って食べたこと
フルーツが大きく立派でおいしく、特にマンゴーをたくさん食べたこと
昆虫食が一般的で、屋台で買って食べてみたこと
おいしい料理やお酒が多く、太って帰ってきたこと
- ホテル滞在について…エアコンが使用でき、お湯も出て快適だったこと
水道水は飲むことができず、毎日ミネラルウォーターを飲んだこと
家電に日本製品が多かったこと
- 人々について……………朗らかな表情の人が多く、せかせかしていなくて幸せそうだと感じたこと
ホテルのスタッフや移動車の運転手さん、ガイドさんが親切にしてくれたこと
- その他……………市場には生肉が並んでおり、においがすごかったこと
セブンイレブンには多くの商品が並んでおり、想像より発展していると感じたこと

アクティビティ2 「ロンラオ村を開発しよう」

●概要

「豊か」とはどういうことか、考えを深める。

●ねらい

ダイヤモンドランキング、家族コメントカードを読むことを通して、世界の人々が豊かに生きるために大切なものは何だと思うか考えを深める。

●主な対象

小学生

●用意するもの

- ・パワーポイント (P41~42)
- ・開発カード (P37)：グループ数分 (9枚1セット)
- ・ダイヤモンドランキングの台紙 (P38)：グループ数分
- ・SDGs17の目標のポスターなど (パワーポイントに入れても良い)
- ・ラオスの家族、日本の家族のコメントが書かれたカード (P39)：グループ数分
- ・ワークシート (P40)：全員分

●所要時間

90分 (45分×2回)

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
1. ロンラオ村について知る ・ 周囲の環境 ・ 家の様子 ・ 村の中の様子 ・ 水事情	スライドショーを使って説明する。実際にホームステイしてみて感じたこと、考えたこと、他の参加者の所感なども伝えた。
2. 自分ならどのように村を開発していきたいか、グループで意見を出し合う。	考えのヒントとなるよう、SDGs17の目標が描かれたポスター等を掲示する。
3. 班で出た意見を全体で共有する。	出た意見は肯定的な言葉で受容し、近しい意見をグルーピングしながら板書していく。

<p>4. 開発の案の中から特に賛成の多かった9つに意見を絞り (P37「開発カード」)、班ごとに話し合いをしてダイヤモンドランキングを作成する。</p> <p>5. どのようにランキングしたのか、なぜそのようなランキングにしたのかを全体で共有する。</p> <p>6. 家族コメントカードをグループに配布する。児童はコメントを参考に、活動の中で「豊かさ」とはこういうものかな?と気づいたことをワークシートに記入する。</p>	<p>対象児童の実態に応じて、教師側が意見を9つに絞っても、児童に選ばせてもよい。時間内にダイヤモンドランキングが完成しなくてもよい。意見をまとめることが重要なのではなく、自分の意見を出し、他者の意見を聞いて話し合うことが大切であるということを児童に伝える。</p> <p>日本とラオスを比較することで、自分たちの生活で当たり前だと思っていたことがそうではないということに気づけるようにする。日本・ラオスそれぞれの生活の中にある「豊かさ」を見つける。</p>
<p>ふり返し 授業を通して感じたこと、思ったことを記入する。</p>	

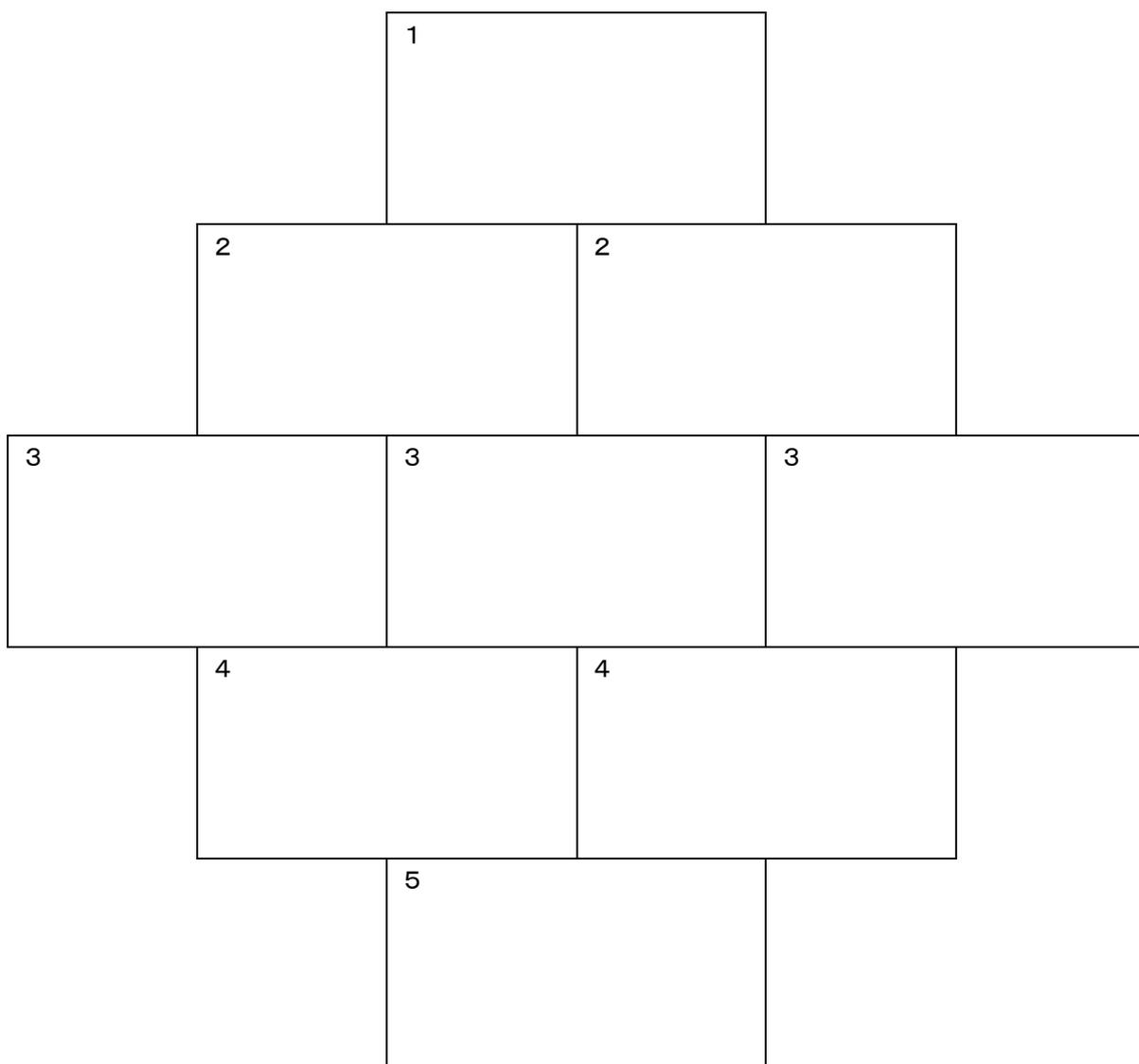
開発カード（見本）

※下記は児童から上がった意見をもとに、作成者が加筆修正したものです。

※グループ数分コピーをして、予め切り離しておくこと。

大きなスーパーを建て、 いろいろな食べ物が 手に入るようにする	電線をたくさん通して、 どの家も照明やコンセントを 使えるようにする
図書館を建て、 いつでも読書や勉強を できるようにする	病院を建てて いつでもちりょうを うけられるようにする
雨風がしのげる じょうぶな家を建てる	村から街への道をせいびして 仕事や遊びに 行きやすくする
アンテナを建てて テレビやインターネットを 利用できるようにする	ごみしより場を建て、 村のごみを 分別、しょぶんする
浄水場を作り、 おふろやキッチンで 水を使いやすいようにする	

ダイヤモンドランキングの台紙



どうして1位をこれにしたの？

どうして5位をこれにしたの？

家族コメントカード

※グループ数分をコピーしてください。

ラオスのあるお父さん

わたしの仕事しごとは、かごをあむことです。あんだかごを、月に1回まちへ売りに行きます。
 収入しゅうにゅうは少ないですが、家族と一緒に野菜を育て、村の人たちと協力きょうりよくしているので、食べるものにはそこまで困こまっていません。

ラオスのある女の子

私は10才です。いつも家の農業のうぎょうを手伝っているので、小学校へは行けていません。字が読よめないなので、大人になっても農業のうぎょうをして生きていくと思います。村には友達ともだちがたくさんいて、ねる前まで外で一緒に遊いっしょびます。

ラオスのある男の子

ぼくの家族きんじょはご近所なかよさんと仲良しで、夕方になるとよくみんなで集あつまって、一緒にご飯はんを食うたべたり歌うたったりしてすごします。そこでよくユーチューブを一緒に見ますが、ぼくの家にはテレビもスマホもありません。

ラオスのあるお母さん

私は山の上にある村すに住んでいます。私は自宅じたくで出産しゅっさんをしました。出血しゅっけつがひどくてあやうく命いのちを落おとすところでしたが、村の仲間なかまが助けてくれました。病院びょういんは遠いし道とおも悪いので、行くことはありません。

日本のあるお父さん

わたしの家の周りまわには、駅えきや学校、病院びょういん、大型のショッピングモールがあります。休日おおがたには家族で買い物べんりに出かけます。生活するには便利べんりですが、夜でも交通量こうつうりょうが多く、車の音はいきや排気ガスが気になっています。

日本のある男の子

ぼくはゲームが大好きです。学校や習い事ならの時間以外ごとはいつでもゲームをすることができじかんいがいます。土日かしにはお菓子とジュースともだちをもって友達の家へ行き、一緒にゲームいっしょをして遊いっしょびます。

日本のあるお母さん

私の家族しゅじんは主人と子ども2人の4人家族です。家族のためにご飯せんたくをつくったり洗濯せんたくをしたりと、家事かじはほとんど私しゅじんがします。仕事で主人おその帰りは遅いですが、家族は仲良かぞくく、夏休みになかよは毎年大阪おおさかや沖縄おきなわへ旅行りょこうに行きます。

日本のある女の子

私は高校生こうこうせいです。週に4日、じゅくに通かよっています。家族や友達とすごす時間はへってしまったけど、医者いしやになって人の命いのちを助ゆめけるという夢をかなえるためにがんばっています。

総合学習

名前()

④

豊かかって、こんなこと？



⑤

パワーポイント（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

ロンラオ村の
ホームステイ生活

※どうすれば、ロンラオ村のくらしが
もっと豊かになるか、
考えながら写真を見てみよう



ロンラオ村までの道中



ロンラオ村入り口、民族衣装



村の中に住む水牛



村の中に住む猫、鶏



村で一番大きな家



集会所での夕食会の様子



村の商店に集まる子供たち



村の中で遊ぶ子どもたち



スマホゲームをする子どもたち



屋外で調理する様子



屋外で調理する様子



夜の商店兼調理場



村の一般的な家の中の様子



村の共同水栓



ホームステイで宿泊した小屋の様子



村の共同トイレ



村の中に散乱するプラスチックごみ



●資料・解説

【ロンラオ村に実際にホームステイしてみて感じたこと、考えたこと、村で過ごしてみたの感想】

- ・ロンラオ村はルアンパバーン群市街地から車で1時間ほどの場所にある。
- ・村までの山道は舗装されておらず、大きな溝がたくさんあった。雨の日にはタイヤがぬかるみにはまり動けなくなることもある。
- ・ロンラオ村には「ラオ族」が住んでいる。歩いてすぐの場所に隣の村があり、「モン族」が暮らしており、そこには学校がある。学校周辺ではWi-Fiを使用することができる。
- ・村では農業を行うために水牛を放し飼いしている。農業機械はなく、水牛の力を借りながら手作業で作物を栽培、収穫している。
- ・村には一軒の商店があり、村人は消耗品や食料品などを購入している。村長さんの家族が商店を経営しており、村の中で一番大きな家に住んでいる。その家と村の集会所には電線がひかれ、冷蔵庫や照明、無線LANを使用することができる。その他の家には電気は通っていない。
- ・村の子供たちは学校で教育を受けている。ラオス国内の識字率は80%ほど。学校では基本的にラオ語が使用されている。モン族の村にいた12歳の女の子とは、英語でコミュニケーションをとることができた。
- ・ラオスの子供たちは学校が好きの子が多く、いじめはほとんどない。(ラオス教育政策アドバイザー長岡さんのお話より。)しかし、農業など家業を手伝うために学校に行くことができない子もいる。
- ・村にガスは通っておらず、焚火で調理をする。
- ・水道はなく、地下水を貯めている共同水栓の水を使って調理や水浴びなどを行う。トイレでも、バケツで汲んできた水を使用し排泄物を流していた。
- ・村の商店ではプラスチックで包装された商品も販売されている。村ではゴミをゴミ箱へ入れたり分別したりする習慣がなかったため、村のいたるところにゴミが散乱していた。
- ・村にはないものについても伝える。(病院、郵便局、役所、銀行、浄水場、発電所など)
- ・夜には虫の声、朝には動物の鳴き声が聞こえた。大自然の中で過ごすのは、キャンプをするみたいで楽しかった。子どもたちとの遊びや調理の場面では、少ない道具を工夫して活用し生活する面白さを感じた。「便利=幸せ」ではないと感じた。
- ・水回りの設備が日本と比べて乏しく、入浴や排せつには心理的な抵抗感があった。それを楽しめる参加者が多かったが、私は「日本っていいなあ」と思ってしまった。
- ・お昼の暑い時間には、現地の人は暗く涼しい部屋に集まってカラオケを楽しんでいた。涼しくなったら外に出て活動する。日本人の生活と比べてのんびりしていて、羨ましいと思った。

実践事例報告

プログラム作成・実践者 黄 杏子

学校名 山口市立上郷小学校

担当学年 4年生

実践教科 総合的な学習の時間

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

「豊かなくらし」について考えを深めよう。

(2) 単元のねらい

ラオスの街の様子やロンラオ村での生活、日本やラオスにおける国際協力などについて知り、村をどのように開発したいかを話し合ったり、日本のくらしとの相違点について考えたりすることを通して、「豊かなくらし」とはどのようなものか考えを深め、これからの生き方をよりよくしようという気持ちを育てる。

(3) 概要 全4時間

① スライドショーでラオスクイズや動画の紹介を見たり、ラオスのお札や籠、布など実物に触れたりすることを通して、ラオス国内の様子や人々の暮らし、文化などについて興味関心を高め、理解を深める。(アクティビティ1)

- ・ラオスの人口、国土の広さ
- ・日本からの距離、時差
- ・交通事情
- ・市場の様子、食文化
- ・民族と手工芸品
- ・現地の人々の様子

② 国際協力について、日本の戦後復興が外国の支援によって進んできたことや、これまで日本がラオスに対する様々な支援を行っていること、現在多くの日本人が海外青年協力隊としてラオスに派遣され活躍していることを知る。

- ・日本の戦後復興（ダム、新幹線、高速道路、学校給食）
- ・東日本大震災の際に日本が他国から多額の支援を受けたこと
- ・バンクーン教員養成校
- ・ゼナイモ浄水場
- ・ナムグムダム
- ・セタティラート病院
- ・みんなのカフェ
- ・子ども文化センター
- ・リーガルプロジェクトオフィス

- ③ ロンラオ村の暮らしについてスライドや動画での紹介を通して知り、自分たちならどのように開発を進めていきたいか、班で話して意見を出し合う。(アクティビティ2)
- ・周囲の環境 (自然に囲まれている、舗装されていない道路など)
 - ・家の様子 (木や竹で作られている、簡素な家具など)
 - ・村の中の様子 (動物がいる、商店がある、プラごみが落ちている、病院がないなど)
 - ・水事情 (共同水栓、トイレなど)
 - ・その他人々の様子 (裸足で歩いている、スマホをもっているなど)
- ④ ロンラオ村の開発についてダイヤモンドランキングの形にまとめたり、日本の家族とラオスの家族の暮らしを比べたりすることを通して、「豊かなくらし」に重要なことは何だと思うか話し合い、「豊かなくらし」について自分の考えを深める。(アクティビティ2)
- ・日本の豊かさ
 - ・ラオスの豊かさ
 - ・これから自分が大切にしていきたいこと

(4) 指導上の留意点

ラオスをはじめとする発展途上国について、「危険で近寄りたくない」「かわいそう」といった偏ったイメージ、先進国のほうが上だといった感覚をもたないように、豊かな大自然や農作物、省エネ・省資源で自然に優しい暮らしをしていることなど、日本にはないラオスの良さを伝えていくよう努めた。

また、担当する学年の児童だけでなく、他の学年の児童や授業を参観した保護者にもラオスに興味をもち、より身近に感じてほしいと思い、授業で取り扱った内容について大判用紙で掲示をしたり、実物を見て触れるようにラオスの人が手作りした工芸品や伝統衣装のシン、ラオスのお金などを展示したりした。

(5) 児童生徒の感想や学び・気づき

授業の初めに、児童に「豊かな暮らしとはどんなものだと思いますか?」とアンケートを行うと、「食べるものに困らない」「1つのボタンで家事ができる」「お金持ち」「トイレやお風呂に毎日入れる」「穏やかで楽しいくらし」など様々な意見が挙がった。児童の多くは、日本のような近代的で衛生的な暮らしが「豊か」であるにとらえているようであった。

ラオスの文化や人々の暮らしについて児童に紹介したところ、「日本の暮らしのほうが安全で快適だと思う」「私はここでは生活できなさそう」と否定的な感想も見受けられたが、写真や動画に映る人々の表情から「ラオスの人々の暮らしは豊かではないのか?」と考えると、「僕たちにとっては不便でも、村人たちにとっては当たり前のこと」「村の人達が笑顔で、仲がよさそう」「便利なものがなくても、何だか楽しそう」「自然がいっぱいでストレスが少ないのかも」と肯定的な反応も見られるようになった。

開発について話し合いながらダイヤモンドランキングを完成させていく中で、世界の人々がより幸福に暮らしていくために、SDGsの目標の重要性を感じることもできた様子であった。SDGsの各項目については、小学校4年生の発達段階では理解が難しい部分もあったが、学習を進めていく中で「豊かだ」と思っていた日本の暮らしにも「ジェンダー平等」「つくる責任 つかう責任」などに課題があるということを知り、「性別だけで決めつけないようにしたい」「ゴミが出ないような商品を選びたい」など、自分たちにできる取り組みを考えることができていた。

また、本実践の第4時は保護者参観授業で行い、話し合いの場では保護者も意見交換に参加していただいた。様々な視点からの意見を交流することで、「豊かさ」についての見方・考え方が広がり、

深まったようである。授業後の保護者アンケートでは、「子どもたちにとって、世界について知る良い機会となった」「家庭でも授業の内容について話し合い、何が人生の幸せか子どもと一緒に考えることができた」との感想をいただくことができた。

【授業実践をした上での感想・ふり返し】

ラオスについて紹介をすると、子どもたちは興味津々でたくさんの質問を私に投げかけてきた。初めは名前も知らなかった国のことなのに、この授業をきっかけに関心を持ち、インターネットで気になったことを調べている児童もいた。様々なことに興味をもつチャンス子どもたちにたくさん作ってあげることが、教師としての大変重要な役割であると改めて感じた。

ダイヤモンドランキングのアクティビティにおいては、村の中で大切にしたいことを順位付けする中で、子どもたちの中で意見が分かれ活発に議論を交わす姿が見られ、世界の人々がどうすれば幸せに生きていけるのかを真剣に考えてくれたことが分かり大変うれしく感じた。

また、授業の中で「社会で学習したごみの分別について、ラオスの人に教えてあげたい。」「自分が着られなくなった服を送ってあげたい。」といった発言をする児童が数名いた。行事や時数の都合でそのような活動まで発展させることができなかつたことが悔やまれたが、そのように積極的に関わっていこうとする態度を大いに価値づけた。子どもたちには、世界で起こる様々な事象についてただ傍観者になるのではなく、当事者意識をもって自分にできることを考え、行動することができる人になってほしいと願っている。



ロンラオ村について紹介する様子



廊下の掲示物

これからの生き方を考える

はじめに

教師海外研修に参加させていただき、ラオス人民民主共和国の子どもたちが置かれてる状況の二面性から、日本の子どもたちの状況を改めて考えるきっかけをいただいた。

ラオスには、繋がりやすさ、今あるものに感謝する心、自然と共存する人々の姿勢など、日本が発展と共に失ってきたものが変わらずあり、子どもたちが自然の中でのびのびと活動し、自然体験から学びを深められる環境、集落全体が繋がりがち、様々な大人たちとふれあうことができる環境があった。一方で、これからの未来を創っていく子どもたちへの教育がおろそかにされている現実とそれには様々な問題が根深く絡まりあっているということを知った。

その影響を一番大きく受けるのは、今の状況を自力で変えることが難しい子どもたちである。生まれ落ちた環境が違うと言う1点が、子どもたちの将来に大きな影響を及ぼしてしまうということを強く意識させられる日々だった。

6年生担任として中学校進学へ向けて自分の将来を描き始める子どもたちと、世界の子供達が置かれている現実について学び、考えることで、自分の今の立場について客観的に見つめ、これから地球に生きる一人としてどのように生きて行くのかをともに考えていきたいという思いから教材作成に至った。

この教材の使い方

「人生なりきりゲーム」は世界の子供たちが生きる環境や、これから先に待っている未来について考えることを通して、今自分が出来ることや自分の将来について考える教材として作成した。5つの役割があるため、1チーム5人以上になるように割りふるとよい。

今回はラオスを題材にゲームを行ったが、ほかの国でもその国の状況に合わせて内容を書き換え活用ができる。なお、ゲームの内容、使用したデータは2024年に実施した際のものである。

全体のねらい

世界の子供達が置かれている状況を知ることを通して、今自分が出来ることや自分の将来について考える。

アクティビティ 「日本の12歳、ラオスの12歳」

● 概要

指導者からの話だけで、見たことのない場所のことをイメージし、課題を自分事としてとらえることは、子どもたちにとって難易度が高いと感じた。そこで、それぞれの役割になりきり、ゲームをすることを通して、世界の子供たちが置かれている状況を知り、今自分が出来ることや自分の将来について考える教材として作成した。

日本に生まれた人、ラオスのラオ族として生まれた男女、ラオスの少数民族の一つ・モン族として生まれた男女の5つの役割に分かれる。自分の設定（住んでいる場所、両親の仕事、家族構成など）が書いてあるカードを見ながらお互いに自己紹介を行う。その後、役割順にさいころを回し、すごろくを実施後、感じたことを伝え合う流れである。

●ねらい

- ・日本に生まれた人、ラオスのラオ族として生まれた男女、ラオスの少数民族の一つ「モン族」として生まれた男女の5つの役割に分かれて人生なりきりゲームを行うことを通して、世界の子どもたちがどのような環境に置かれているのかを理解する。
- ・自分たちに何ができるかを考え、自分の生き方について考える。

●主な対象

小学5～6年生

●用意するもの

- ・スライド (P52～)
- ・役割カード (P59)：5種のうちいずれか1枚を全員に配布できるように印刷しておく
- ・ワークシート「カード集計表」(P57)：グループ数分
- ・さいころ：グループ数分
- ・ふり返しワークシート①、② (P58)：人数分

●所要時間

45分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>1. 今回の学習は「なりきり人生ゲーム」を通して世界の子どもたちが置かれている状況について学習していることを伝える。</p> <p>めあて：なりきり人生ゲームを通して日本の12歳とラオスの12歳を比べよう。</p> <p>2. なりきり人生ゲームをする (1) 0歳 誕生 (P52スライド2-3) なりきる役割を紹介し、じゃんけんで役割決める。</p> <p>役の情報が書いてある「役割カード」(P59)をそれぞれに配布する。</p> <p>役になりきって自己紹介を行う。 「私は、(国名)に住む(民族)人の(名前)です。親は…。」</p>	<p>じゃんけんで勝った順に、①日本人 ②ラオ族の男子 ③ラオ族の女子 ④モンの族男子 ⑤モン族の女子 の役割を充てる。 ※子どもたちには役割を選ばせないようにする。</p> <p>配布後、自分の役割の人物像を想像する時間を少しとる。</p> <p>「役割カード」には、名前、家族構成、保護者の仕事、食べ物、住んでいる家や地域についての情報を載せておく。特に、食べ物、家や地域の様子はイメージしやすいように写真を載せておく。</p>

(2) 3歳 (P52スライド4-6)

- ① 3歳のスライドを見せる。
- ② 書いてある説明を全体で読みあげる。
- ③ 各チームで説明の指示に従う (さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」(P57) に○をつける)。
(3歳の説明の例)
「日本人の子ども」の「役割カード」を持っている児童はさいころを振る。
※以下同じように①～③を繰り返す。

全てのグループが完了した後、スライドで補足説明を行う。

(3) 6歳 (スライド7-10)

- ① 6歳のスライドを見せる。
- ② 全体で書いてある説明を読みあげる。
- ③ 各チームで説明の指示に従う (さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」に○をつける)。

全てのグループが完了した後、スライドで補足説明を行う。

補足説明後、子どもたちにどんな困ったことが起こるか、役割になりきった疑似体験を通して考える。

『みんなが全部の授業を、英語で受けるのと同じ感じだよ』

「大事な連絡とか来たときに困る」

「友達との会話に困りそう」

「3歳のスライド (もらえるカードの指示は隠した状態)」(スライド5) を全体に掲示する。

✂、♡、👤のそれぞれのカードを多めに作成し、サイコロの指示に従って各自がもらえる枚数を随時取っていき、最終的に手元にあるカードの種類と枚数を比較する方法でも良い。

★補足説明 (P55)

人口ピラミッドを提示 (P55スライド1)

日本には保育園や幼稚園に行く子どもたちが多く、そこでたくさんの友達を作ることができる。ラオスでは、子どもたちの割合がとても多い。村に子どもたちがたくさんいるので、村全体で子どもたちを育てるような環境がある。(実際にモン族の村で子どもたちと遊んだ写真 (P55スライド2) を見せる。)

★補足説明 (P55)

ラオスの民族の割合を提示。(P55スライド3)

ラオスには51の民族がある。ラオ族はラオ語を話し、モン族はモン語を話すというように、51の民族がそれぞれの言語を持っている。しかし、ラオスの学校のルールには「先生は必ずラオ語を使って全部の勉強を教えなければいけない」というものがある。

またラオスには「進級テスト」というものがあり、それに合格しないと進級することができない。言語のハードルがある少数民族の子どもたちの中には、同じ学年を何度も繰り返さなければならずつらい思いをする子どもたちもいる。

(4) 8歳 兄弟が誕生 (スライド11-17)

- ①指導者は8歳のスライドを見せる。
- ②全体で書いてある説明を読みあげる。
- ③各チームで説明の指示に従う (さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」に○をつける)。

全部のチームが完了した後、スライドで補足説明を行う。

補足説明後、男女でこのような違いがでることについて、以下のように問いかける (発問する)。

『女子だからという理由で学校に行けないのはどう思う?』

「どうして女子だけなんだろう」

「昔の日本も女性の権利が保障されていないときもあったよね」

(5) 11歳 (スライド14-17)

- ①11歳のスライドを見せる。
- ②全体で書いてある説明を読みあげる。
- ③各チームで説明の指示に従う (さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」に○をつける)。

全部のチームが完了した後、スライドで補足説明を行う。

(6)12歳 (スライド18-20)

- ①12歳のスライドを見せる。
- ②全体で書いてある説明を読みあげる。
- ③各チームで説明の指示に従う (さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」に○をつける)。

★補足説明 (P55)

15歳から24歳の識字率 (男女比) を提示。(スライド5)

男子と女子の、文字を書いたり読んだりできる能力を比べると、男子が89%に対して、女子は79%と10%もの差がある。これは、女子が家の手伝いや家族の世話係をするために、学校に行けないことが影響している。

★補足説明 (P55スライド6)

ラオスでは小学校は5年間。11歳で卒業する。ラオスの子どもたちが学校に行くことが難しい理由として、家の手伝いの他に地理的環境もあることを伝える。それらが原因で、進学率も日本に比べると低い。

全部のチームが完了した後、スライドで補足説明を行う。

補足説明後、再度ラオスの進学率のグラフを提示して、学校に行くことが難しいと将来にどのような影響が出てくるのか考えさせる。

4. ワークシート「カード集計表」でそれぞれのアイコンの数を比較する。

終了後、ゲームで得た🔪、♥️、👨の数をそれぞれ比べる。

「日本人はどのカードも多い」

「ラオスのモン族の女子が一番少ない」

「女子より男子の方がたくさんカードを持っている。」

それぞれのカードの意味を確認し、どんな違いがあるか考える。

🔪=必要な知識、学力

♥️=元気、やる気、モチベーション、メンタル、自信

👨=家族、友達、支えてくれる人たち

5. ゲームの結果を受けて、「それぞれの立場の人生をなり切ってみてどう感じたか」「どこで違いが生まれているか」について考えさせ、(P58のふり返しシートに記入させ)全体で共有する。(P55スライド8)

6. 世界の子どもたちが置かれている現状について説明をする。(P60資料①参照)

(例) 経済的、地理的、文化的、政治社会的要因、教育資源の不足など

様々な理由によって学びたくても学べない子どもたちがたくさんいる。世界中で現在学校に行くことができない子どもたちは2億4400万人。(P56)

→この子どもたちは10年後、どんな人生を送るのだろうか。

→人生の選択肢の数はみんなと同じだろうか。

★補足説明 (P55スライド7)

ラオスの子どもたちは、学校に行くことができていても様々な理由で十分に学ぶことができない現状にある。

- ・学校の先生の数が足りないこと。
- ・教科書が十分でないこと。
- ・道路や施設の不具合などで学校に通うことが難しくなることもあること。

グループ内で役割ごとに並べ、気が付いたことを発表させる。

他のグループの結果を見合って共通していることを確認してもよい。

どんな時にカードがもらえたり、没収されたりしたのかを確認し、児童が意味を考える時間を取る。ワークシート①に書き込む。

<p>日本国内でも同じような課題があることに目を向けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語面の課題：日本語のサポートが必要な児童の割合。 ・日本における男女格差。 <p>→日本にも見えない格差がまだ多く存在している。</p> <p>今回のゲームで役割を選ぶことができなかったように、誰もが、生まれてくる場所を選ぶことができない。今みんなが学校で勉強できていることも“当たり前”ではないということを伝え、その事実についてグループで話し合う。</p> <p>「勉強をすることができるというのは、みんなに与えられた権利。それをどのように使っていくのかをこれから考えていきましょう」と問題提起して、オープンエンドで終える。</p>	<p>授業では、女子受験者の点数のみ減点された医大入試に関する新聞記事を提示した。</p>
<p>ふり返し 授業全体を通してのふり返しを記入する。</p>	<p>ふり返しワークシートの②に記入する。</p>

スライド（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

※スライド内の四角囲いは、初めから提示するのではなく、各チームがサイコロを振り終わった後に見せるようにする。

人生なりきりゲーム

①0歳 誕生

①誕生 じゃんけんをします

勝った順に…

- 日本の子ども
- ラオス ラオ族の女の子
- ラオス ラオ族の男の子
- ラオス モン族の女の子
- ラオス モン族の男の子

人物カードと【👤】人カードをとろう

②3歳

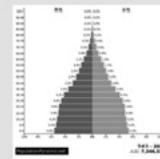
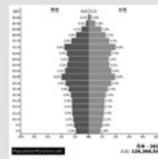
②3歳

日本の子ども・・・【保育園に入学】👤を振る

- ・ 1～3 : 保育園に入ることができた 👤 + 2
- ・ 4～6 : 保育園に空きがないが
家族団らんの時間を過ごす 👤 + 1

②3歳

ラオスの子ども・・・【村には子どもがたくさん！】
・ 友達ができる 👤 + 2



③6歳

③6歳 【小学校に入学】

日本の子ども 日本では授業が日本語で行われる。

- ・ 友達が増える 👤 + 3
- ・ 授業を受け知識が増える 📖 + 3
- ・ 授業が分かり、自信がつく ❤️ + 3

ラオ族のこども ラオスでは授業がラオ語で行われる。

- ・ 友達が増える 👤 + 3
- ・ 授業を受け知識が増える 📖 + 3
- ・ 授業が分かり自信がつく ❤️ + 3

③6歳 【小学校に入学】

モン族の子ども ラオスでは授業がラオ語で行われる。

- ・友達が増える +2 🧑+1
 - ・授業がラオ語で行われるため、ついていくのが大変
- 🧑を回し指示に従う

③6歳

→ 1~3

ラオ語が分からず、勉強に苦しむが
必死に勉強したのでラオ語が分かるようになってきた
・ラオ族の友達が増える 🧑+1 ・知識が増える 📖+2
・授業が分かり自信がつく 🧡+2

→ 4.5

ラオ語の勉強を誰よりも頑張り、賢くなった
・ラオ族の友達が増える 🧑+1 ・知識が増える 📖+3
・授業が分かり自信がつく 🧡+3

→ 6

勉強が分からず、進学試験に合格できない
・もう一度1年生をやり直すことになる 🧑-1 🧡-1

④8歳

④8歳 兄弟が誕生

日本のこども 弟が生まれた！

🧑+1

④8歳 兄弟が誕生

ラオスの子ども 弟が生まれた！

🧑+1

ラオ族・モン族の女子

両親が働きに行く間、弟の世話を任せられた
世話係となり学校に行くことができない
友達との関わりが減る 🧑-1

⑤11歳

⑤11歳 【小学校5年生】

日本の子ども

小学校での勉強を頑張っている。 📖+2
しかし、勉強が難しくなったので塾に入ろうか迷う。

🧑を回す

1. 塾に入ることができ、成績が上がる 📖+1 🧑+1 🧡+1
2. 住んでいる近くに塾がないので塾に入ることができない
3. 通信教育【Oチャレンジ】ができる。 📖+1 🧡+1
4. ユーチューブにはまり、勉強しなかったためテストで30点を取った。 📖-2 🧡-1
- 5.6. もう一度回す

⑤11歳 【小学校卒業・中学校入学】

ラオスの子ども 小学校を卒業 🧡+3

中学校進学・・・🧑を回す

⑤ 11歳 【小学校卒業・中学校入学】

- 1～4. 住んでいるところから中学校が遠いので
一時間かけて歩いて登校する
👤 +3 🗡 +3
- 5・6. 家の問題で働きに出なければなくなり、
中学校に行けなくなる
👤 -2 🗡

⑥ 12歳

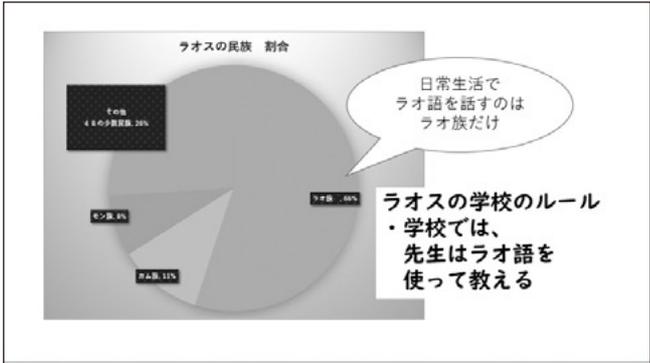
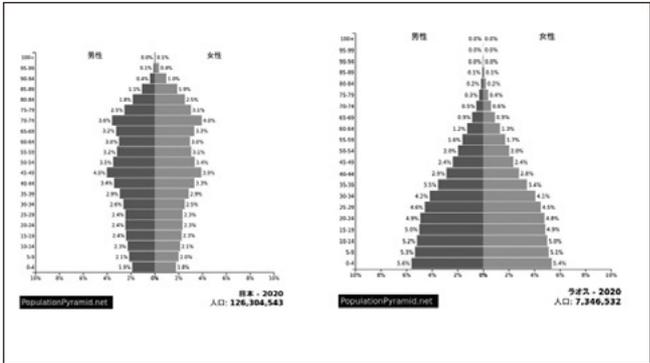
⑥ 12歳 【現在、そして将来】

- A: 小学校を卒業し、中学校に入学する
❤ +3
👤 +3
🗡 +3

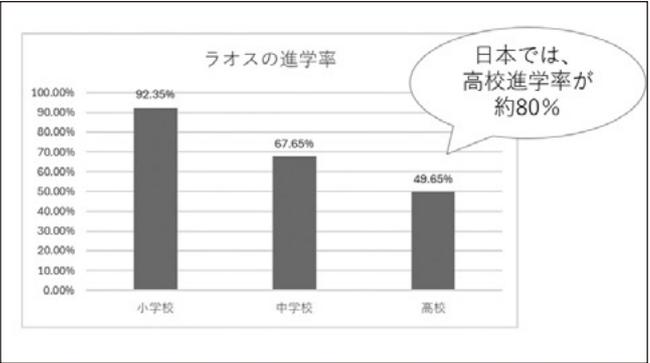
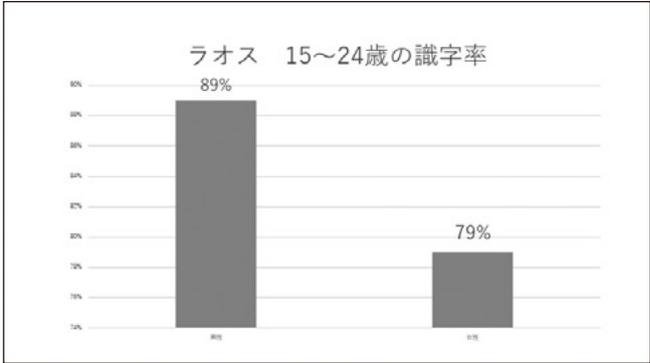
⑥ 12歳 【現在、そして将来】

- ラオスの子どもたち 🗡を振る
1. 学校の先生が足りないので、授業が行われない日がある
 2. 教科書の数が足りず、十分に勉強できない。
 3. 雨季で洪水が起こり、学校までの道がとだえた。
学校に長期間行けなくなる。
- 4～6. 中学校に通い、勉強を頑張る
🗡 +3

補足説明時のスライド



どんなことが起こる？



- ・少数民族の子どもたちにとって、ラオ語での授業が理解できず、進級・卒業を妨げている
- ・山がちな地域では、学校が村になかったり、通学に時間がかかったりして、物理的に学校で教育を受け続けることが困難である
- ・家庭の経済状況により働かなければならない
- ・保護者の学校教育に対する意識の低さ

それぞれの立場の人生をなりきってみて
どう感じた？

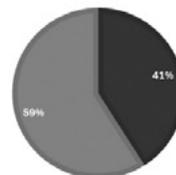
どこで違いが生まれている？

学校に通っていない子どもたち
(6歳～17歳)は、
世界に2億4,400万人。

日本にいる外国籍の子どもたち…約15万人

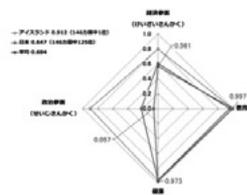
日本語の支援が必要な外国籍の子どもたち

■支援が必要な子ども ■支援が不要な子ども



日本のジェンダー・ギャップ指数

- 世界各国の男女の差を測る調査
- 日本は146カ国のうち125位 (2023年度の調査結果)



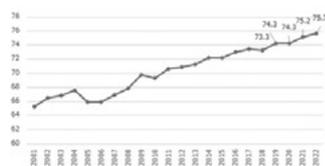
項目	スコア	順位
1	0.921	1
2	0.919	2
3	0.918	3
4	0.917	4
5	0.916	5
6	0.915	6
7	0.914	7
8	0.913	8
9	0.912	9
10	0.911	10
11	0.910	11
12	0.909	12
13	0.908	13
14	0.907	14
15	0.906	15
16	0.905	16
17	0.904	17
18	0.903	18
19	0.902	19
20	0.901	20
21	0.900	21
22	0.899	22
23	0.898	23
24	0.897	24
25	0.896	25
26	0.895	26
27	0.894	27
28	0.893	28
29	0.892	29
30	0.891	30
31	0.890	31
32	0.889	32
33	0.888	33
34	0.887	34
35	0.886	35
36	0.885	36
37	0.884	37
38	0.883	38
39	0.882	39
40	0.881	40
41	0.880	41
42	0.879	42
43	0.878	43
44	0.877	44
45	0.876	45
46	0.875	46
47	0.874	47
48	0.873	48
49	0.872	49
50	0.871	50
51	0.870	51
52	0.869	52
53	0.868	53
54	0.867	54
55	0.866	55
56	0.865	56
57	0.864	57
58	0.863	58
59	0.862	59
60	0.861	60
61	0.860	61
62	0.859	62
63	0.858	63
64	0.857	64
65	0.856	65
66	0.855	66
67	0.854	67
68	0.853	68
69	0.852	69
70	0.851	70
71	0.850	71
72	0.849	72
73	0.848	73
74	0.847	74
75	0.846	75
76	0.845	76
77	0.844	77
78	0.843	78
79	0.842	79
80	0.841	80
81	0.840	81
82	0.839	82
83	0.838	83
84	0.837	84
85	0.836	85
86	0.835	86
87	0.834	87
88	0.833	88
89	0.832	89
90	0.831	90
91	0.830	91
92	0.829	92
93	0.828	93
94	0.827	94
95	0.826	95
96	0.825	96
97	0.824	97
98	0.823	98
99	0.822	99
100	0.821	100
101	0.820	101
102	0.819	102
103	0.818	103
104	0.817	104
105	0.816	105
106	0.815	106
107	0.814	107
108	0.813	108
109	0.812	109
110	0.811	110
111	0.810	111
112	0.809	112
113	0.808	113
114	0.807	114
115	0.806	115
116	0.805	116
117	0.804	117
118	0.803	118
119	0.802	119
120	0.801	120
121	0.800	121
122	0.799	122
123	0.798	123
124	0.797	124
125	0.796	125
126	0.795	126
127	0.794	127
128	0.793	128
129	0.792	129
130	0.791	130
131	0.790	131
132	0.789	132
133	0.788	133
134	0.787	134
135	0.786	135
136	0.785	136
137	0.784	137
138	0.783	138
139	0.782	139
140	0.781	140
141	0.780	141
142	0.779	142
143	0.778	143
144	0.777	144
145	0.776	145
146	0.775	146

「経済」分野では
かなり男女の差が
広がる

勉強や仕事で「女の子だから」差別されることがある？ | 日本財団ジャーナル

日本の現状

- 管理職の立場にいる人のほとんどが男性である
- 働いてもらえるお金が全体的に男性より少ない
→ 同じ仕事をしていても女性の賃金が低い



男性のもらえる賃金
(平均)を100%とす
ると、女性はその
75%しかもらえてい
ない

(注) 2020年以降の統計は推定値を示している。

一般労働者の月給賃金における男女格差が10年連続で縮小 (国内トピックス: ビジネス・トレンド・トレンド 2023年5月号) | 労働政策研究・研修機構 (JILPT)

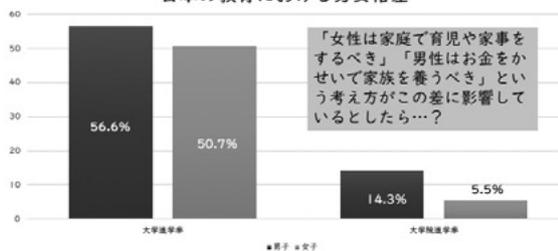
日本の現状

- 政治家に女性の数が少ない



日本の国会議員の女性比率は16.0% - 立憲民主党

日本の教育における男女格差



「女性は家庭で育児や家事を
するべき」「男性はお金をか
せて家族を養うべき」とい
う考え方がこの差に影響して
いるとしたら…?

ジェンダー教育とは？課題・解決策・取り組みを詳しく解説 | 国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン

こんなことない？

女子は理系(算数・理科)に弱い？!

- ▶ 「東京医科大が医学部医学科の一般入試で、
女子受験者の得点を一律に減点していた」ことがニュースに

でも、実際は男女の脳に違いはない!

環境が格差を作り出している

カード集計表 もらった数だけ○をつけよう

日本人 子ども	
	
	
ラオ族男子	
	
	
ラオ族女子	
	
	
モン族男子	
	
	
モン族女子	
	
	

ふり返しワークシート①

(役割ごとに異なったワークシートを配布する。タブレットで全員が同じファイルに書き込んでもよい)

<p>● 佐藤さん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>	<p>● ラオ族 ヤンさん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>
<p>● ラオ族 ヴァンさん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>	<p>● モン族 カムさん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>
<p>● モン族 ノイさん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>	

ふり返しワークシート②

今日の授業を通して考えたこと

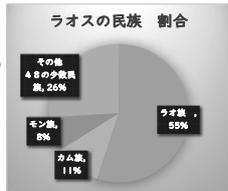
● ラオ族の女の子

- ・名前：ヤンさん
- ・ラオ語を話す
- ・メコン川の近くの平地に家族6人で暮らしている。
- ・家族は、水田での稲作を仕事としている。



町の中に家があり、周りにも建物がある
 広くて長いメコン川
 ラープとカオニャオ(お米)

- ラオ族って...?
- ・ラオスの人口全体の55%【約744万人】
 - ・ラオ語を話す



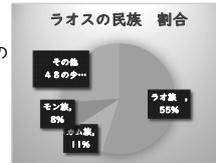
● ラオ族の男の子

- ・名前：ヴァンさん
- ・ラオ語を話す
- ・メコン川の近くの平地に家族5人で暮らしている。
- ・家族は、水田での稲作を仕事としている。



町の中に家があり、周りにも建物がある
 広くて長いメコン川
 ラープとカオニャオ(お米)

- ラオ族って...?
- ・ラオスの人口全体の55%【約744万人】
 - ・ラオ語を話す



● モン族の女の子

- ・名前：カムさん
- ・モン語を話す。
- ・高地や山頂近くに、家族6人で暮らしている。
- ・家族は焼畑でトウモロコシの栽培を仕事にしている。



高い山の近くに家がある
 広い畑と田んぼが続く
 ラープとカオニャオ(お米)

- モン族って...?
- ・ラオスの人口全体の8%【約59万人】
 - ・日常生活ではモン語を使う



● モン族の男の子

- ・名前：ノイさん
- ・モン語を話す。
- ・高地や山頂近くに、家族5人で暮らしている。
- ・家族は焼畑でうるち米の栽培を仕事にしている。



赤土の山に家がある
 広い畑と田んぼが続く
 ラープとカオニャオ(お米)

- モン族って...?
- ・ラオスの人口全体の8%【約59万人】
 - ・日常生活ではモン語を使う



● 日本人のこども

- ・名前：佐藤さん
- ・島根県江津市に家族4人で暮らす
- ・親は、会社員として働いている。
- ・日本語を話す



江津の街並み
 日本の朝食

- 日本の民族とは...?
- ・単一民族国家【1億2000万人】
 - ・全員が同じ日本語を話す

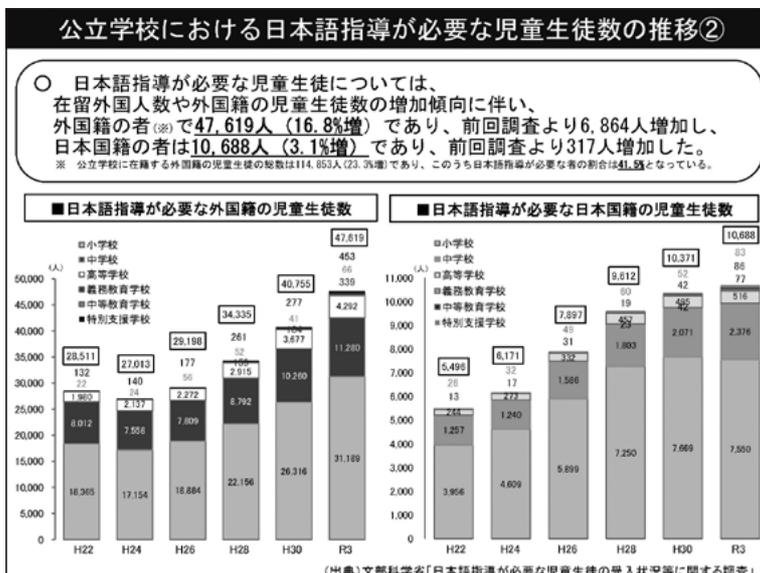
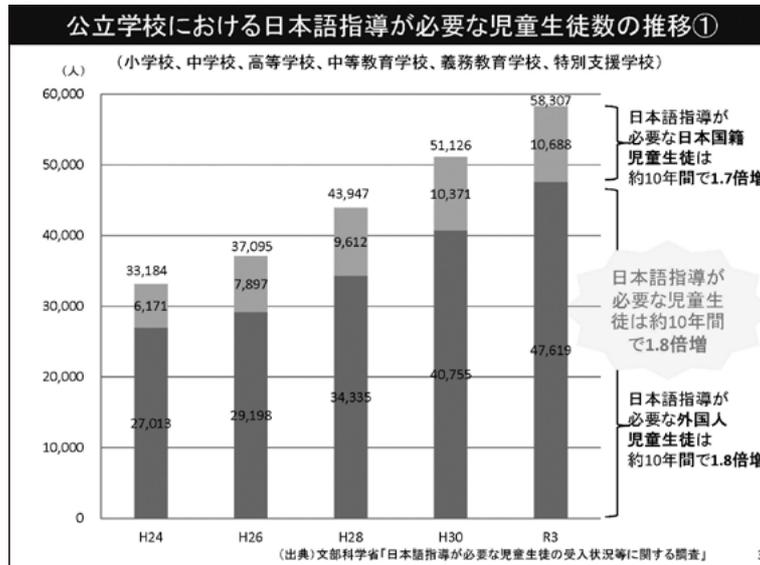


資料① 世界の子どもたちが置かれている現状

- ・ 経済的要因：家計を助けるために労働する必要がある、弟妹の世話のため学校に通えないなど。
親自身が教育を受けていない場合、教育への理解や関心が低く、学校に行かせてくれないケースも
- ・ 地理的要因：学校が家から遠すぎて通うことが難しい、危険
- ・ 文化的要因：女子に学問は必要ないという考え
- ・ 政治社会的要因：戦争や紛争で、学校に通えなくなってしまう
- ・ 教育資源の不足：先生の数が少ない・質が低い（十分な教育指導訓練を受けていない大人が、先生になっている）

資料②

言語面の課題：日本語のサポートが必要な児童の割合



出典：文部科学省「外国人児童生徒等教育の現状と課題」より抜粋

おわりに

国の政策や財政、外交問題などの大人の都合に伴って、その国の未来を作っていく子どもたちへ十分なお金を使うことができないという事実。そして、その影響を最も大きく受けるのは子どもたちである。字が書けること、文字が読めること、計算ができること、生きるために必要な知識を“当たり前”に受けることができているという日本の子どもたちの立場は“当たり前”ではないという事実が付き、自分たちに与えられた特権を、世界をよりよくするために使いたいという思いが生まれるように、また自分の人生をどのように歩むべきか一度立ち止まって考えるきっかけになるようにと教材を作成した。

授業実践にあたり、たくさんの伝えたいことの中からどのようなメッセージを教材に落とし込んでいくのか、経験した・していないの差をどのように埋めていけるのかについて考えた結果、上記のようなゲームを教材とした。課題を自分事としてとらえるために、役割になりきることは、当事者として考えるきっかけとなるものであり、他者理解をする上で有効であったと考える。

一方で、日本にも様々な理由で学校に行くことができない子どもたちがいる。今回取り上げた「学校に行けないこと」は子どもたちにとっても、とてもセンシティブであり、子どもたちの実態に合わせた配慮が必要であると考えます。

参考文献・引用資料

- ・「ラオスの人口ピラミッド」 「日本の人口ピラミッド」
<https://www.populationpyramid.net/ja/%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%82%B9/2020/>
<https://www.populationpyramid.net/ja/%E6%97%A5%E6%9C%AC/2020/>
いずれも『PopulationPyramid.net 世界の人口ピラミッド』 「Creative Commons(CC) ウェブサイト」より
- ・「ラオスの投資環境／2014年7月 - 第1章 概観（国土、民族、気候、社会、歴史等）」
株式会社国際協力銀行ウェブサイト 「投資環境資料のご案内」
https://www.jbic.go.jp/ja/information/investment/image/inv_Lao011.pdf
- ・『ジェンダー関連ODA評価 - ラオス』 外務省ウェブサイト 「国際協力 政府開発援助ODAホームページ」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/laos/you01_01_0001.html#:~:text=%E6%88%90%E4%BA%BA%E8%AD%98%E5%AD%97%E7%8E%87%E3%80%81%E7%94%B7%E6%80%A773.5,%E5%85%A8%E4%BD%93%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%84%E3%81%A6%E5%9D%87%E7%AD%89%E3%81%A7%E3%81%AF%E3%81%AA%E3%81%84%E3%80%82
- ・「ラオスの基礎教育『開発の進展と学校に基盤を置いた教育行政』に向けたJICAの取り組み」 岩品雅子
- ・「教育問題3つの原因と解決策。開発途上国の子どもたちのためにできることは？」
国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパンウェブサイト
https://www.worldvision.jp/children/education_01.html#d0e9d87eb78fa54e47cd213ca7606442
- ・【参考資料】 外国人児童生徒等に対する教育支援に関する基礎資料（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/121/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/06/27/1373539_04.pdf
- ・「勉強や仕事で『女の子だから』差別されることがある？」 日本財団ジャーナル
<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2023/97905/sdgs>
- ・「一般労働者の月額賃金における男女格差が2年連続で縮小」（国内トピックス：ビジネス・レーバー・トレンド 2023年5月号） 労働政策研究・研修機構（JILPT）
https://www.jil.go.jp/kokunai/blt/backnumber/2023/05/kokunai_01.html
- ・「日本の国会議員の女性比率は16.0% - 立憲民主党」
https://cdp-japan.jp/news/20230718_6459
- ・「ジェンダー教育とは？課題・解決策・取り組みを詳しく解説」 国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン
https://www.worldvision.jp/children/education_28.html#d0e9d87eb78fa54e47cd213ca7606442

実践事例報告

プログラム作成・実践者

木村 美咲

学校名

島根県江津市立郷田小学校

担当教科

6年担任

実践教科

総合的な学習の時間

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

世界の現状を知ることを通して今自分ができることや、自分の将来について考える

(2) 単元のねらい

- ・世界の国々には、多様な文化や習慣があることを知るとともに、様々な国の文化を尊重する態度を育てる。
- ・ラオス人と日本人になりきり、人生なりきりゲームを行うことを通して、世界の子どもたちがどのような環境に置かれているのかを理解する。
- ・世界と自分をつなげて考え、今できることや自分の将来について見つめ直す。

(3) 概 要

実際に足を運んで現状を見たり感じたりすることができない子どもたちが、今世界の子どもたちが置かれている状況をしっかりと理解するためには、話を聞くだけでは不十分と考え、「なりきり人生ゲーム」を実施した。子どもたちを5人の役に分け、それぞれが誕生してから、12歳になるまでを辿ることで、世界の子どもたちが置かれている状況を自分事としてとらえ、課題を見つけるきっかけになるようにした。

(4) 指導上の留意点

写真はアクティビティを実施した様子である。12人の小さなクラスであったため、2人～3人ずつの5つのグループに分類し、一つの模造紙を囲んでゲームを行った。人数の多いクラスで実施する際には、各グループに「なりきりゲームシート」を配布し、【指導者の指示で1ターンを回す→指導者の補足説明や小ワークをする】を繰り返す。

(5) 児童生徒の感想や気づき、学び

補足説明や人生ゲームでわかるラオスの様子からは勿論だが、ゲーム終了後、目に見えて手持ちのカード（「元気」や「知識」、「支えてくれる人」を意味する）の枚数に変化があったことから、お互いが気づかない間に将来の選択肢に大きな違いが生まれることを、実感を伴って理解している様子が見受けられた。課題を自分事としてとらえるために、役の置かれている状況を、その役になりきり、理解することは有効であったと考える。「学校に行けるということがありがたいと思った。」「夢がかなえられることって当たり前じゃないのだと思った。」などの感想があがった。

【授業実践をした上での感想・ふり返し】

最初に行った自己紹介ゲームでは、自分の役割を想像し自己紹介をすることで、役になりきる準備をするのに有効だった。各ターン終了後に様々なデータを用いて、ラオスや世界の子どもたちが置かれている状況をより深く理解できる時間を設定した。「ゲーム」→「補足説明」→「ゲーム」…をテンポよく回すことができたため、児童の理解を深めることができたと感じている。

一方で、日本にも様々な理由で学校に行くことができない子どもたちがいる。今回取り上げたことはとてもセンシティブであり、子どもたちの実態に合わせた配慮が必要である。



本当の幸せってなんだろう？

はじめに

日本で暮らす多くの児童は日本で生まれ育ち、日本人の両親に育てられ、今の生活環境や日本の制度に何も疑問を持たず、それがあたりまえ、常識だと思って過ごしている。しかし、視点を変えれば必ずしもそうではない。国や立場が違えばそれぞれに考えや思い、習慣があり、その国のよさがある。子どもたちには偏った見方、考え方にとらわれず、互いの違いを受け入れ、良さを見つけ合い、もっとよくなるためには…と多様な他者といっしょに未来を切り開き、自分側からの視点だけでなく、様々な立場や視点から物事を考えられる人間になってもらいたいと考え教材作成に至った。

この教材の使い方

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」には“一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。”と明記されている。本教材での学習を通して、自分と他者の価値観の違いを実感するとともに、自分の生きてきた世界、知っている世界だけが常識ではないことを理解し、世界の課題を知ることで世界の出来事に興味をもったり、持続可能な社会の創り手として自分にできることはないかと考えたりすることのできる子どもの育成を目指す。

全体のねらい

- ・無意識の思い込みは誰にでもあると気づき「ふつうは、みんなは」ではなく、目の前にいる違う個性をもった一人一人を大切にしようとする心情を育てる。
- ・幸せの感じ方は人それぞれであり、相手の価値観も自分の価値観も大切にしながら、自分らしく充実した生き方をしようとする心情を育てる。

アクティビティ 「日本と世界を比べてみると…」

●概要

世界の学校制度や外国の子どもたちの暮らしを知り、ワークショップを通して文字が読めないことで起こり得る日常の不都合について実感する。また、地球規模の課題や人によって幸せの形は様々なこと、個人の幸せと世界の現状、子どもの権利について考える。

●主な対象

小学校6年生

●用意するもの

- ・パワーポイント (P69)
- ・国旗を4つに切ったもの：様々な国の国旗を4つに切り分け、それぞれのカードの裏側にその国の言語での「こんにちは」をカタカナで書いておく。一人1枚に行き渡るように枚数を調整する。
- ・紙コップ
- ・水、ジュース (透明が望ましい)、塩：紙コップで体験できる分量
- ・世界地図
- ・ふり返しシート (P68)：人数分
- ・絵本『子どもの権利ってなあに?』

●所要時間

90分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>【アイスブレイク】</p> <p>0. 国旗を4つに切ったものを一人1枚配る。</p> <p>1. 教室中を歩きながら目が合った友達とカードの裏側に書かれてある言葉であいさつを交わす。(世界の国のあいさつ)</p> <p>2. 同じ言語の仲間を見つけ、4人が集まったら国旗のパズルを完成させる。タブレットや世界地図で国の名前や位置を調べる。</p>	<p>男子、女子、仲良しグループが偏らないよう意識してカードを配る。 本時は集まったグループで最後まで学習することを最初に確認しておくこと。</p>
<p>【世界の小学校について知る】</p> <p>1. パワーポイント (P69スライド1～6) を使って、世界の学校について解説する。児童は、日本と世界の学校生活の違いを知って感じたこと、考えたことをグループで共有する。</p> <p>2. 世界の課題 (子どもの権利が守られていない現状) について触れ、その中でも「学校へ行けないと具体的に何が困るのか」をイメージマップ (P68) を用いながらグループで意見を出し合う。</p>	<p>今回はラオスとブラジルを例に取り上げた。児童との対話を楽しみながらクイズ形式で学習を進める。</p> <p>外国の子どもたちの生活について初めて知ったこと、驚いたこと、「このままでいいのかな (課題)」の視点で話を聞くことを確認しておく。</p>

【『文字が読めない』体験】

1. アルバイト先を見つけよう！

- (1) ラオ語で書かれた4つのアルバイト募集広告(P69スライド15)を見て、どこのお店で働きたいか、どの募集広告の条件がよさそうであるかを話し合い、決定する。

- (2) 感じたことや考えたことをふり返り、グループ→全体で共有する。

2. ホンモノの薬を見つけて仲間を助けよう！

- (1) 大切な仲間が腹痛で困っているが診療所には先生がいない。目の前にはラオ語で書かれた3つの薬らしきものがある。グループで話し合っただとと思うものを選ぶ。(スライド17~18)

- (2) 腹痛で困っている仲間に飲ませる。

- (3) 感じたことや考えたことをふり返り、グループ→全体で共有する。

【自身のアンコンシャスバイアスに気付く】

1. 先進国、開発途上国について解説する。(スライド20)

2. 開発途上国についてイメージしたこと、連想したことを学級全体で共有する。

【発問】 開発途上国と聞いてどんな〇〇を想像しますか。(家、学校、スーパー、トイレ等)

3. パワーポイントで提示する写真を「先進国」か「開発途上国」か弁別させる。(全5枚の写真はいずれも教師海外研修で撮影したラオスの写真)

高知県の最低賃金と10万キープが約700円ということを示しておくことで、数字をよく見て前後に何が書かれてあるのかを想像したり、数字の大小や意味を考えたりできる。意味のある話し合いがされるように工夫する。

求人の中には不適切な内容や条件の悪いものもあり、活動後は文字が読めないことで起こり得る日常生活の不都合について全体でシェアする。

3つのボトルにはそれぞれラオ語で「水」、「薬」、「毒」と書かれていることを事前に伝えておく。児童はラオ語が分からないため勘に頼って薬を選ぶしかないが、仲間の生死にかかわる判断のため慎重になるよう促す。(薬は味のついた透明のジュースを、毒は塩水を使った)

文字が読めないことは命に関わることがあるかもしれないこと、文字が読めたら1秒で判断できることが、文字が読めないために判断に時間がかかること、投げやりになったり、諦めてしまったりする気持ちを抱くことや、読み書きの大切さについて実感させたい。

「先進国」「開発途上国」という言葉の意味を学級全体で確認し、質問を通して開発途上国についての具体的なイメージを想像させる。(ここでは途上国についてマイナスなイメージが出てきてもよい)

弁別の際にはなぜそう考えたのか、理由も答えさせるようにする。

『『開発途上国』はこうだ』という無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)について児童と確認する。(※無意識な思い込みは誰もが起こり得る自然なことで、悪いことではないと伝える)

4. 日本の幸福度ランキングを示し、その理由を考える。

(個人→グループ)

【発問】世界全体で見たとき、日本の幸福度ランキングは何位くらいだと思いますか？

5. ふり返りシートを使い、児童それぞれが持つ「幸せ」について考え、本時の学習をふり返る。(個人→全体)

【発問】みなさんはどんなときに幸せだなあ…と感じたり、心がホッと温かくなりますか。思いついたものをできるだけたくさん書いてみましょう。

6. 絵本『子どもの権利ってなあに？』を読み聞かせる。

子どもの権利が守られていない国や地域があることをもう一度想起させ、本人が幸せであれば権利が守られていなくてもいいのか、それは本当に幸せと言えるのかを問い、オープンエンドで本時の学習を終える。

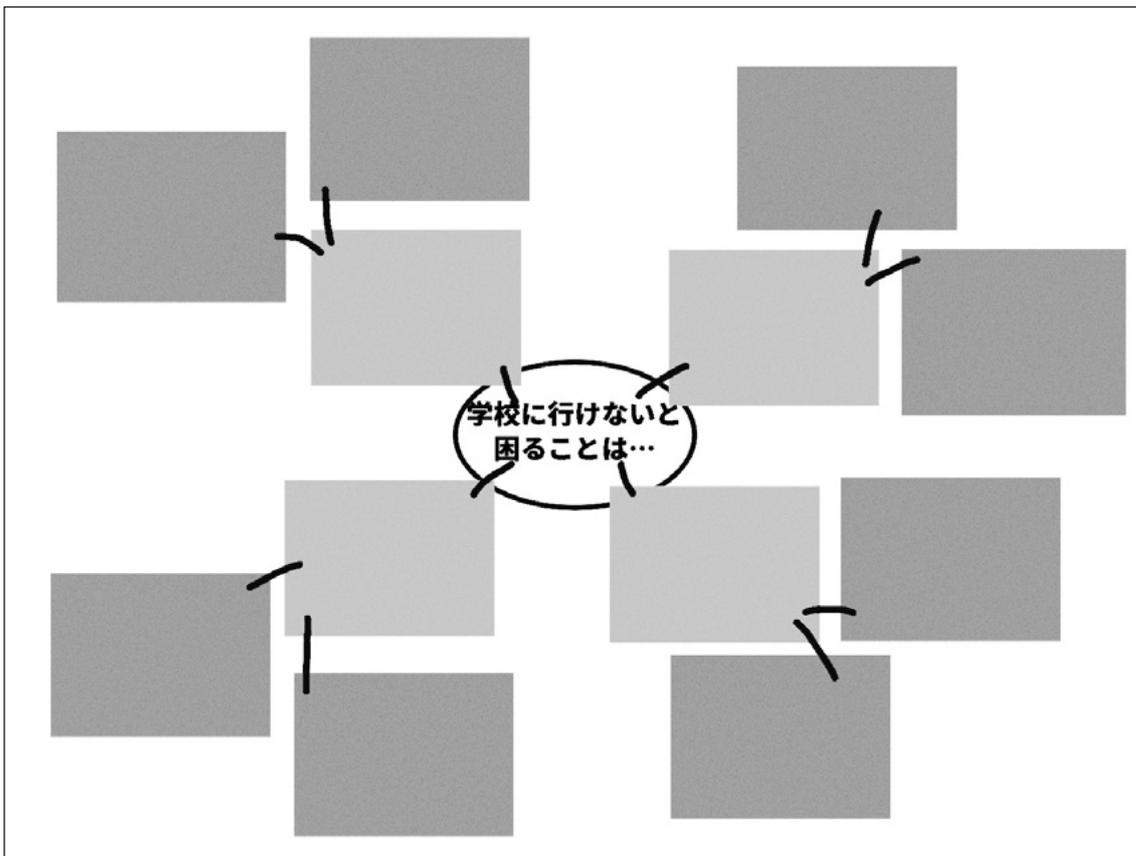
「途上国だから、先進国だから」と決めつけて、それぞれの幸せを自分のものさしで測ってしまっていた自分がいたことを子どもたちに伝えることで、無意識の思い込みは誰にでもあることを気付かせたい。

ラオスで生活する人々の生き生きした姿や教師海外研修で自身が感じたことを紹介し、児童一人一人の幸せについて考えさせる。

※「幸せ」の概念が難しい児童には「心がホッとする」「ハッピー」「うれしい気持ち」という言葉を使って、日常生活の中にたくさんの幸せが溢れていることに気付かせたい。

グループや全体での共有を通して、幸せの形は人それぞれであること、自分が好きなことや大切にしたい人、もの、こと、場所は胸を張って好きだと言っていいこと、自分と人は違っていいことを実感させたい。

イメージマップ (見本)



ふり返りシート (見本)

♥ どんなときに幸せを感じますか？

-
-
-
-

【学習を通して考えたこと・感じたこと】

パワーポイント（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

世界の学校について知ろう！

私たちの思うあたりまえは
本当に世界の
あたりまえなのか！

世界の学校は…

ラオス人民共和国		ブラジル連邦共和国	
9年間 (小5年・中4年)	義務教育	14年間 (幼2年・小5年・中4年・高3年)	
9月から	新年度	2月20日から	
5分間	7時間 授業時間	40分間	6時間
あり	宿題	あり	

【出典】JICA学校制度・教育文化

ちょっとびっくり…

休み時間
おかし
OK!

遅刻→図書室で待機
→お家で家族と過ごす
学校に入れない

【出典】JICA学校制度・教育文化 【資料】iStock by Getty Images (https://www.istockphoto.com/jp)

世界の学校～登下校編～

【資料】命がけ？15枚の写真で見る、世界各地のとんでもない通学路。BUSINESS INSIDER (https://www.businessinsider.jp/post-100655)

世界の学校～お昼ご飯編～

【資料】iStock by Getty Images (https://www.istockphoto.com/jp)

みんなでシェア

びっくり！
うらやましい！
いいのかなあ…？

◎一定の年齢で小学校に入学した人の割合

日本	100%
ブラジル	99%
ラオス	91%
南スーダン	37%

【出典】ユニセフ(国連児童基金)世界子供白書2023

◎小学校を卒業した人の割合

日本	100%
ブラジル	%
ラオス	%
南スーダン	%

【出典】ユニセフ(国連児童基金)世界子供白書2023

◎南スーダンの場合

小学校へ入学した人…37人(37%)
小学校を卒業した人…9.25人(25%)

残りの28人は…

【資料】iStock by Getty Images (https://www.istockphoto.com/jp)

なんで学校に行けないの？

家の手伝い
労働
早すぎる結婚
戦争・災害
学校がない
先生がいない

【資料】iStock by Getty Images (https://www.istockphoto.com/jp)

学校に行けないと困ることってあるのかな

◎読み書きができる15歳以上の人の割合

日本	%
ブラジル	%
ラオス	%
南スーダン	%

【出典】ユニセフ世界子供白書2023、JICA学校制度・教育文化

文字が読めないってどんな感じ…

ワークショップに挑戦！

- ①アルバイトを始めよう
- ②ホンモノの薬を見つけろ

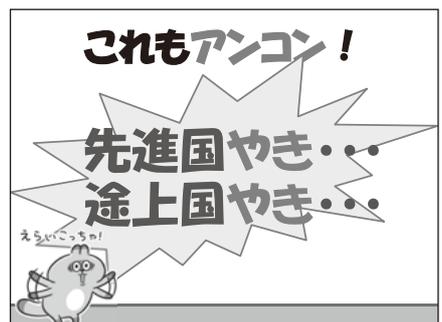
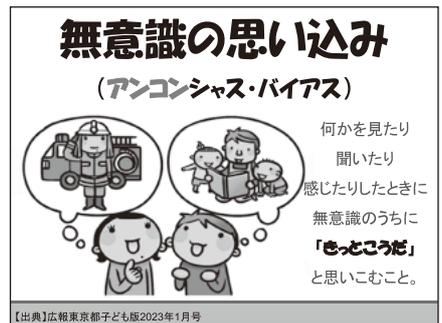
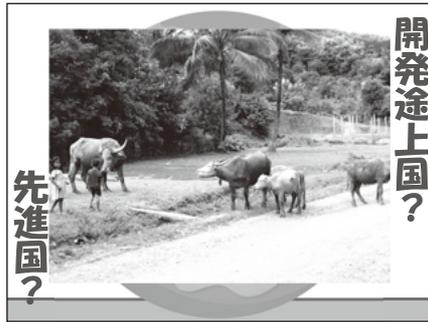
条件のいいバイト先で働こう！

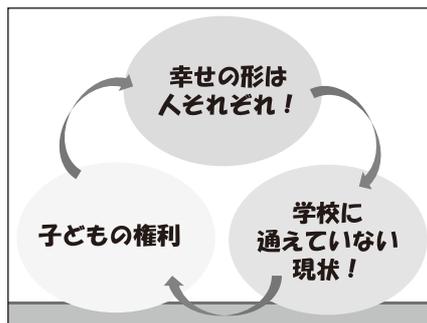
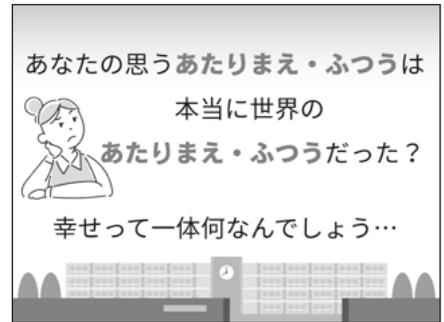
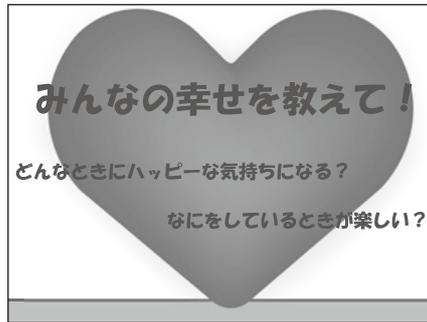
ເຮືອນໂງາ : ສົມເຊີຍວິນາຍ ເລາ : 1 ມີ 12 ຊົ່ວໂມງ ໄລຍະທາງ : 150,000 ກີໂລແມັດ	ເຮືອນໂງາ : ຄົວມິງ ເລາ : 2 ອາທິດ ຕັ້ງບຸຄົນ : 1,000,000 ກີບ
ເຮືອນໂງາ : ບາງເນ : ອຸຸມິກອອນ ເລາ : 1 ມີ 3 ຊົ່ວໂມງ ພາຍັງຮຽນສູ່ວິໄນກ : 3000 ກີໂລແມັດ	ເຮືອນໂງາ : ສອມມິວເຕີ ເລາ : 1 ມີ 8 ຊົ່ວໂມງ ຕັ້ງບຸຄົນ : 1 ຊົ່ວໂມງ 200,000 ກີບ

条件のいいアルバイト先で仕事を始めよう!

仕事：バスの運転手 時間：1日12時間 走行距離：15万Km (給料のことは不明)	仕事：ベビーシッター 時間：2週間 給料：100万キープ (7000円)
仕事：サッカーコーチ 時間：1日3時間 消費カロリー：3000キロカロリー (給料のことは不明)	仕事：パソコン 時間：1日8時間 給料：時給20万キープ (1時間1400円)

10万キープ=約700円
高知県最低賃金(時給952円)





●用語 ※対象児童に合わせて教師が定義したものです。

先進国…経済が大きく発展している国

開発途上国…経済力がまだ十分でない国

おわりに

本プログラムの作成にあたって、自分自身の無意識の思い込みに気付かされる場面が多々あった。特に日本の幸福度ランキングを考えた際には、開発途上国は世界の75%であること、日本は先進国であり、識字率も100%に近い。子どもたちは毎日学校に通うことができ多くの子どもたちが中学3年生までの教育課程を終え卒業する。蛇口をひねれば安全な水が流れ、帰る場所や安心して眠れる家がある。こんなことを考えた時に日本は世界の幸福度ランキング10番以内には入っているだろうと考えた。しかし、この考え方は先進国だから、途上国だからという無意識の思い込みであり、自身がバイアスに陥っていることを痛感した。無意識の思い込みは誰にでも起こり得る自然なものであるが、時に誰かを傷つけたり、自分の可能性を狭めてしまったりすることがある。今後も自身の言動や思考に気を付けながら、子どもたちと関わっていききたいと強く感じた。

参考文献・引用資料

- ・「教育制度・学校文化（ブラジル・ラオス）」JICA横浜
https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/information/topics/2023/1516021_14656.html
- ・「表11 教育指数」Unicef世界子供白書2023
https://www.unicef.or.jp/sowc/pdf/UNICEF_SOWC_2023_table11.pdf
- ・「先進国や開発途上国って、どういう国のことですか？」Gakkenキッズネット
<https://kids.gakken.co.jp/kagaku/eco110/ecology0114/>
- ・「無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）」広報東京都こども版 2023年1月号
<https://www.kodomokoho.metro.tokyo.lg.jp/article/202301-1/>
- ・「世界一大きな授業2013」教育協力NGOネットワーク（JNNE）
<https://jnne.org/gce2013/pdf/material2013.pdf>
- ・「命がけ？ 15枚の写真で見る、世界各地のとんでもない通学路」（クリス・ウェラー、BUSINESS INSIDER）
<https://www.businessinsider.jp/post-100655>
- ・iStock by Getty Images <https://www.istockphoto.com/jp>
- ・『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（文部科学省、東洋館出版社、2018年）
- ・『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら第6版』（開発教育協会、2020年）
- ・『子どもの権利ってなあに？』（アラン・セール、反差別国際運動、開放出版社、2020年）

実践事例報告

プログラム作成・実践者

岡崎 麻央

学校名

高知市立昭和小学校

担当学年

6年生

実践教科

総合的な学習の時間（人権学習）

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ：本当の幸せってなんだろう？

(2) 単元のねらい

- ・無意識の思い込みは誰にでもあると気づき「ふつうは、みんなは」ではなく、目の前にいる違う個性をもった一人一人を大切にしようとする心情を育てる。
- ・幸せの感じ方は人それぞれであり、相手の価値観も自分の価値観も大切にしながら、自分らしく充実した生き方をしようとする心情を育てる。

(3) 概要

児童の身近な「学校」に視点をしばって日本と世界の学校を比較していく。その中で児童は日本の学校制度が世界のあたりまえ、常識ではないことや学校に行くことができていない子どもたちが世界にはたくさんいるという課題に気づくだろう。そこで、学校に行っていないと具体的に何が困るのかについて考え、文字が読めないことで起こる日常生活の不都合を体感するためにワークショップを2つ行う。そして児童は先進国・開発途上国について定義を押さえ、写真を弁別する活動を通して、自身の中にある無意識の思い込みに気付かせたい。幸せの形は人それぞれであり、人に非難されたり周りが決めつけたりするものではないという気持ちが醸成されているところで自身の幸せについて考えさせる。最後に、幸せの形は人それぞれというが、子どもの権利が守られていない世界の現状を振り返り、本人たちが幸せだと感じているのならば、権利は守られていなくてもいいのかと問いオープンエンドで学習を終える。

(4) 指導上の留意点

- ・教師海外研修で訪問したラオスと、日本の反対側に位置し、時差が12時間あるブラジルを例に取り上げ、児童との対話を楽しみながらクイズ形式で学習を進めるが、事前に話を聞く視点（驚き・羨望・課題）を明らかにしておき、適宜グループでシェアする時間を設ける。
- ・『先進国』『開発途上国』という言葉の意味を学級全体で確認した後に「どんな〇〇（家・トイレ・学校・病院など）を想像するか」について先進国と開発途上国を比較させながら具体的なイメージを想像させていく。ここでは児童の素直な意見を引き出したいため、途上国についてマイナスなイメージが出てきてもよいこととする。
- ・最後は読み聞かせを通して、子どもの権利が守られていない国や地域があることをもう一度想起させ、幸せ・権利・現状について再考させながらオープンエンドで学習を終えたい。

(5) 児童生徒の感想や学び・気付き

♥️ どんときに幸せを感じますか？

- 家族や友達と遊んでいるとき
- 家族で好きなドラマを見るとき
- みんなでおいしいお母さんの作ったごはんを食べているとき
- あったかい布団の中で寝るとき
- 宿題とかやらないといけないことが終わったとき

【学習を通して考えたこと・感じたこと】

私が今まで幸せと思っていたことは、いつでもインターネットにつないで好きな動画を見たりゲームができるということでした。でも今日の勉強で私が感じた幸せは、心がほっとしたり、自分の時間を自分のためにゆっくり使ったり、友達や家族といっしょに何かをしているときだと気づきました。それから、世界には色々な事情で学校に行くことができない子どもがいっぱいことも知りました。だけど私は、その人が今の状況を幸せと感じているんだったら、それは幸せでいいと思います。権利は守られていないかもしれないけど、その人が幸せならそれでいいと思いました。私は歩いて通えるところに学校があって、下校後は友達と遊んで、それはあたりまえじゃない幸せなことなんだと思いました。だから私は日本で生まれたことに感謝して、今の生活が当たり前と思わずに過ごして行きたいです。

♥️ どんときに幸せを感じますか？

- 好きなことをだれにも邪魔されず思いっきりしているとき
→ テレビ・ゲーム・YouTube・友達と通話・おかし作り
- 好きなもの（寿司・焼肉・カレー）を食べているとき
- 寝ているとき
- 飼っている動物と戯れているとき
- 家で家族が出かけて一人になるとき

【学習を通して考えたこと・感じたこと】

ぼくは今回の授業で一生懸命考えたけど『あたりまえ』とか『幸せ』というものがよく分からなかったです。でもそれは『あたりまえ』とか『幸せ』は人によるもので正解とか答えがないから分からないのかなとも思いました。権利というのは子どもたちが求めているなくても、周りの大人たちが子どものために、こうした方がいいと考えて決めたものだから、本人が幸せって思っても権利が守られていないと、それは本当の幸せじゃないと思いました。ぼくも学校に行く権利がなかったら、今日の授業みたいに文字が読めなくて、もしかしたらそれが命に関わる大変なことにつながるかもしれないと思いました。今回の授業はすごく頭を使って色々なことを考えました。本当の『あたりまえ』とか『幸せ』ってなんだろうと答えを出すことができません。

【授業実践をした上での感想・ふり返し】

本時は2時間通しの90分授業であったが、子どもたちは最後までよく考え、集中し、楽しみながら学習することができた。導入では、同じ小学校でも国が違えば制度もルールも全く違うのだと興味をもって学習に向かう姿が見られた。児童は自分たちの生活と比較しながら考えることはできていたが、「羨望」の視点が強く、多角的な立場から事象について考えるというところまでには至っていない。学校制度の違いや世界の登下校、昼食の様子を見たときに「本当にこのままでいいのかな。これってちょっとまずいんじゃない。」と考えたり、反対に「〇〇だから日本もこうした方がいいのになあ…」という視点についてグループや全体で共有する時間を十分に与えると、批判的思考力の育成にもつながっていくのではないかと考える。子どもたちは学習を進めていく中で世界の子どもたちが直面している課題に出会う。小学校に入学した子どもの割合、教育課程を終え卒業した子どもの割合、世界各国の識字率の数値を示すことで、現代においても世界には学校に通えていない子どもたちがこんなにいるのかと驚いている様子だった。2つのワークショップでは「文字が読めない」を体感することができた。文字が読めないと数字や勘に頼って決めるしかないこと、分からないから投げやりになってしまう感情、教えてって周りの人に聞いても誰も分からない為す術のない状況を実感することができた。今までは世界の課題に対して、遠い海の向こうで起こっていること（他人事）と思っていた児童であったが、学習を通して「自分らあは学校に行けゆうけど…」「日本は識字率が高いけど…」「このままじゃいかん！」と自分事として考え、不安感や憤りをぽつりぽつりと呟く姿も見ることができた。学習の最後、幸せ・権利・世界の現状の関係については本時の中で一番熟考させたかった場面であったが時間が足りず、全体でシェアすることはできなかった。振り返りから児童の考えや気付きを見取ることはできたが、答えのない問いについて児童の言葉でああだこうだと議論させたかった。これから児童は社会科「世界の中の日本」という単元に入り、地球規模の課題、国際連合の取組や日本の役割について学習を進めていく。子どもたちには今回抱いた感情や思いを忘れず、今この瞬間に世界のどこかで起こっている課題を自分事としてとらえ、共に生きることのできる公正な地球社会を目指して行動できる人であってほしいと思う。私自身も地球で暮らす社会の一員として研鑽を積みながら世界の出来事に関心を持ち、答えのない問いについて児童と共に議論したり、子どもたちが世界を身近に感じるきっかけとなったりするような一年一年を築いていきたい。



グループで話し合う児童たち



グループで選んだ薬を飲んでいる児童

多文化共生

はじめに

インバウンドツーリズムの発展や、外国人労働者の参入等で、日本に住む外国人市民が増えている。萩市の人口は41,785人、うち外国人市民は471人ほどである。現任校の地区に限っては、35人の外国人居住者がいるが、生徒に問うと彼らとの面識はないという。互いに存在は認識しており、相手のことを知りたいという気持ちをもっている一方で、外国人市民と日本人市民との交流はほとんど見かけられない。それぞれがもつバックグラウンドの違いから理解が十分でないためにすれ違い、トラブルになるケースも少なくない。今後外国人市民は増えると見込まれている。これからの社会を生きていく子どもたちに、異なる背景をもつ人々とどのように生きていくのかについて考えてほしいと思っている。そこで、交流する機会をもつことで互いのことを「外国人」というレベルから、〇〇さんと名前呼び合う「個人レベル」にまで引きあげ、共に生活する仲間として、異なる文化や慣習をもつ相手を知り、互いを尊重していこうという実践意欲を培うことを目指して今回の教材を作成した。

この教材の使い方

この教材は、小学校高学年から中学校3年生を対象にすることを想定している。異なる文化や慣習を理解しようとする態度を子どもに身に付けてほしいという願いを込めて本教材を作成しているため、導入部分では日本と外国の違いや共通点・類似点を見つけることになっているが、どの国を取り扱うにしてもその国との出会いはポジティブなものになるようにしていただきたい。

全体のねらい

- ・日本とのつながりや日本との違いを知ることで外国への興味関心を高める。
- ・外国人の人権について考えることで人権意識の基礎を身につける。
- ・文化や慣習の異なる相手と互いの違いを理解し、尊重し合いながら生きていきたいという道徳的実践意欲を培う。

アクティビティ1 「ラオスってどんなところ？」

●概要

文化や慣習について書かれたカードを、①ラオスについての情報、②日本についての情報、③両国に共通する情報の3つに分類する。

●ねらい

生徒にとってあまりなじみのない国であるが、教師の示す資料や経験談を聞くことを通して、日本とラオスとの「違い」「似ていること・共通点」「関わり」に気づき、外国への興味関心を高める。

●主な対象

中学校1年生～3年生

●用意するもの

- ・情報カード（P78・予め切り離しておく）：グループ数分
- ・スライド「ラオスの概要」（P79～80）

●所要時間

50分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 「ラオスの概要」について聞く。 2. 「情報カード」をグループごとに配布し、以下の3つに分類させる。 ①ラオスについての情報 ②日本についての情報 ③ラオスと日本に共通する情報 3. 答えと解説を聞く。	メインの活動の答えに関わるため、すべてを話すのではなく、日本との距離や移動にかかる所要時間、人口や宗教についてのみに絞る。 教師は答え合わせをしながら説明を補足する。
ふり返り 今日の授業を通して、意外だったことや面白いと思ったことをふり返る。	

情報カード（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

※予め切り離しておく。

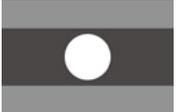
子どもたちはほとんど遅刻をしません。	早寝早起きをします。
よく病院に行きます。	ご飯を食べる前に必ず手を洗います。
ほとんどすべての国民が読み書きできます。	主要な発電方法は水力発電です。
よくお米を食べます。	道にはゴミがあふれ、穴も開いています。
女性の社会進出がすすんでおり、女性管理職もいます。	街には様々な国の食べ物が食べられるレストランがあります。
料理には味の素を使います。	子どもも大人もスマホを持っています。
バーコード決済が普及しています。	

※カードの解説

- ・「早寝早起きをします」：家の手伝いや托鉢があるため。
- ・「ご飯を食べる前に必ず手を洗います」：手を使って食べる文化があるため。

スライド「ラオスの概要」(見本)

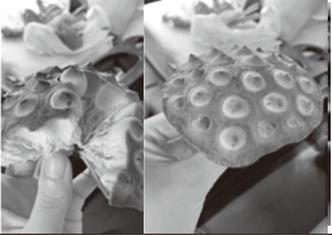
※データはウェブ上からダウンロードしてください。

<h2>ラオスってどんな国？</h2> <p>萩市立越ヶ浜中学校 高森菜摘</p>	<p>08.07~08.17 (10日間)</p>  <p>ラオス(Laos)</p>	<p>10.10~10.20 (10日間)</p>  <p>石破首相 初の外国訪問 10日からラオスへ ASEAN首脳会議に出席</p>
	<p>福岡空港 → 2h20min</p> <p>バンコクスワンナプーム空港</p> <p>時差は... -2時間(ラオスの方が遅い)</p> <p>← 1h20min</p> <p>ヴィエンチャン空港</p> <p>total: 3h40min</p>	<h3>概要</h3> <p>人口約171万人 (ほぼ埼玉県の人口)</p> <p>面積約23万平方キ。 (ほぼ日本の面積)</p> <p>日本の本州に埼玉の人口で住んでいる状況</p> <p>過疎地があちこちに散らばっている</p>
<h3>人口ピラミッド</h3>  <h3>若い国</h3> 	 <p>ミャンマー、ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、マレーシア、インドネシア、フィリピン、シンガポール、ジャバ、ブルネー、東ティモール</p>	<h3>言葉</h3> <p>公用語：ラオス語</p> <p>多民族国家 (約50種の民族)</p> <p>それぞれに言葉・文化がある</p> <p>ຊື່ປາຍຸດີ サイパディー (あいさつ)</p> <p>ຂອບໃຈ コブチャイ (ありがとう)</p>
	<h3>日本で見つけたラオス</h3> <p>ラオス製のモノ</p> 	<h3>日本で見つけたラオス</h3> <p>ラオス製のモノ</p>  <p>https://youtu.be/E1ETJdxBCs0</p>
<h3>ラオスで見つけた日本</h3> <p>日本製のモノ・技術</p> 	<h3>ラオスってどんな国？</h3> <p>ラオス人民民主共和国</p> 	<h3>高森先生が見た・感じたラオスは？</h3> 
<h3>カードを分類しよう！</h3> <p>次のカードには、高森先生がラオスに行って感じたことが書かれています。それぞれ①～③どれに当てはまるでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本のこと ② ラオスのこと ③ 共通のこと 	<h3>ラオスの朝は早い</h3> <p>托鉢</p> 	<h3>食べ物</h3> <p>カオニャオ (もち米・手で食べる)</p> 
<h3>食べ物</h3> <p>ラープ</p> <p>(ハーブときゅうりをアンプラーやライムで和えた料理)</p> 	<h3>多国籍料理</h3> <p>スリランカ ピザ (イタリア人経営) フランス料理 (なぜ?) 日本食 (日本人経営)</p> 	<h3>味の素</h3> 

珍味
バッファロー（水牛）のソーセージ



珍味
蓮の実



珍味
コオロギ
ハッタ
蚕




発電



ラオスで見つけた日本
日本製のモノ・技術



ラオスで見つけた日本
日本製のモノ・技術



ラオスで見つけた日本
日本製のモノ・技術



ラオスで見つけた日本
日本製のモノ・技術



ラオスで見つけた日本
日本製のモノ・技術



ラオスの教育

- ・ 9月～6月
- ・ 夏休みは農業の時期
- ・ 2学期制 (9～1月末、2月～6月末)
- ・ 小5 ←フランスの影響
- ・ 中4
- ・ 高3
- ・ 大4

ラオスの教育

中退率

中学校・・・
11.2%

小学校・・・
4.4%

小学校を退学する子ども
毎年1万人

授業料は無料（小中）
コト一代や施設管理費などが家庭負担
経済の悪化
→教育にお金がかけられない
→働いて家にお金を入れようという発想

ラオスの教育

識字率

男・・・
86.3%

女・・・
82.1%

読解力調査で単語を1つも読めなかった小学2年生30%、読めても文章の内容を理解出来なかった生徒57%

母語で授業を受けられない。

ラオスの教育

ラオスは多民族国家

およそ50の民族

- ・ 独自の言葉
- ・ 独自の文化
- ・ 独自の慣習

教授言語はラオス語と学校教育法で定められている。
→母語で教育を受けられない。

スマホ




アクティビティ2 「ちがいのちがい」

●概要

教師が提示する事例を「あってもよいちがい」と「あってはならないちがい」「どちらともいえない」に分類し、そのように分類した理由を考える。

●ねらい

教師が用意した事例を「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」に分類し、生徒同士の意見を交流させることを通して、人権について考え人権意識を高めさせる。

●主な対象

小学校高学年～中学校3年生

●用意するもの

- ・ワークシート (P83～84) : 全員分
- ・パワーポイント (P82)

●所要時間

50分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<ol style="list-style-type: none">1. 本時の学習活動を把握する。 学校区に住む外国人市民の人数や国籍についてのクイズを出題する。2. ワークシートを配り、まずは個人ですべての事例を「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」に分類し、その理由をワークシートに書く。3. 個人で考えた意見をもとに班で交流し、最終的にグループとしての考えをまとめる。最後に、黒板にどのように分類したかを提示する。4. グループの代表者が分類した理由を発表する。5. 『「ちがいのちがい」とは何か』を問い、考える。	<p>外国人市民と共に生きることについて身近なこととして捉えさせる。本時の学習活動について説明し、考えさせたいすべての事例を提示する。</p> <p>異なる意見をもつグループに問い返すなど、生徒の価値観を磨いていく。</p>

6. 多文化共生についての話を聞く

前時に教師がラオスについての紹介の中で触れた「多民族国家」の話から多文化共生につなげ、日本国内でも多文化共生の考えをもつことの必要性を伝える。そして身近な外国人市民として日本語学校に通う外国人学生との交流が企画されていることを予告し、次時につなげる。

パワーポイント (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

<p>萩市で暮らしていて、外国の方を見かけることはありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこで？ ・観光客？ 住んでいる人？ 	<p>外国人観光客だけではなく、外国人市民も増えている！</p> 	<p>【クイズ①】 萩市の人口は41,785人。 そのうち、外国人市民は何人でしょう？</p> <p>答え：471人 ★後小畑には… 22人 ★越ヶ浜には… 13人</p> 		
<p>【クイズ②】 山口県の外国人市民はどこから来られたのでしょうか。多い順1位～5位に並べかえなさい。</p> <p>韓国 ベトナム 中国 フィリピン インドネシア</p> 	<p>山口県の外国人市民はどこから来られたのでしょうか。多い順に並べかえなさい。【正解】</p> <p>ベトナム 韓国 中国 フィリピン インドネシア</p> <p>ジョン先生</p> 	<p>外国にルーツがある人と共に暮らしていくこと</p> 		
<p>ちがいが①～⑥を通して、大切なことは何だと考えますか。</p>	<p>多文化共生</p> <p>言語や文化の異なる人々が互いの違いを理解し、尊重し合いながら、地域社会の一員として生きていくこと。</p> <p>誰もが安心して暮らせる平和な社会の実現</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1045 1187 1252 1355"> <p>単一民族国家</p>  </td> <td data-bbox="1268 1187 1444 1355"> <p>多民族国家</p> <p>異なる言語 異なる文化 ↓ 1つの国を共有する</p> </td> </tr> </table> <p>寛容性</p> <p>お互いを尊重し合いながら生きている。</p>	<p>単一民族国家</p> 	<p>多民族国家</p> <p>異なる言語 異なる文化 ↓ 1つの国を共有する</p>
<p>単一民族国家</p> 	<p>多民族国家</p> <p>異なる言語 異なる文化 ↓ 1つの国を共有する</p>			
<p>外国にルーツがある人と共に暮らしていくこと</p> 				

「ちがひ」の「ちがひ」を考えよう 氏名 ()

6つの「ちがひ」が、それぞれどの「ちがひ」なのかを話し合っ、当てはまるところに印を書こう。

	○あつてよいちがひ △迷う (AともBとも言えない) ×あつてはいけなひちがひ	そう思つた理由
ちがひ① A 先生は辛い食べ物が好きだが、B 先生は辛い食べ物が嫌い。		
ちがひ② A さんは A 型なので毎月 25 万円もらえるが、B さんは B 型なので毎月 23 万円である。 (入社日は同じとする。)		
ちがひ③ (コンビニにて) A さんは日本人なのでお酒をくれるが、B さんは外国人なのでお酒を売ってもらえなかつた。		
ちがひ④ コンビニ店員の A さんは日本人なのでヒゲを剃らなひと怒られたが、同じくコンビニ店員の B さんは外国人なのでヒゲを剃らなひでも怒られなかつた。		
ちがひ⑤ 自国の宗教を信仰している A さんは授業中もヒジャブを着けているが、B さんは授業中は帽子を脱ぐように言われた。		
ちがひ⑥ 昼休みにバスケットをしてる級友に「一緒に遊びたい」と言うと、A さんは日本人なので仲間に入れてもらえるが、B さんは外国人なので仲間に入れてもらえない。		

ちがい①～⑥を通して、あなたは「大切なことは何」だと考えますか。

<キーワード>

社会

★今日の授業を通して考えたこと、学んだことは何ですか。また、それをこれからの生活にどのようにいかしていきたいですか。

氏名 ()

アクティビティ3 「やさしい日本語」

●概要

日本語の単語や短文をやさしい日本語に言い換える演習に取り組む。

●ねらい

外国人とのコミュニケーションをとる際の言語は必ずしも英語ではないということ、そして日本語学習者とのコミュニケーションは「やさしい日本語」が有効であることに気づき、より良いコミュニケーションについて考え実践していこうという実践意欲を培う。

●主な対象

小学校高学年～中学校3年生

●用意するもの

・パワーポイント (P86～87)

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
1. 本時の学習活動を把握する。	次時に予定されている外国人学生との交流に向けてよりよいコミュニケーションについて考え学ぶためにワークをすることを伝える。
2. 日本語を「やさしい日本語」に変換する。 いくつか「やさしい日本語」についての問題に取り組む。(P86スライド13～16) その後、教師がやさしい日本語のポイントを紹介する。	
3. 「やさしい日本語」を意識しながら、外国人学生との交流で行う活動に練習として取り組む。	実際に行う活動に事前に取り組むことで、交流会当日に向けての実践意欲が高まるようにしたい。
4. やさしい日本語が誕生した背景を知り、今後の生活に本時の学びをどのように生かしたいか考える。	やさしい日本語が災害時の避難所で活用されていることを話し、日常生活においてはもちろん、非常時に外国人と日本人との壁がうまれることなく、コミュニケーションをとって助け合うコミュニティづくりに貢献してほしいという願いを伝える。

パワーポイント (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

あなたは日本の旅館で働いています。

ある日、外見やお名前からして外国人と思われるお客様が泊りに来ました。

あなたは何語で接客しますか？
(あなたの語学力は今の程度とします。)

あなたは日本の旅館で働いています。

ある日、外見やお名前からして外国人と思われるお客様が泊りに来ました。

あなたどのように接客しますか？
(あなたの語学力は簡単な自己紹介や日常会話ならできるが、物事の説明は難しいとします。)

外国人っぽい人には、英語で話せばいいんだ!!



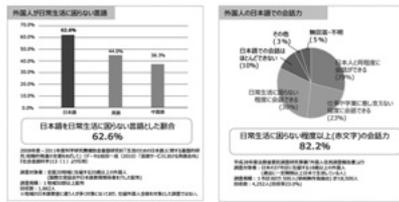
ALTの先生の話聞いてみよう

外国人っぽい人には、英語で話せばいいんだ!!



日本語で話しかけられたら日本語で返す。相手が不便そうならば、「他に話しやすい言語はありますか?」とコミュニケーションしてみる。このように、決めつけずに相手と向き合うことが大切なのではないでしょうか。

●●先生はラオスで...



ここは誰が何するところ?

さくら国際言語教育学院

- 外国人学生
- 日本人



さくら国際言語学院の学生と交流します!

12月4日(水)5時開目
3つの国の出身の学生6名




なぜさくら国際言語学院の学生と交流するの?

人権参観日のキーワード
“多文化共生”



お互いのことを知ることが、多文化共生・国際理解の第一歩です!

さくら国際言語学院の学生と交流します!

学生の母語は英語ではありません。
私たちの共通言語は日本語です。



より良い交流にするために、より良いコミュニケーションについて考えよう。

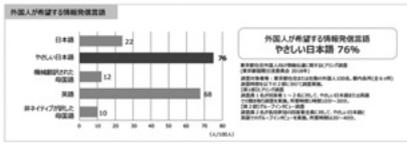
どちらの表示の仕方がよりたくさんの人に理解されると思いますか?



やさしい日本語

普段使われている言葉を外国人にもわかるように配慮した、簡単な日本語のこと。

日本語学習者と、やさしい日本語であればコミュニケーションが取れます。



次のことばをやさしい日本語にしてみよう

- ① 召し上がる ⇒ 食べる
- ② 土足禁止 ⇒ 靴を脱いでください
- ③ 高台へ避難してください ⇒ 高い所へ逃げてください

やさしい日本語のコツ①

- ② 簡単な言葉を使う

- ・漢語→和語(避難→逃げる)
- ・カタカナ語→和語(ダイヤ→電車が来る時間)
- ・敬語、謙譲語→普通語(ご覧ください→見てください)
- ・複雑な動詞→簡単な動詞(聞いてみてください→聞いてください)
- ・抽象的な言葉→具体例を示す(特徴は?→色は?)

覚えたほうがいい言葉はそのまま使い、説明を加える。

次のことばをやさしい日本語にしてみよう

- ① ウォーキング ⇒ 歩くこと
- ② 登校 ⇒ 学校へ行く・来る
- ③ うち、ここたわんげえ、かわりにふいちよってーやー ⇒ 私は届かないので、拭いてください。

次のことばをやさしい日本語にしてみよう

- ① 最近K-POPが人気ですね。 ⇒ 最近韓国の歌が好きな人が多いですね。
- ② 趣味は何ですか。 ⇒ 何が好きですか? スポーツ? 音楽? 料理?
- ③ その観光名所はどこですか。 ⇒ ○○の有名なところ・ものは何ですか。

やさしい日本語のコツ②

- ② 簡単な文構造にする
- ③ 情報を絞る
- ④ 必要に応じて、説明を加える

- ・文を短くする
- ・文末表現はなるべく統一する(です・ます形)
- ・受身文→能動文(～が配られます→～を配ります)
- ・二重否定は避ける(可能性がないわけではない→可能性がある)
- ・分かりやすいよう、伝える順番を工夫する
- ・「日本の常識」を前提としている内容は、補足説明を加える

共通点を探せ!

ペアになって、その人との共通点を見つけましょう。共通点を見つけるために、自分のことを伝えたり、相手に質問したりしましょう。

制限時間は1分!
「私たちは○○チームです」と発表します。

共通点を探せ!

3人グループになって、その人との共通点を見つけましょう。共通点を見つけるために、自分のことを伝えたり、相手に質問したりしましょう。

制限時間は1分!
「私たちは○○チームです」と発表します。

共通点を探せ!

4人グループになって、その人との共通点を見つけましょう。共通点を見つけるために、自分のことを伝えたり、相手に質問したりしましょう。

制限時間は1分!
「私たちは○○チームです」と発表します。

フリートーク

4人グループで、次のテーマについて自由に話しましょう。

- ★好きなゲームまたはスポーツ
- ★萩(山口)の好きなところ・おすすめの○○

やさしい日本語を意識して、相手に合わせたコミュニケーションをとり、お互いのことを知る時間にしましょう！



コラム やさしい日本語の歴史

やさしい日本語の歴史は、1995年の阪神・淡路大震災に遡ります。この震災のとき、日本人の死者数は約1万でしたが、外国人の死者数は2%以上でした。これは、外国人に対しても品揃え次第の情報を提供を行う手帳として取組が始まり、その後、新潟県中越前地震(2004年)や東日本大震災(2011年)を経て、災害時のやさしい日本語での発信の取組が全国に広がりました。一方、平時のやさしい日本語での情報発信も、2000年代に入ってから、地方公共団体や民間交流協会で行われています。近年では、外国人観光客とのコミュニケーションや、外国人住民と日本人住民の交流を促進する手段としてやさしい日本語も活用した取組も進んでいます。



このようにやさしい日本語は多方面で期待されていますが、やさしい日本語の取組はまだまだ多くの人に知られていません。熊本県は2016年のために、避難所で外国人と日本人がコミュニケーションをとることができず、お互いに距離を置いていたという事例がありました。この課題の1つとして、報道では、外国人がやさしい日本語であればコミュニケーションがとれることを日本人が認識してなかったことが指摘されています。

あなたならこれをどのように伝えますか？

昼食配布予定
12:00~

※本日の昼食には、いか・えび・たまごが入っています。アレルギーの方は申し出てください。代替の物を用意しております。

あなたならこれをどのように伝えますか？

歯の診察に〇〇先生が来られます。診察を希望される方は事前に受付を済ませてください。

なぜさくら国際言語学院の学生と交流するの？

人権参観日のキーワード
“多文化共生”



お互いのことを知ることが、多文化共生・国際理解の第一歩です！
〇〇人だからではなく…〇〇さんは…

アクティビティ4 「知り合いになろう」

●概要

市内にある日本語学校の学生（外国人市民）と交流をする。

●ねらい

- ・前時で学習したやさしい日本語を意識しながら外国人市民と交流することで相手に合わせたコミュニケーションを取ることを有用性を実感する。
- ・互いの共通点や文化や慣習の違いについて知り、理解しようとする実践的意欲を培う。

●主な対象

中学生

●用意するもの

- ・パワーポイント（P89）
- ・母国について説明する際に必要な資料（外国人市民に作成してもらう）

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 本時の流れを把握する。	教師自身がやさしい日本語を使用するように心がける。
2. 「共通点を探せ！」に取り組む。 ①日本人の生徒と外国人市民がペアになり、会話をしながら共通点を探る。最後に「私たちは〇〇チームです」と発表する。 ②同様の活動を3人で行う。 ③同様の活動を4人で行う。	戸惑う様子が見られたら、生徒と外国人市民をつなぎ、発話を促す。
3. 外国人市民の母国についての紹介を聞く。 （外国人市民は日本語学習者のため、日本語で話してもらう）	話を聞くだけでなく、質問したいことやさらに深掘りして聞きたいことは、随時聞くように促す。ざっくばらんに話せる雰囲気をつくる。
4. 各国の言葉のあいさつを学ぶ。	この出会いを大切にして、今後街で出会ったら勇気を出して声をかけてほしい。また、行事や仕事、災害時等で一緒に活動するような場面に出会ったら今回の学びをいかして協力して活動してほしい等、教師の願いを伝える。
5. 代表生徒・学生があいさつをする。	

パワーポイント（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

<p>●●中学校へようこそ!</p> 	<p>～ Today's menu ～</p> <ol style="list-style-type: none">1. アイスブレイク2. 共通点を探せ!3. ふるさと紹介4. フリートーク5. あいさつ講座6. 写真撮影7. 代表挨拶	<p>共通点を探せ!</p> <p>ペアになって、その人との共通点を見つけましょう。共通点を見つけるために、自分のことを伝えたり、相手に質問したりしましょう。</p> <p>制限時間は1分! 「私たちは〇〇チームです」と発表します。</p>
<p>共通点を探せ!</p> <p>3人グループになって、その人との共通点を見つけましょう。共通点を見つけるために、自分のことを伝えたり、相手に質問したりしましょう。</p> <p>制限時間は1分! 「私たちは〇〇チームです」と発表します。</p>	<p>共通点を探せ!</p> <p>6人グループになって、その人との共通点を見つけましょう。共通点を見つけるために、自分のことを伝えたり、相手に質問したりしましょう。</p> <p>制限時間は2分! 「私たちは〇〇チームです」と発表します。</p>	<p>フリートーク</p> <p>★好きなスポーツやゲームについて ★秋のすきなところ・おすすめは?</p> <p>など、自由にお話ししましょう!</p> <p>13: まで</p>
<p>ふるさと紹介</p> <p>さくら国際言語学院の学生さんのふるさとについて紹介してもらいます!</p> <p>話を聞いて、もっと知りたいことなど質問してももちろんOK!</p> <p>13: まで</p>	<p>あいさつ紹介</p> <p>さくら国際言語学院の学生さんのふるさとで使われている言葉であいさつをしてみよう!</p> 	<p>写真撮影</p> <p>今日の出会いを記憶と記録に残しましょう!</p>
<p>代表挨拶</p>	<p>～ 今日の出会いを大切に ～</p> 	

おわりに

外国と日本は違うというイメージをもつ生徒が多いが、アクティビティ1で違いだけでなく共通（類似）についても注目させることで、日本とのつながりを知ったり親しみをもったりさせることができる。生徒にとって一番身近な外国人であるALTの活用はもちろん、地域人材の活用も積極的に行いたい。日々の教育活動の中で、生徒が日本の外に興味をもったり、自分の身近にある課題に気づき考えたりするきっかけをつくり続け、生徒の可能性を広げていきたい。

参考文献・引用資料

- ・文化庁 在留支援のためのやさしい日本語ガイドラインほか
https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/92484001.html
- ・山口市国際交流課主催「多文化共生社会推進活動」講座の一部を参考（アクティビティ4パワーポイント）

実践事例報告

プログラム作成・実践者

高森 菜摘

学校名

萩市立越ヶ浜中学校

担当教科

外国科（英語）

実践教科

英語

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

「多文化共生」

(2) 単元のねらい

言語や文化の異なる相手と互いの違いを理解し、尊重し合いながら生きていきたいという思いをもち、多文化共生社会の実現のために自分たちができることは何かを考えることができる。

(3) 概要と生徒の感想・学びや気づき

「行ってみたい国は？」と尋ねるとたいいてい先進国が選ばれる。そこで、生徒の外国に関する興味関心を広げ、開発途上国に対してポジティブなイメージをもたせるねらいのもと、アクティビティ1を実施した。終末に、日本は単民族国家であるのに対しラオスは多民族国家であることにふれ、単元のテーマにつなげた。

- ・「最初はラオスという国は聞いたこともなく、どんな国か想像もつかなかったけど、スマホやQRコード決済、多国籍なレストランなど日本と同じように進んでいる部分もあって驚いた。でも、経済や教育問題はまだあるので少しでも支援して改善されてほしい。」
- ・「貧困の国と聞いていたから、子どもたちもスマホを持っていることに驚いた。」
- ・「お米がモチモチしていると聞いたので1回食べてみたいと思った。」

次の展開でアクティビティ2を行った。取り扱う事例は、生徒がすぐに判断できるものと迷うものの両方を用意した。また、事例を読み進めるにつれ生徒の思考が深化するように工夫した。ちがい②では自分では変えられないこと、ちがい③では外国人とくくられ差別を受けること、ちがい④では相手の国の慣習、ちがい⑤では宗教について考えられるように設定した。本アクティビティの実践を通して文化や慣習が異なる相手と共に生きるために、互いを理解し尊重しようとするのが大切であるという意識をもたせることができた。その意識をもたせた上で、実際に外国人市民との交流の場を設けることを生徒に伝えた。

- ・「日本人や外国人、人によって態度を変えることはいけないことだけど、一人ひとりの気持ちを考えて接し方を変えるのはいいことで、「あってはいけない違い」と「あっていい違い」があることが分かった。」
- ・「宗教上の理由で事情があることを理解し合って生きていくことは難しいと思ったけど、実際にできている中学生がいることを知って自分も頑張ってみようと思った。」
- ・「これからの社会は少子高齢化やグローバル化により外国人も増え、関わりが多くなると思います。そこで互いを傷つけないように理解・尊重し合って生きていきたいと思う。」
- ・「自分を基準にして外国人や周りとは違う人を批判してはいけないと思った。周りとは違うことをみ

んなに伝えて分かってもらうことや、相手を理解する考え方が大切だと思った。」

第3次にアクティビティ3を行った。外国人市民との有効なコミュニケーションの手段としてやさしい日本語を紹介し、演習を取り入れながら感覚をつかませていった。そして最後となる4限目に実際に交流をさせた。

- ・「最初はやさしい日本語を話すのは簡単だと思ったけれど、難しい言葉を伝えるのは少し工夫がいると思った。」
- ・「やさしい日本語を話した方がいろんな人に伝わるのだと思った。多文化共生の実現のためには、まずコミュニケーションが必要で、「〇〇人だから～～」と決めつけてはいけないと分かった。」
- ・「日本国内にいる外国人の中で、簡単な日本語なら理解できるという方が多くて驚いた。これから地域で必要なお知らせなどをするときには言葉を意識したい。」

単元の総まとめとなる第4次では、生徒は最初緊張の表情を見せたものの、交流を通して相手のことを知っていくことで自然と打ち解けていき、「また交流したい」「学校の外で会ったらあいさつしたい」という感想が見られ、同じ地域住民として共に生きたいという思いをもつことができた。

- ・「『スイーツは何が好きですか』と聞いても伝わらなかったの『甘いもの』に言い換えたら伝わりました。」
- ・「『和菓子』が何か分からないと聞き返されたので『日本のお菓子』と答えたら分かってもらえた。」
- ・「学生さんの母国では、食事は手で食べる文化が面白いと思った。手で食べたほうが美味しいと言っていたのもおもしろい違いだと思った。」
- ・「あまり英語や日本語が得意ではなくても、話したい気持ちがあれば伝わるので外国人だから日本語が通じないと諦めずにコミュニケーションに挑戦してみたいと思った。」
- ・「もし避難所などで外国人の方がいたら先にやさしい日本語で話してみて、日本語が通じなかったら翻訳機を使いたい。」

(4) 指導上の留意点

アクティビティ2について、生徒やその家族等の事情を考慮しながら取り扱う事例を選択する必要がある。

【授業実践をした上での感想・ふり返り】

生徒には馴染みのない国を取り上げる際に、「可哀そう」「自分には行きたくない」などネガティブに感じるのではなく、ポジティブな出会いにしたいという思いがあった。授業後、「行ってみたいと思った」「面白いと思った」等の生徒の感想が見られたので、そののねらいは達成できたと実感している。また、最終的には自分の身近なことに目を向け、自分にできることを考え実践にうつす・またはこれから行動したいという実践意欲を培いたいという思いから、地元の日本語学校に協力を仰いだ。わたしにとっても本校にとっても初めての試みであったが大きな教育的効果があったと振り返る。今後も地域の教育資源や人材を活用して、国際協力や国際理解、多文化共生について生徒と考えていきたい。



学生と交流している様子



「ちがいのちがいの」の授業で意見を共有している様子

数学を使って世界を考えてみよう

はじめに

2015年9月の国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられた。これは、貧困や紛争、不平等、気候変動による自然災害など、人類が直面している様々な問題を根本から解決し、より良い世界をつくるために設定された世界共通の目標である。17の目標に整理されているSDGsであるが、ラオスでは18番目の目標「不発弾の除去」を国が独自に掲げている。このことを、私は教員海外研修に参加し、UXO Laoの活動や博物館での展示を通して初めて知った。相互依存関係が深まる今日の世界で、他国（ラオスに限らず）で起こっている現実を決してよそ事ではない。パソコンやタブレット、スマホなどが普及している現在、海外の情報はいつでも簡単に知ることができる。しかし、実際にその場所に行き、そこで生きている人から話を聞き、その場の空気に触れて感じたこと、考えたことはメディアを通して知ること以上に、説得力のあるものであった。今回、教師海外研修という大変貴重な機会をいただいた。ラオスを知ることにとどまらず、ラオスを知ることを通し、「世界はせまい 世界は同じ 世界はまるい ただひとつ」というIt's a small worldの歌詞の意味を生徒とともに考えていきたい。

この教材の使い方

指導者の思いや考えを一方向的に語るのではなく、アクティビティを通して、生徒がどう感じたか、どう考えたかを生徒自身の言葉で表現させることに重点を置きたい。また仲間同士、互いに意見を交流することで自分では気づかなかった発見や学びを紡いでいけるよう、生徒の意見を集約したり、質問したりして授業を創っていききたい。

全体のねらい

自分の中にある無意識の思い込みや固定観念に気づかせる。また、数学の知識・技能を使って、「不発弾除去」というラオスが抱える深刻な現状に触れさせ、よりよい世界を創っていくために自分たちができることを考える。

アクティビティ1 「メンタルマップ 私の中の世界地図」

●概要

世界地図を頭の中に思い浮かべ、浮かんだ地図を白い紙に書かせる。自分が書いた地図と仲間が書いた地図を比べて感じたことを交流する。さまざまな世界地図を提示し、気づいたことについてふり返る。今回はこのアクティビティを中学1年生数学「座標の意味を理解する」の授業の導入や中学3年生の道徳「B-(9) 相互理解、寛容」で使用した。

●ねらい

自分の中にある無意識の思い込みや固定観念に気づく。

●主な対象

中学生

●用意するもの

- ・白紙：全員分
- ・筆記用具：各自用意
- ・ピーターズマップ：モニターで提示する。
- ・地図（メルカトル図法）：モニターで提示する。

●所要時間

15分～

●すすめ方（中学1年生数学での例を示す）

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<ol style="list-style-type: none">1. 世界地図を思い浮かべる。2. 全員にA4の白紙の紙を配布し、自分が思い浮かべた世界地図を描く。3. 隣同士で交流する。4. 4人グループになって、グループ毎に他者の書いた地図についての意見を交流し、グループ毎に出た意見発表する。5. ピーターズマップを見る。6. モニターに映し出されたメルカトル図法の地図を見る。7. モニターに映し出された地図の中にある都市の位置はどうやって表すのかを考える。	<p>各自が書いた世界地図を、隣の生徒と見せ合い、相手の地図を見て気づいたこと、感じたことを互いにコメントする。このとき、相手の書いた地図に対して冷やかしたり、馬鹿にするような否定的なコメントをしないように促す。</p> <p>生徒の発言を繋げたり、質問したりしながら自身ももつ思い込みや固定観念に気づかせる。</p> <p>平面上の点の位置は、2つの数の組を使って表すことを確認する。</p>

<p>8. 数学用語（x軸、y軸、座標軸、原点、x座標、y座標）を理解する。</p>	<p>数学用語を理解させる。理解しにくい生徒がいた場合、生徒同士で教えあってもよい。（「中学校数学1」P137～138、学校図書）</p>
<p>9. 座標平面上における点の位置を読む練習や点の位置を座標で表す練習をする。</p>	<p>全員が座標平面上における点の位置の読み方や点の位置の表し方が理解できるように配慮する。</p>

●用語の解説

ピーターズマップ：1973年にドイツの歴史学者アーノ・ペーターにより制作された大陸や面積比が正確に表現されている地図。一方、メルカトル図法の地図では高緯度に位置する赤道よりも北半球の国々が大きく表され、アフリカや南米地域が相対的に小さく表されている。

アクティビティ2 「みんなのSDGs18番目を考えよう」

●概要

ラオスで買った栓抜きやキーホルダーを見せ、何から作られているか問う。不発弾をアップサイクルした栓抜きやキーホルダーであることを伝えるとともに、ラオスについて紹介する。ラオスでは国独自にSDGs18番目の目標として「不発弾の除去」を掲げていることを知らせ、私たちのSDGs18番目の目標を考えさせる。今回はこのアクティビティを中学1年生数学「比例・反比例の利用」の単元末や中学3年生の道徳「C-(18) 国際理解、国際貢献」で使用した。

●ねらい

日本国際協力システム（JICS）の資料「ラオスの国土の3割以上にあたる87000km²に不発弾が残存していること」「年に6000haしか不発弾を除去できていないこと」に注目させ、この調子でいくと不発弾を完全に除去するために何年かかるのかを数学の知識・技能を使って予測させるとともに、よりよい世界を創っていくために自分たちができることを考える。

●主な対象

中学生

●用意するもの

- ・パワーポイント（P102～103）
- ・ワークシート（P99）：全員分
- ・キーホルダー等のお土産：ラオスで購入したもの。現物が無い場合は写真等で事例を紹介する。
- ・ヒントカード（P100～101）：①～④を1セットにしてグループ数分

●所要時間

15分～

●すすめ方（中学1年生数学での例を示す）

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 国あてゲームをし、ラオスについて紹介する。（12分） (1) ワークシートを全員に配布した後、4人グループに分かれる。 (2) 各グループにヒントカード①～④を1セットにして配布する。	ラオスの魅力や日本との関係が学べるようにする。 1人1枚のヒントカードを解くことになるが、場合によっては全員で考えたり、教えあったりしてもよい。
(3) 4人が協力してヒントを解き、どこの国かを考える。5分経過後、様子を見ながらグループに一台のパソコン使用を許可し、国を当てる情報収集を促す。	予定より早く国（ラオス）が分かったグループは、ラオスがどのような国かを調べるように指示を出す。

(4) ヒントカードとパソコンでの調査をもとにグループで国を考える。制限時間内に国（ラオス）が分かったグループは、ラオスがどんな国かを調べる。

(5) グループごとに国名と調べたことについて発表させる。

2. 教師が見てきたラオスについて話し、ナイトマーケットで買って来た栓抜きやキーホルダーを見せる。生徒はそれらが何からできているかを予想する。

3. キーホルダーや栓抜きが、不発弾をアップサイクルしてできた物であることを知る。

4. ラオスの不発弾について書かれている資料を読む（参考文献、引用資料参照）。

5. 数学を使って、不発弾除去までに何年かかるかを考える。

6. ラオスでは国独自にSDGs18番目の目標として「不発弾の除去」を掲げていることを知る。

7. 私たちのSDGs18番目の目標を考える。

(1) 個人で「SDGsの18番目の目標」とオリジナルのマークを考え、ワークシートに記入する。また、そのように考えた理由も書く。

(2) 4人のグループに分かれて、それぞれが考えた18番目の目標とそう考えた理由について共有する。

調べる時間がなかったグループは国名だけでよい。

教師の思いを一方向的に伝えるのではなく、生徒の感想を教師が整理していくように進めたい。

計算のポイントになる部分を確認する。正確に計算することや答えを出すことだけが目的ではなく、戦争が終わっても、そこに暮らす人々の恐怖は終わっていないことに気付かせる。

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、世界中にある環境問題や貧困、人権問題などの課題を2030年までに解決していこうとする世界共通の17の目標のことであるが、ラオスでは国独自に18番目を設けていることを知らせる。

イメージがつかみづらい場合は、SDGs18番目の目標を定めている日本の企業の例（モスバーガー、ベネッセ等）を示す。

(3) グループ内でそれぞれの発表を聴いた上で、気づいたこと、感じたことをワークシートの「ふり返し」の欄に記述し、グループ内で発表する。

(4) グループ内で出た「18番目のゴール」と「ふり返し」を全体で交流する。

教師がまとめるのではなく、生徒の意見を集約したり、質問したりして生徒自身の言葉で表現させる。

ワークシート（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

月 日（ ）

数学を使って世界を考えてみよう

（ ）年（ ）組（ ）

(1)



(2)

(3)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



18

(4)

ヒントカード①～④（見本）

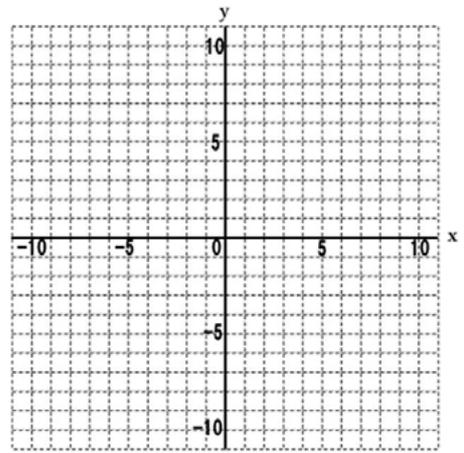
※データはウェブ上からダウンロードしてください。

【ヒント①】

むかしむかし、この国にはたくさんの野生の が住んでいました。

しかし、現在、密漁や違法取引等によりこの国に生息する野生の は数百頭にまで減ってきているそうです。

- ① (0, 6) → ② (-1, 4) → ③ (-1, 1) → ④ (2, 1) → ⑤ (4, 3) →
 ⑥ (4, 4) → ⑦ (1, 7) → ⑧ (-2, 7) → ⑨ (-4, 6) → ⑩ (-5, 5) →
 ⑪ (-5, 2) → ⑫ (-8, 3) → ⑬ (-9, 4) → ⑭ (-8, 6) → ⑮ (-6, 8) →
 ⑯ (-7, 8) → ⑰ (-9, 6) → ⑱ (-10, 4) → ⑲ (-9, 2) →
 ⑳ (-8, 1) → ㉑ (-5, 0) → ㉒ (-3, 1) → ㉓ (-3, 0) → ㉔ (-2, 1) → ㉕ (-1, -1) → ㉖ (-1, -3) →
 ㉗ (-2, -4) → ㉘ (2, -4) → ㉙ (2, -2) → ㉚ (4, -2) → ㉛ (4, -3) → ㉜ (3, -4) → ㉝ (7, -4) →
 ㉞ (7, -2) → ㉟ (8, 2) → ㊱ (9, 0) → ㊲ (8, 3) → ㊳ (4, 4) そして、点 ㉟ (-3, 4)



【ヒント②】

総務省の住民基本台帳による令和6年1月1日の調査によると

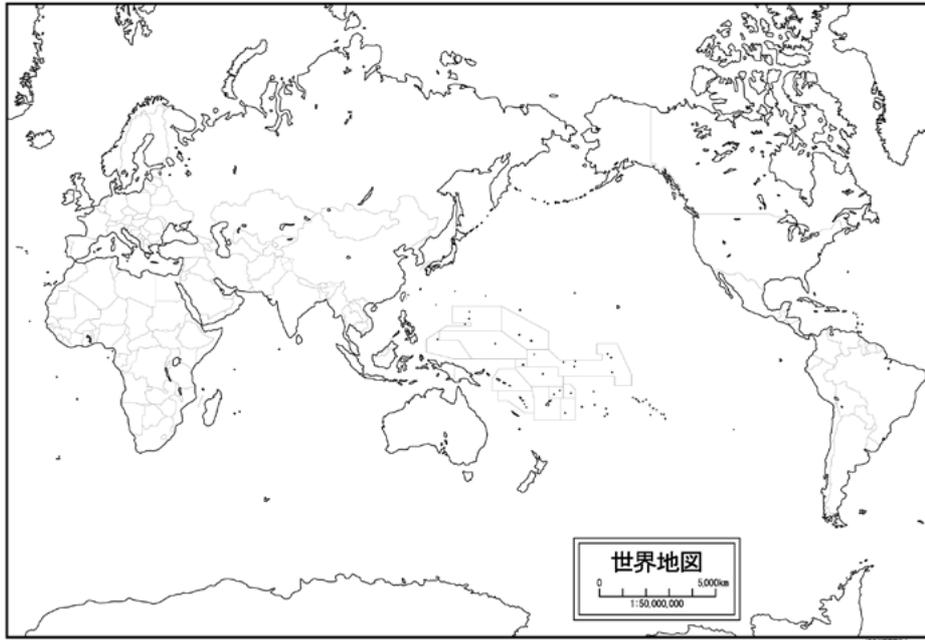
日本の人口は約1億2488万人だそうです。

一方、この国の人口は、 万人だそうです。

1-9の数字を1つずつ入れて、下のひっ算を完成させなさい。

$$\begin{array}{r}
 \square \square \\
 \times \quad \square \\
 \hline
 \square \square \\
 + \quad \square \square \\
 \hline
 \square \square
 \end{array}$$

【ヒント③】 広島から半径 10000 km以内にある国です。



【ヒント④】 暗号クイズです。暗号を解読してください。何と書いてあるでしょう。

Amdgcc

ガストではこの国の を使用しており、売り上げの一部をこの国の支援に充てているそうです。

Q3.この調子でいくと、ラオスの不発弾を全て除去するまでにどのくらいの年月がかかるのでしょうか？考えてみましょう。

【情報を整理】

- ① 不発弾が残存している地域は87000km²以上あり、国土面積の3割以上を占める
- ② 現在、年6000haしか除去できていない。目標の達成には、資金と人員などの資源と技術が必要だ
- ③ 1ha = **10000** m² つまり、1ha = **0.01** km²

ベトナム戦争の不発弾処理に苦しむラオス。かつて激しい爆撃を受けた地域を訪れると、爆弾はすでに風景の一部になっていた。



ラオス北部に位置するシエンクアン県は、土道を家畜が歩き、田園が広がる農村地帯だ。だが、この土地をはじめ訪れた人は誰もが驚く。プランター、家畜をつなぐ錐(おもり)、店のオブジェ……。それらは不発弾処理を終えた鋼鉄の爆弾を再利用して作られている。



シエンクアン県からラオス南東部一帯は、ベトナム戦争時、北ベトナムへの補給路だった。戦争中には約300万トンの爆弾が落とされ、最終から38年経った今でも約800万個の不発弾が残る。なかでもクラスター爆弾の子爆弾「ボンビー」は、野球ボールほどの大きさで、現在でも子どもが遊び道具にして爆発する事故が多発している。処理を終えた不発弾は全体の5%に満たず、すべてを除去するまでの時間は、数百年とも千年とも言われている。



ラオスでは国独自に「不発弾撤廃」を18番目のゴールとして定めています。



おわりに

数学や道徳の授業の中に2つのアクティビティを取り入れた。「ラオスを知る」だけでなく、「ラオスを知る」ことを通して、自分の中の思い込みや固定観念に気付かせ、自分たちが暮らす日本や地域あるいは学校を新たな視点で振り返り、自分たちは何を大切に、どんな生き方をしていきたいか自分自身に問うことを授業の目的とした。始めは国際教育と数学とでは馴染みにくいのではないかという私自身の思い込みがあったが、アクティビティを取り入れた授業構成を考えていくうちに、どの教科であっても大切なことはつながっているのだということに気付いた。自分の当たり前が万人に共通する当たり前であるという凝り固まった考え方を緩め、世の中には様々な背景を持っている人、さまざまな環境の中で生きている人がいること、どの人も人として大切にされなければならないのだということ、生徒のこれからの生活の中で思い出してもらいたいと願う。

参考文献・引用資料

- ・『「ラオスのSDGsゴール18－不発弾のない暮らしを目指して－」を開催しました！日本での取り組み - JICA』
https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/information/topics/2023/1527290_14628.html
- ・「ラオスは国土の3割以上に不発弾が埋まっている！完全撤去に200年も - ganas - 途上国・国際協力に特化したNPOメディア」
<https://www.ganas.or.jp/20160731uxo/>
- ・「日本国際協カシステムJICS－援助をカタチに－」国際開発ジャーナル2024.5月号
<https://www.jics.or.jp/pdf/202405.pdf>
- ・「開発教育とは」認定特定非営利活動法人 開発教育協会（DEAR）
<https://www.dear.or.jp/org/2056/>
- ・「世界観を変える地図『ピーターズ・ワールドマップ』」旅学喫茶 晴天堂
<https://seitendo-journal.net/petersworldmap/>
- ・ピーターズ・マップ [ピーターズ図法の世界地図] 認定特定非営利活動法人 開発教育協会（DEAR）
<https://www.dear.or.jp/books/1315/>
- ・「ラオスについて『ラオスの不発弾』」香川国際ボランティアセンター
<https://npo-kvc.org/laos/fuhatsudan/>
- ・「クラスター爆弾 ラオスからのメッセージ」発行：特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
- ・「地球の歩き方 ラオス」地球の歩き方編集室（著）
- ・「中学校 数学1」学校図書

実践事例報告

プログラム作成・実践者

古瀬由紀子

学校名

府中町立府中緑ヶ丘中学校

担当教科

数学

実践教科

1年生数学

特別の教科道徳「B-(9) 相互理解、寛容」「C-(18) 国際理解、国際貢献」

【授業の概要】

(1) テーマ：It's a Small World

(2) ねらい

自分の中にある無意識の思い込みや固定観念に気づかせる。また、数学の知識・技能を使って、「不発弾除去」というラオスが抱える深刻な現状に触れさせ、よりよい世界を創っていくために自分たちができることを考える。

(3) 概 要

数学の学習と関連させた国あてクイズを自分の中にある無意識の思い込みや固定観念に気づかせる。また、数学の知識・技能を使って、「不発弾除去」というラオスが抱える深刻な現状に触れさせ、よりよい世界を創っていくために自分たちができることを考える。

(4) 指導上の留意点

指導者の思いを一方向的に語るのではなく、生徒から出た意見を繋げたり、切り返しの質問をしたりすることで、生徒がどう感じたか、なぜそう思うのかなどを生徒自身の言葉で表現させる。

(5) 児童生徒の感想

●SDGs18番目の目標

- ・違いを認め合おう
- ・協力して解決
- ・個人の好み、趣味を尊重する
- ・人とのつながりを大切に
- ・誰もが助けを求められる社会
- ・自分の意見を口に出せる世界に
- ・願ったら叶う世界に



●授業後の感想

- ・街の様子は、とてもにぎやかで楽しそうな風景だったのに、不発弾がたくさん残っていて、しかも世界で一番多く爆弾を落とされた国だと知って驚きました。まだまだ知らないことがいっぱいあって、知らなければならないことがいっぱいありました。
- ・ラオスには穏やかなイメージがあったが、今でも不発弾に苦しんでいる人が多くいると聞いてびっくりしました。僕も海外へ行って学んでみたいと思いました。
- ・今の景色はきれいなものかもしれないけれど、戦争がひどかったときは爆弾がたくさん落ちて、きれいな景色がなく、ラオスに



住んでいる人たちも悲しい思いをしていたのかなと思いました。不発弾がなくなったら、もっと景色がよくなって、ラオスに住んでいる人も喜ぶのではないかと思います。

- ・ラオスでは、いまだに処理されておらず不発弾として残っているものがたくさんあって、人々に恐怖を与えていることが分かった。

【授業実践をした上での感想・ふり返し】

ベトナム戦争のときに落とされた爆弾が今でも残って人を傷つけているのだという事実は、私が想像した以上に生徒達にとって衝撃的だったようだ。ラオスの街の様子や食事、ナイトマーケット、服装などの話をしているときは、にぎやかな雰囲気で大盛況に盛り上がっていたが、不発弾の話に入ってからシーンと静まり、モニターを食い入るように見ていた生徒も多数いた。どんなことでも「知ること」が自分を変える第一歩になるのだと思う。「知っている」と「知らない」のとでは世界の見え方や理解の仕方が変わってくると思う。と同時に、知っていることが世界のすべてだというわけではない。自分の思い込みや固定観念に縛られることなく、柔軟に物事を捉え、これからも生徒とともに学んでいきたいと思った。



ラオスから持続可能な地球社会について考えよう

はじめに

「日本がODA（政府開発援助）を行う意義は何か」という問いに、どのような視点から考え、答えを見いだすことができるか。JICA職員の方の話を伺った際に、開発援助に対して否定的な意見が少なからずあることを知り、この問いを中学生と一緒に考えたいと思い、教材化を試みた。

確かに、現在の日本は少子高齢化や地方の過疎化の進行、経済の低迷や格差の広がりといった国内における課題も多く、他国の援助を行う余裕はないという見方もある。その一方で、世界には地域紛争や貧困問題、気候変動といった地球規模の課題も多く、「人間の安全保障」の達成に向けて先進国であり、唯一の被爆国でもある日本が国際的に求められる役割は大きい。

日本のODAについて、生徒は小学校の学習で大まかな概要について知っていると考えられるが、ラオスへの支援の実態や開発援助の経緯、それらに関わる国際機関との関係性については知らないことが多いと考えられる。また、開発援助を単にお金を渡すことだと捉えたり、日本の政府や企業にとって経済の安定・成長や信頼関係の構築といった国益につながることまでは知らなかったりする生徒も多いと予想される。

本教材では、単元の前半（第1時～5時前半）で、ラオス国内の状況について興味をもった疑問点を生徒個人が選択し、調べてレポートにまとめ、発表する活動を行う。自由に学習内容を選択することでラオス国内の課題について関心を高め、個別最適な学びを図る。単元の後半（第5時後半～第9時）では、JICAラオス事務所の職員の方へのインタビューを通して、ラオスと日本のODAを通じた二国間のつながりをはじめ、日本のODAの経緯や国際機関との関係、気候変動といった地球規模の課題など、よりグローバルな視野でODAについて考察していく。このように、ラオスから日本、世界へと視野を広げることや、現在に至るまでの歴史的な背景、それぞれの国の立場や国際機関から見る利益など、多様な視点からODAの意義、在り方について判断していく生徒を育てていきたい。

この教材の使い方

この教材は、中学校3年生の社会科公民的分野での学習を想定している。ラオスという国の存在を知らない生徒が大半なため、ラオスについて日本と比較しながら学習に入る方が良いと考える。

また、第5時のJICA職員へのインタビューは、クラス数などの状況によっては外務省が制作しているODAの動画を見せることで省略することもできる。しかし、現地の生の声を聴くことで、より見識が広がる可能性が高いため、JICAオンライン出前講座の活用を強く勧めたい。

全体のねらい

ラオスに関する疑問点について、自ら計画を立て、進んで調べたりまとめたりすることを通して、日本の国際貢献の在り方について、多様な観点から考え、自分なりの解釈をもつことができる。

アクティビティ1 「ラオスの不思議探究！」

●概要

ラオスに行って実際に感じた疑問について、6つの写真とカードをGoogleスライドで示し、班で協力しながら写真の内容の説明に合うカードの番号を選んでいく。登場する写真の内容は、ODA（政府開発援助）と関連しており、単元を通して探究していく学習内容と関連している。答えを確認し、写真の内容について補足説明をした後、自分の興味のある疑問点について3つを選び、インターネットなどの情報を基に調べてレポートを作成し、発表する。

●ねらい

ラオスに関する疑問点について自分で学習計画を立て、レポートの作成や発表を行うことを通して、ラオス国内の現状や国際協力の必要性について関心を高めることができる。

●主な対象

中学3年生（内容を工夫することで、小学校6年生の社会科でも可能）

●用意するもの

- ・パワーポイント①（P109～110）
- ・Googleスライド（スライド内に班の数だけ同じものを用意する）（P111）
- ・ワークシート（①学習の流れ、②学習計画表）（P113）：全員分
- ・Googleドキュメント（学習レポートの作成用）

●所要時間

- ・4～5時間（ガイダンス等を含む）

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 課題との出会い・学習計画の作成 (1) ラオスの位置や人口といった基本的な情報を知る。（5分）	ラオスという国そのものを知らない生徒が多いと考えられるため、パワーポイント①を用いながら視覚的に説明をする。
(2) 「ラオスの不思議クイズ」を班で協力して行う。（10分）	Googleスライドを使い、班で協力してクイズを行うことで、ラオスの現状について全員が関心を高めるきっかけをつくる。

(3) 個人レポートの作成についてガイダンスを聞く。(15分)

※ガイダンスの主な内容

①個人レポート作成・発表のルール・計画

②「ラオスの不思議クイズ」の写真の説明
→ラオスに関する疑問点を共有する

ワークシート①(学習の流れ)を配付し、単元全体の学習の見通しがもてるようにする。

ラオスに関する疑問点の中から3つを選び、Googleドキュメントを用いて個人レポートを作成する。配付するレポートのデータには、きつかけとなる問いのみ示す。作成のイメージがもてるように見本を1つクラスルームに提示しておく。レポート課題をつくる上での注意点(引用の仕方など)や提出期限についても説明する。

(4) 学習計画を作成する。(10分)

どのレポート課題に取り組むのかを記入させることで、活動の見通しをもたせる。

早く計画ができた生徒には、レポートの作成を始めてよいことを伝える。

2. 学習レポートの作成(約3時間)

学習計画に沿って、課題について調べ、Googleドキュメントにまとめさせる。各授業の終わりに、調べて印象に残ったことや疑問に感じたことをスプレッドシートに入力していくことで、単元終了後のレポート課題やアンケートに答える際に学びをふり返ることができるようにする。

3. 学習レポートの発表・インタビュー

(1) JICAラオス事務所職員(講師)の自己紹介(3分)

前日までに、オンラインの接続やインタビューの質問事項、授業や単元全体の大まかな流れについて打ち合わせをしておく。

(2) レポート内容の発表(12分)

前日までに学習レポートA~Fの各発表者1名を決めておく。発表を聴く人は、自分が調べていない残りの学習課題の中から聴講する発表を選ぶ。発表者・聴講者はそれぞれの場所に移動し、4~6人程度で分かれる。発表者の学習レポートをクラスルームに貼り付けておき、聴講者はレポートを見ながら発表を聴く。発表時間は3分。発表後、聴講者は質問をする。その後、講師に発表について講評をしてもらう。

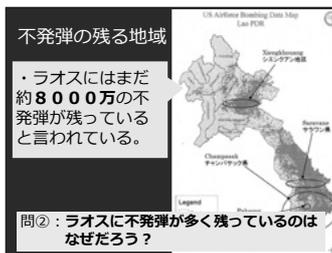
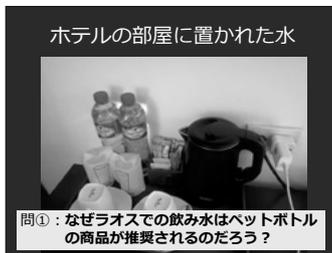
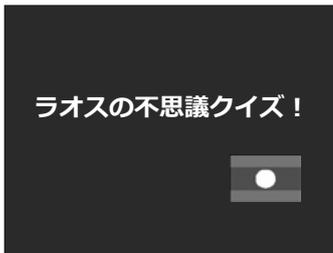
(3) 講師へのインタビュー(10分)

※実際のやり取りの内容については別紙参照

学習レポートについて調べる中で、分からなかったことや疑問に感じたことについて、3名程度、代表者を決めておき質問をする。

パワーポイント①（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。



ナムグムダム

ラオスでは70%
以上が水力発電



停電でエアコンが止まった ラオス料理のお店



問⑤：ラオスで電力が不足しているのはなぜ？

研修を受ける現職の先生



ラオスの教員養成校



ラオスの教員養成の課題

高卒で教員養成校で学ぶ学生
→ 5年前まで1000人以上いたが、現在は95人

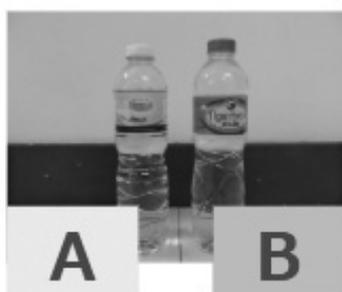


問⑥：ラオスで教員をめざす学生が減っているのはなぜだろう？

「ラオスの不思議クイズ」で使用したGoogleスライド

※6枚の写真のデータはウェブ上からダウンロードしてください。

1班



カードA～Fの説明に合う写真を選ぼう

A ラオスへ渡航する際、飲料水や手洗いで水道水を使わないよう指示を受けた

B 約8000万個の不発弾が残っており、ケガや死亡事故が多く発生している

C 中山間部にあるロンラオ村のトイレでは、水を桶ですくっておしりを拭く

D ラオスではヘルメットをせずに子供を乗せたバイクが多く走っている

E ラオスでは水力発電がさかんだが、時々停電が発生する

F ラオスでは国立大学は大幅な定員割れをし、教員が不足している

※答えは、左上の写真から右へ「E、D、C」。左下の写真から右へ「A、F、B」。

ガイダンスの内容・手順

I 個人レポートの課題について

※ワークシート①（学習の流れ）を配付後

「今日から10時間で単元の学習をしていきます。次の時間からは、3時間で個人のレポートを作成します。これからクイズに出てきた6つのカードの内容について説明するので、その中から3つを選んで、課題を調べて下さい。なお、5時間目の授業では、JICAラオス事務所の方にオンラインで参加して頂く予定です。調べて分からなかったことは、この時間に質問してみてください。」

II 課題（カードの内容）の説明

■学習レポートA

「出発前に、ラオスでは水道水は飲まずにペットボトルの水を飲むように指導を受けました。実際にホテルでは、歯磨きやコンタクトレンズを付けるために手洗いする時もペットボトルの水を使用しました。日本では水道水でできるのに、どうしてペットボトルの水が推奨されるのでしょうか？」

■学習レポートB

「爆発しなかった爆弾のことを不発弾と言います。ラオスには、クラスター爆弾の中から広がった小さな爆弾が世界一残っているそうです。不発弾を除去する様子を、動画で見てください。このような危険な爆弾が、多く残っているのはなぜなのでしょう？」

■学習レポートC

「写真の公衆トイレの左側には水の入った容器があり、桶で水をすくっておしりを流します。私が行ったカム族のロンラオ村は、山間部にあって都市部とは違い、身体を洗う時も屋外の溜まった水を桶ですくって流している人がいました。牛や鶏、犬など動物を多く飼っており、自然豊かな環境ですが、子供たちはスマホの動画サイトを見ていて、少し驚きました。国連の調査によると、ラオスでは一日1.25ドル以下で暮らす人の割合が、低地19%、高地33%だそうです。どうして、低地と高地で、生活水準がこんなに違うのでしょうか？」

■学習レポートD

「首都ビエンチャンを車で移動していて一番驚いたのが、ノーヘルでバイクを運転している人が多いことです。バイクの後ろにノーヘルの子供を乗せた人や、3人乗りしている人も見かけました。日本ではそのような光景は見かけないですが、なぜラオスではノーヘルの人が多いのでしょうか？」

■学習レポートE

「首都ビエンチャンの電線を見ると、乱雑になっています。ラオスは、メコン川があることから電力量の多くを水力発電に頼っていて、隣国のタイへ輸出もしています。しかし、時々停電が起こるそうです。実際にラオス料理のお店で昼食中、急にエアコンの電源が落ち、とても暑い中で辛い料理を食べました。どうして輸出するぐらい発電しているのに、停電してしまうのでしょうか？」

■学習レポートF

「写真は、ラオスの現職の先生たちが夏休みに研修を受けている様子です。教員養成校では、高校を卒業した学生たちが普段は学んでいるのですが、5年前までは1000人近くいた学生が、現在は95人しかいないそうです。日本でも教員不足が問題になっていることを聞いたことがあるかもしれませんが、どうしてラオスでは教員になりたい学生が減ってしまったのでしょうか？」

「ラオスから持続可能な地球社会について考えよう」

- 目標 ①ラオスに関する疑問について、自ら計画を立て、進んで調べたりまとめたりすることができる。
 ②開発途上国への日本の国際貢献の在り方について、多様な観点から考え、自分なりの解釈をもつ。

時間	主な学習内容・活動
1	ラオスで感じた日本と異なる疑問について知り、ガイダンスを聞いて単元前半の学習計画を立てる。
第2時～4時は、自分の計画に沿って、ラオスに関する疑問を調べ、レポートを作成する。	
<p>【ラオスに関する疑問の例】</p> <p>A. ラオスで飲み水はペットボトルの商品を推奨されるのはなぜ？ →<u>学習レポートAへ</u> 【発展課題】上水道の整備が遅れている要因は何か？</p> <p>B. ラオスに不発弾が多く残っているのはなぜだろう？ →<u>学習レポートBへ</u> 【発展課題】ラオスのSDGs18番目のゴール（不発弾のない暮らし）を達成するために大切なことは何か？</p> <p>C. ラオスの低地と高地で生活水準が異なるのはなぜだろう？ →<u>学習レポートCへ</u> 【発展課題】観光地化することはロンラオ村の人々を幸せにするか？</p> <p>D. ラオスで多くの人がヘルメットを着けず複数人でバイクに乗っているのはなぜ？ →<u>学習レポートDへ</u> 【発展課題】国の法律はどのようにあるべきか？</p> <p>E. ラオスで電力が不足しているのはなぜだろう？ →<u>学習レポートEへ</u> 【発展課題】ラオスの電力需要をどのように補うべきか？</p> <p>F. ラオスで教員になりたい学生が減っているのはなぜだろう？ →<u>学習レポートFへ</u> 【発展課題】ラオスの教育の質を上げるために、どのようなことができるか？</p> <p>G. その他のラオスについて疑問に感じたこと →<u>学習レポートGへ</u></p> <p>★チェック1 学習レポートA～G（自分の選択したレポート3つ）を先生に提出する。 ★チェック2 各レポートに対して、ふり返りをする（スプレッドシートに回答）。 ----- ここまでを第4時までで終わらせる -----</p>	
5	学習レポートの発表・JICA ラオス事務所の職員の方に、調べて疑問に感じたことを質問する。
6	日本とラオスの関係について知り、日本の国際貢献のあり方について考察をします。
7	
8	
9	
10	学習のまとめをする。 ★チェック3 単元のふり返りレポート・アンケートの提出。

学習レポートD

3年 組 番 名 前

Q1. 多くのラオス人がヘルメットを着けずに複数人でバイクに乗っているのはなぜ？

ラオスはバイク文化だそうだ。バイク文化での問題は無免許運転が多いことだ。また、車ではなくバイクでの移動のため多くの人をバイクの荷代に乗せる。バイクが車のような扱いになっているためいちいちヘルメットをつけないという。



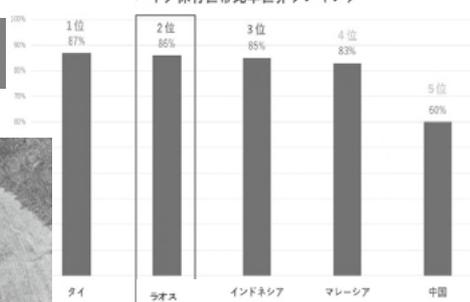
やはりヘルメットをつけないがゆえに死亡事故が多いそうだ。ちなみにヘルメットを付けていない状態で事故をしてしまうと死亡する確率が20倍になるそうだ。ヘルメットはとても大切だということに改めて実感する。

なぜラオスはバイク文化なのだろうか？

ラオスは道路がきれいに整備されてあるところが少なく、車でも通れない道が多くあるのだという。そのため、小回りの効くバイクがとても普及しているそうだ。ちなみにラオスに道の8割が舗装されていない道なのだそう。



バイク保有世帯比率世界ランキング



Q2. 国の法律はどのようにあるべきだろう？

ちなみにラオスでもヘルメットを付けていない状態でのバイクの運転も日本と同じように交通違反である。ちなみに反則金はラオスが5万キープ(372円)日本では、乗用車ヘルメット着用義務違反で免許剥奪などの罰則があるそう。ラオスでは日本ほど盛んに交通指導取締りを行っていないため被っていない人が多いのだという。日本では、パトカーや白バイなどの交通機動隊によって取り締まりが行われている。



ラオスでもノーヘルを取り締まる法律があるから取締回数を増やせばいいと思う。また、罰則がかかるすぎるので反則金を高くすることや日本のように違反点数を加点するようにしたほうが良いと思う。

まとめ・ふり返り

ラオスにはなぜヘルメットを付けていないでバイクに乗っている人が多いのかしっかりと理解することができた。これからも死亡事故を一件でも減らせるように法律を変えた方が良い。

インターネットを使いながら、様々なサイトから情報を得て、レポートを作成している生徒が多く見られた。生徒によっては、調べたことを見やすくまとめることや、新たな疑問点を調べ、追加してまとめている生徒もいた。その一方で、課題に対する回答が一面的なものや、意見に根拠がない生徒の予想レベルのものも見られた。また、参考・引用文献の示し方や、効果的な検索の仕方などを指導していく必要があることも分かった。

現地職員との交流の意義

単元の5校時にJICAラオス事務所の職員2名にオンラインで授業に参加して頂いた。その際、生徒が発表したレポートの内容や、質問に対するコメントで貴重な学びを得ることができた。

(1) 現地で携わる人から見た情報の獲得

下に示すのは、学習レポートCについて調べ、発展課題であるロンラオ村を観光地することがオーバーツーリズムにつながると考えた生徒への講評の一部である。

すばらしい発表、ありがとうございます。(中略) ロンラオ村のオーバーツーリズムについて、確かにそういう問題もあります。ただ、私が伝えたいのは、「観光客が来るからその文化が残る」という面もあることです。日本でも着物を着る習慣が減ってきていると思うのですが、京都や鎌倉で着物を着るサービスが出てきたら、その文化が復活できます。それと一緒に、カム族の人たちも、普段からカム族の服装を着ているわけではないし、着なくなってきていますが、観光客が来てくれて見せるために着ることで、文化が残っていく面もあると聞いています。光と影の両面があるのかもしれませんが、そのバランスを上手くとっていきたいと考えています。

発表をした生徒が、「観光地化することが伝統的な文化の保存につながる」という新たな情報を知ることで、思考が揺さぶられていることが授業後の振り返りの記述に見ることができた。このような現地で関わる人々の思いや考え方に触れることで得られる情報は、インターネットでは得ることが難しく、とても貴重だと感じた。

(2) 抽象的な言葉の示す実態の理解や概念形成

次に示すのは、代表生徒3名の質問に答えて頂いた場面の一部である。一人の生徒の「どうしてラオスでは、貧困の状態が続いているのですか。」という質問に対し、下のような回答を頂いた。

講師A：ラオスには課題が多いです。道路の整備ができておらず、例えば学校に行くことや、病院へ行けない人もいます。また、国内産業の生産があまりなく、主にラオスが輸出しているのは、電気やビアラオ、小麦など農業関係のものはあります。しかし、日本の車のような工業製品を輸出できるものは少なく、産業で多くの利益を得ることができないことが貧困に関係あると思います。

講師B：ラオスに来る前はものすごく貧しい国だと思っていました。しかし、貧困といってもみんなが貧しい訳ではなくて、貧富の格差がとても大きいです。私がいる首都ビエンチャンに来てもらったらビックリすると思うのですが、ランドクルーザーやBMW、ベンツなどの良い車がたくさん走っています。その一方で、山岳部に行くとコーラを買うお金もない人がたくさんいるので、貧困や貧富の格差という実態を途上国へ行って見てもらいたいです。

講師Aからは、インフラの整備が不十分なことや、それに伴う生活の不便さ、またその要因についての説明。講師Bからは、貧富の格差の実態についての説明があった。貧困という言葉に対し、国のGDPのような数値だけでは分からない、現地の実態について知ることによって、「貧困」という言葉に対する概念形成が深まったのではないかとと思われる。

アクティビティ2 「日本のODA（政府開発援助）の在り方を考えよう！」

●概要

アクティビティ2は、アクティビティ1でラオス国内の状況を学習した後に、ODAを通じた日本とラオスの関係や、地域紛争や地球温暖化といった地球規模の課題との関連性について考察をする。ODAのこれまでの経緯や国際機関が関わる理由などに関連づけてODAについて知ることで、より多面的・多角的にODAの意義について、自分の意見がもてるようになることを意図している。

●ねらい

日本がODAを始めた背景や国際機関がODAに関わる理由について考察することを通して、日本の開発援助の在り方について、多様な観点から考え、自分の意見をもつことができる。

●主な対象

中学校3年生

●用意するもの

- ・動画①「ODA 世界を結び 未来を紡ぐ」（外務省作成）（「参考文献・引用資料」参照）
- ・ラオスODAプロジェクトマップ① ラオス全体（P120）：全員分
- ・ラオスODAプロジェクトマップ② 首都ビエンチャン周辺（P121）：全員分
- ・資料①「日本の開発協力の意義」（外務省HP）（「参考文献・引用資料」参照）：全員分
- ・動画②「OECD：より良い暮らしのためのより良い政策を共につくる」（OECD作成）
- ・パワーポイント②～⑤（P122～125）

●所要時間

4～5時間

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）									
<p>1. 学習課題との出会い 問「学習レポートA～Fを調べる中で、何か共通点に気づきましたか？」</p> <p>(1) ラオスODAプロジェクトマップ①、②を生徒に配付し、気づきや疑問点を挙げる。(15分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【表出されたラオスに関する疑問点の例】</p><ul style="list-style-type: none">・なぜ北部に空港が多いのか。・なぜラオスの中・南部への支援が多いのか。<p>【表出された日本に関する疑問点の例】</p><ul style="list-style-type: none">・なぜこんなに無償で支援を行うのか。・なぜ技術協力に関する援助が多いのか。</div>	<p>JICAラオス事務所の方に、ODAの概略について説明をしてもらおう。講師不在の場合は、動画①「ODA 世界を結び 未来を紡ぐ」を見るのもよい。</p> <p>個人で疑問点を考えた後、グループで情報を共有する。グループ内で疑問点を3つ選び、短冊型のホワイトボードに記入し、黒板の表（下）に貼る。</p> <table border="1" style="width: 100%;"><thead><tr><th></th><th>ラオスに関する内容</th><th>日本に関する内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>過去</td><td></td><td></td></tr><tr><td>現在</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>		ラオスに関する内容	日本に関する内容	過去			現在		
	ラオスに関する内容	日本に関する内容								
過去										
現在										

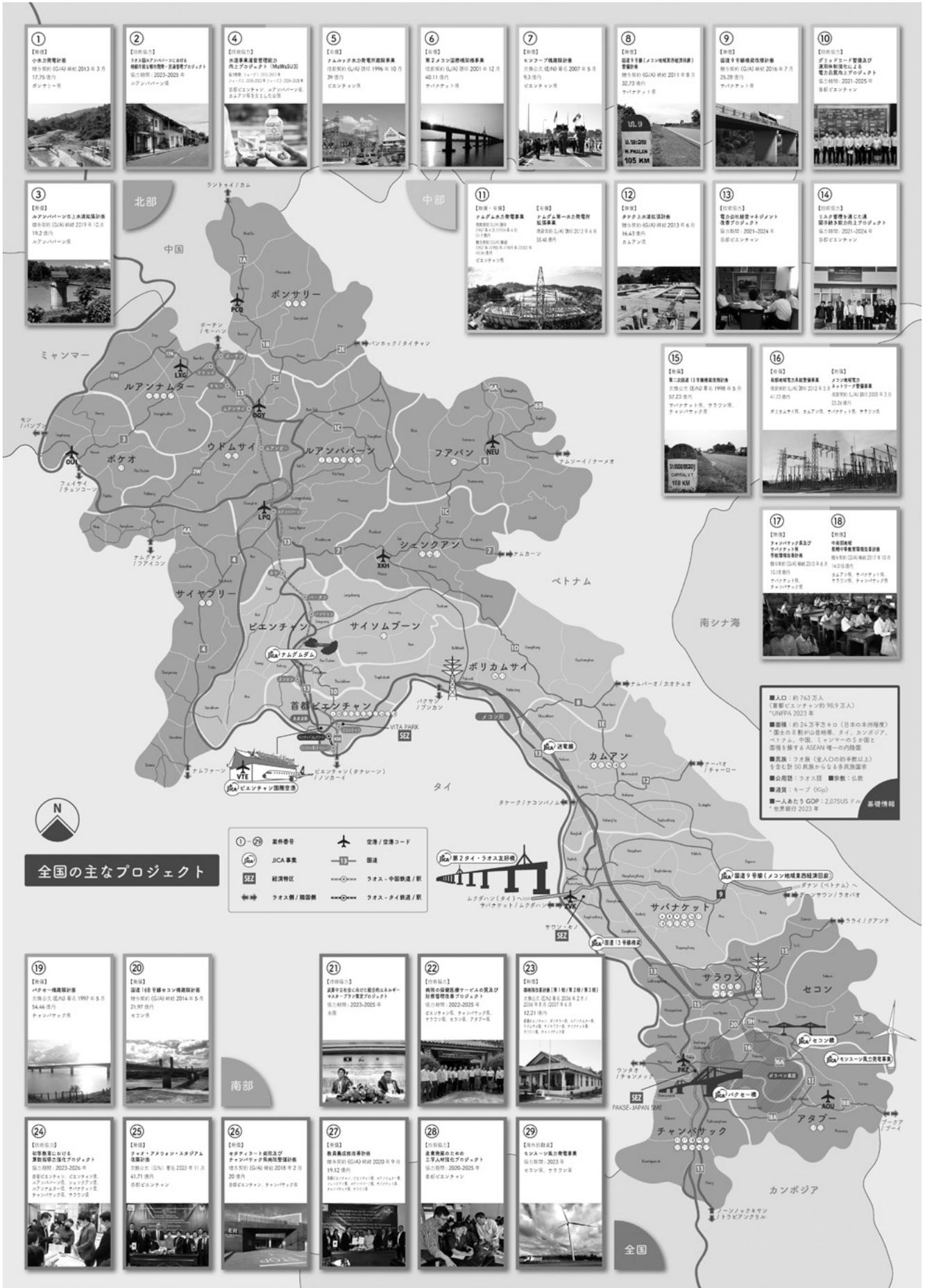
<p>(2) 表出された疑問点の中から、JICAラオス事務所の方に質問をする (10分)</p>	<p>授業の残り時間を見ながら、質問をする。最後に、JICAラオス事務所の方から、授業全体の様子に関する講評や中学生へのメッセージをもらう。</p>
<p>2. 日本のODAの意義に関する考察</p> <p>(1) ODAの概要についての確認 (5分)</p> <p>(2) ODA予算の増減に関する討論 (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のODAの推移や年間予算の確認 <p>問：日本はこれからODA予算を増やすべきか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※討論活動で出た意見に対する問い返しの場合</p> <p>①どの程度の金額を増減するのか。</p> <p>②平成不況期にも関わらず日本政府がODAを増やしていたのはなぜか。</p> </div> <p>(3) 日本がODAを行う意義についての考察 (20分)</p> <p>問：少子高齢化や過疎化など、国内の問題があるのに、日本政府がODAを行う意義は何だろうか？ (個人→グループで話し合い→発表)</p> <p>(4) ふり返り (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について、疑問点や気づきをスプレッドシートに入力する。 	<p>パワーポイント② (P122) 参照</p> <p>動画①を視聴し、前時に学習したODAの概要について、視覚的に理解をさせる。</p> <p>「増やす」「現状維持」「減らす」の中から1つを選び、選んだ根拠をノートに書いた後、ネームプレートを黒板の自分の意見の場所に貼る。討論が活発になるよう、選んだ理由の根拠を明らかにしながら発表させる。</p> <p>意見がある程度出た段階で、外務省が出している資料①を配付し、日本政府のODAについての見解について感想を言い合う。</p>
<p>3. 日本のODAの経緯に関する考察</p> <p>(1) 日本のODA開始の時期の確認 (5分)</p> <p>問：「10月6日は何の日？」→国際協力の日</p> <p>(2)日本のODA開始の背景 (20分)</p> <p>問：「戦後10年で日本政府がODAを始めたのはなぜだろう？」(個→グループで共有→発表)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※発表で出た意見に対する問い返しの場合</p> <p>①：当時の政府は積極的にODAを行ったのか。</p> <p>②：当時、アジア地域への開発援助が多かったのはなぜだろう。</p> </div>	<p>パワーポイント③ (P123) 参照</p> <p>1954年10月6日のコロンボ・プランへの加盟を経て、翌年から日本のODAが始まったことを確認する</p> <p>1954年の時期は、日本の一人当たりGDPは20位前後で、アメリカ・イギリスに比べ、経済規模が高くないことを確認し、問いを出す。生徒の意見に対して、左のような問い返しをしながら、アジア諸国への戦後の損害賠償や、貿易の促進といった面があったことを確認していく。</p>

<p>(3) ODAの地域別割合の推移に関する考察 (20分) 問：ODAの地域別割合で、中東やアフリカ諸国への援助が増えているのはなぜだろう？</p> <p>(4) ふり返り (5分) ・本時の学習について、疑問点や気づきをスプレッドシートに入力する。</p>	<p>教科書の資料で、ODAの地域別割合の変化を確認しながら問いを出す。アフリカや中東地域の開発向上や、政治的不安定さ、紛争の多発といった背景について確認し、国際的に「人間の安全保障」が求められていることを説明する。</p>
<p>4. ODAに国際機関が関わる意義についての考察</p> <p>(1) 開発援助の受領が多い国・地域の確認 (5分) 問：ODA受領額ランキングの1位はどこ国？</p> <p>(2) 開発援助の受領の多さに関する考察 (20分) 問：開発援助を多く受ける国が、時期によって変わるのはなぜだろう？ (個→グループで共有→発表)</p> <p>(3) 開発援助のバランスをとる国際機関の確認 (5分)</p> <p>(4) 国際機関が開発援助に関わる意義の考察 問：開発途上国への援助に、国際機関が関わる意義は何だろう？ (15分)</p> <p>(5) ふり返り (5分) ・本時の学習の気づきや疑問点を、スプレッドシートに入力する。</p>	<p>パワーポイント④ (P124) 参照 2022年、2012年、1982年のODA受領額のランキングを示し、1位の国を当てながら、時期によって受領国の上位が異なることを確認する。</p> <p>戦争や紛争以外にも、自然災害や貧困の状況といった多様な要因があることを理解させる。また、日本や韓国のようなODAを卒業した国についても紹介し、卒業の基準を確認する。</p> <p>動画②を視聴し、OECDの役割について理解させる。他にも世界銀行やIMFなどの国際機関が関係していることを補足説明する。</p> <p>二国間援助と多国間援助の違いを確認し、問いを投げかける。援助国の政治的・経済的な利益が優先されていないかを客観的に評価する必要性について、補足説明する。</p>

<p>5. ODAと地球規模の課題の関係についての考察</p> <p>(1) 地球規模の課題についての確認 (5分)</p> <p>問：一つの国では解決できないグローバルな課題には、どのようなものがあるだろう？</p> <p>問：「日本：7.9」、「ラオス：0.3」これは一体何を表した数字？ ※国民一人当たりのCO₂排出量 (2021年)</p> <p>(2) 温暖化対策についての討論活動 (20分)</p> <p>問：開発途上国にもCO₂の削減を求めるべきか？</p> <div data-bbox="159 689 775 891" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※討論活動時における問い返しの例</p> <p>①開発援助を増やすことで、CO₂の排出量は増えるのだろうか。</p> <p>②先進国はなぜ削減目標を達成できないのか。</p> </div> <p>(3) 持続可能な開発援助の在り方の検討 (20分)</p> <p>問：開発途上国の経済発展と地球規模の課題解決の両立のために必要なことは何だろう？ (個→グループで話し合い→発表)</p> <div data-bbox="159 1137 775 1379" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※生徒の意見に対する問い返しの例</p> <p>①日本ができることは何か。</p> <p>②活気ある東南アジア諸国から、日本が学ぶことはないか。</p> <p>③資源が少ない国のエネルギーの在り方は？</p> </div> <p>(4) ふり返し (5分)</p> <p>・本時の学習の気づきや疑問点を、スプレッドシートに入力する。</p>	<p>パワーポイント⑤ (P125) 参照</p> <p>貧困や難民問題、地域紛争、地球温暖化などの事例があることを確認する。</p> <p>アメリカや中国などのCO₂排出量や、世界平均気温の変化予測を資料で提示し、パリ協定の概要を確認した上で次の問いに移る。</p> <p>立場を明確にするために、「求める」か「求めない」かを黒板に示し、自分の考えに近い所にネームプレートを張らせる。</p> <p>左のような問い返しをしながら、開発援助の長期的な効果や、先進国の温暖化対策の課題について理解させる。また、京都議定書といったパリ協定に至るまでの経緯についても概要を確認する。</p> <p>左下の②の問い返しをすることで、「豊かさ」や開発途上国の求める「開発」とは何かについて考えさせる。</p> <p>長期的・戦略的な技術支援やインフラの整備、自国だけでなく広汎かつ未来志向の環境政策が求められていることを補足説明する。</p>
<p>6. 単元全体のまとめ</p> <p>(1) 単元全体のレポート課題・チェックテスト</p> <div data-bbox="159 1715 775 1908" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【レポート課題】</p> <p>日本がODAを行う意義 (価値・重要性) について、政府の解釈を踏まえた上で、あなたの考えを自由に論じなさい。</p> </div>	<p>単元前半からの学習を振り返った上で、レポート課題とチェックテスト (Google Form) を行う。ラオスへ行って感じたことや、ODAについて様々な考え方がることなど、教師 (大人) の立場での思いを語り、単元を終える。</p>

ラオスODAプロジェクトマップ① ラオス全体

※JICAホームページ > 海外での取り組み > ラオス よりダウンロードできます。



パワーポイント② (第6時)

政府開発援助 (ODA)

ODA (政府開発援助)
 政府が開発途上国や地域の開発のために、
 資金や技術の提供などの支援をすること。

日本のODA (政府開発援助) について考えよう

単元後半の課題

1. 少子高齢化や過疎化で国力の低下している日本がODAを行う意義は何か？

日本のラオスへのODA (1980年代初め～)

2020年までに約1000億円以上の援助

日本のODA予算額の推移 (出所)外務省

89年度 実績額世界1位 57億円
 1997年度 1兆1687億円
 2001年度 実績額が2位に転落

日本の歳出 (2023年度)

歳出総額 114.4兆円

日本の歳出の変化

1990年度 66.2兆円
 2023年度 114.4兆円

国の借金総額の推移

国の借金総額 1,105兆円
 日本の人口 1億2,409万人
 1万円/人

Q.人口減少などの課題がある日本がODAをやる意義はあるのか？

日本の開発協力の意義

国際社会は歴史的に発展、進歩的価値観を追求し、...
 日本はそれを要する立場であり、開発協力の役割は一段重要。

日本の支援で建設されたインドの地下鉄デリーメトロ (2005.4.29)

総事業費1兆7千億円。その約半分を日本が有償資金協力して建設。

2026年開業予定のインドの新幹線

ラオスのGDPと成長率の推移

一人当たりGDPの推移 (韓国との比較)

2021年 韓国 3,694ドル、ラオス 1,187ドル

ラオスのGDPと成長率の推移

1970年 150位
 2021年 118位
 人口の約2割が1日1.9ドル(約300円)未満で生活

Q.ラオスへのODAはいつまで続けるべきか？

パワーポイント③ (第7時)

日本のODAの経緯について考えよう

- 10月6日は何の日？
- ①石油（オイル）の日
 - ②みんなで重力の謎を考える日
 - ③トム・クルーズの日
 - ④国際協力の日
- なぜ国際協力の日？

1954年10月6日
日本政府がコロombo・プランに加盟

◆コロombo・プランとは
...1950年に提案されたアジア太平洋地域の国々の経済社会の発展を支援する協力機構。スリランカのコロomboで開催されたイギリス連邦外相会議で設立。

翌55年から日本のODA開始




Q. 戦後10年で、日本がODA（外国への援助）を始めたのはなぜだろう？



日本の戦後賠償・準賠償の一覧

国名 賠償額(億円) 受領開始年 賠償終了年

ドイツ連邦	571,000,000	1951.4.10	1962.4.10
ドイツ民主	571,000,000	1973.12.10	1984.12.10
ソ連	571,000,000	1951.4.10	1981.4.10
中国	571,000,000	1972.9.17	1982.9.17
北朝鮮	571,000,000	1991.9.17	2001.9.17

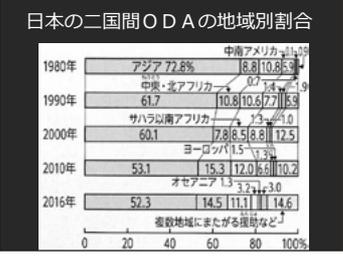
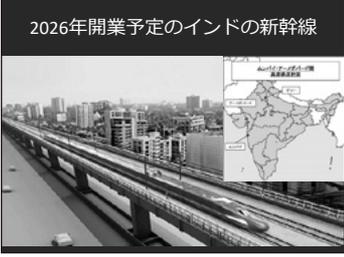
①賠償を受ける国は、資金や技術協力を日本から取得
②賠償にあたる資金や技術協力は、日本の企業・個人が納入
③日本政府が払う代金を日本の企業・個人に支払う

日本の輸出促進・貿易拡大 → 大きな経済成長

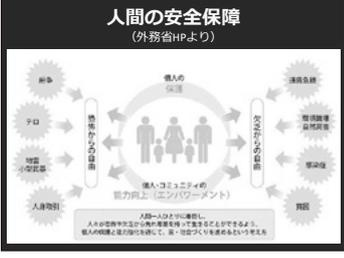
日本の支援で建設されたインドの地下鉄德里メトロ（2005.4.29）

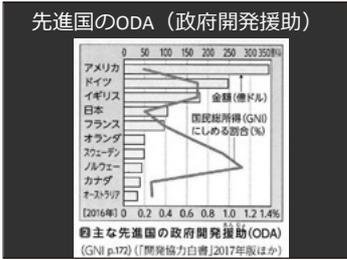


総事業費1兆7千億円。その約半分を日本が有償資金協力して建設。



Q. 中東やアフリカ地域へのODAの割合が増えてきたのはなぜだろう？





2022年のODAの受領額

1位	ウクライナ	297億ドル
2位	シリア	83億ドル
3位	エジプト	58億ドル
4位	バングラデシュ	52億ドル
5位	エチオピア	49億ドル

2012年のODAの受領額

1位	アフガニスタン	57億ドル
2位	パキスタン	38億ドル
3位	エチオピア	33億ドル
4位	ケニア	26億ドル
5位	イラク	24億ドル

1982年のODAの受領額

1位	インド	22億ドル
2位	エジプト	20億ドル
3位	インドネシア	18億ドル
4位	パキスタン	15億ドル
5位	フィリピン	14億ドル

Q. 開発援助を多く受ける国が時期によって変わるのなぜだろう？

- ### ODA受領を卒業した国の例
1. 韓国
...1980年代までODAを受領。
...1990年代に経済的自立。
 2. シンガポール
...経済発展と工業化で1980年代に卒業。
 3. ブラジル
...2000年代に対象国から外れる。
現在はG20の一員。

- ### ODA卒業の基準
1. GNI (国民総所得)
...OECDの基準は1045ドル以上。
 2. 経済成長の安定
...外部の支援に依存しない。
 3. インフラ整備と社会基盤の充実
...教育、保健、交通インフラなどが十分に整備されている

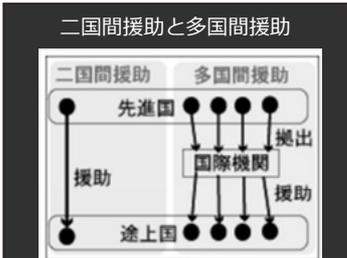
世界銀行から日本への融資の例

日本も1950年代～1970年代初めまでODAを受けていた



OECD加盟国一覧

ここに書かれている国は先進国として判別できる。
 ※中国のように加盟していないけど、経済大国な国もある。

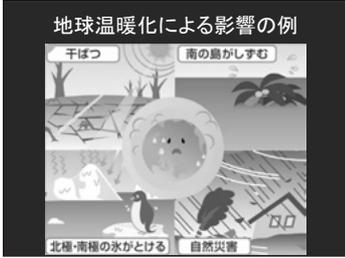
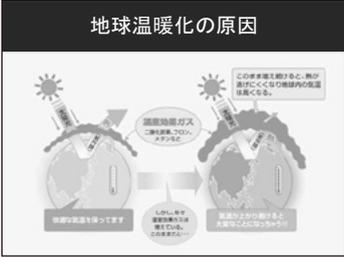
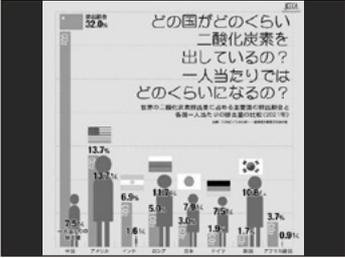


パワーポイント⑤ (第9時)

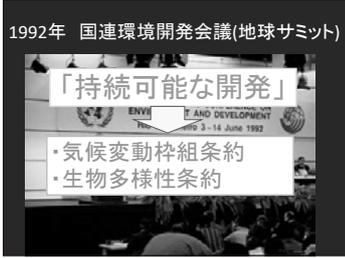
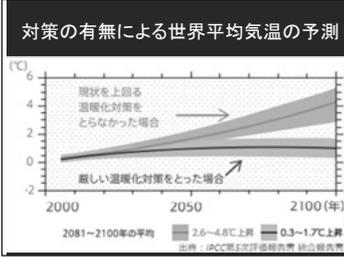
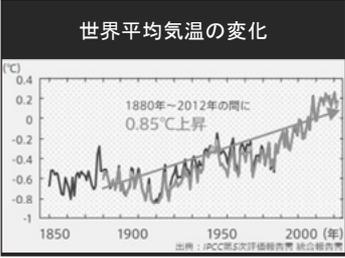


地球規模の課題とODAの関係
について考えよう

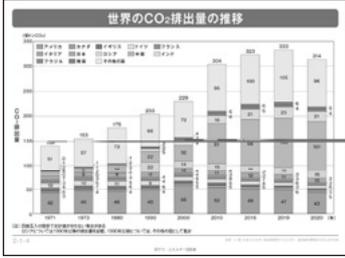
何の数字？
日本 : 7.9t
ラオス: 0.3t
一人あたりのCO2排出量
(2021年)



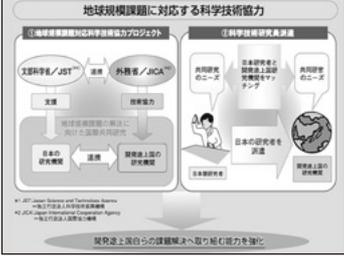
Q. ラオスのような開発途上国にもCO2削減を求めるべきか？



国	削減目標 (%)
アイスランド	10%
オーストラリア	8%
ノルウェー	1%
ニュージーランド	0%
ロシア	0%
日本	-6%
カナダ	-7%
アメリカ	-7%
欧州諸国連合 (EU)	-8%



Q. 途上国の経済発展と地球規模の課題解決を両立していくために必要なことは？



おわりに

アクティビティ1では、主にラオスの疑問について自由に内容を選択し、個人で探究する学習。アクティビティ2では、アクティビティ1で学んだ情報をもとに、日本のODAの在り方について協働的に考察していく学習を行った。

個人でレポート課題を作成する授業を社会科で行うのは初めてだったが、生徒が黙々と調べ、Googleドキュメントを駆使しながらレポート作成に取り組む姿勢に、学びの個別最適化の可能性を大いに感じることができた。また、生徒の外国の実態に対する知的好奇心の高さを目の当たりにすることができ、改めて異文化理解や開発教育の重要性とこれからの可能性を実感した。

社会科の授業をはじめ、学校教育においてカリキュラム・マネジメントに開発教育をどのように効果的に取り入れていくか。グローバルな問題に対する意識や、持続可能な社会をつくっていく精神をより高めていくための教育が、学校教育には必要である。これからの課題として、さらに授業実践や学校運営を行っていきたい。

最後に、本実践に向けて、お世話になったJICA関係職員をはじめ、ご指導頂いた大学の先生方、一生懸命授業に臨んでくれた生徒たちに深謝を表す。

参考文献・引用資料

- ・『ラオスODAプロジェクトマップ（2022年10月改訂版）』、JICAラオス事務所、2022年
- ・『ラオス概況』、国際協力機構（JICA）ラオス事務所、2022年
- ・『政府開発援助（ODA）Q&A集』、外務省国際協力局、2024年、
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ODA/files/100205666.pdf>
- ・『日本の開発協力の意義』、外務省、2023年、
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ODA/files/100514802.pdf>
- ・『日本の援助の源流に関する歴史比較制度分析』、下村恭民、2014年
- ・『水道局国際協力事業かわら版 YOUは何しにラオスへ？ 2024 Vol.01』、さいたま市水道局経営企画課、2024年
- ・『ODA紹介動画（ショートver.）』、外務省、2021年、
<https://www.youtube.com/watch?v=60rZlXCGWY>
- ・『OECD：より良い暮らしのためのより良い政策を共につくる』、OECD、2021年
<https://www.youtube.com/watch?v=a4HMnU7w7jg>
- ・『国際協力70周年 他国のインフラ整備支援が日本にもたらす影響』、JICA国際協力機構、2024年、
<https://www.youtube.com/watch?v=0IYDyeChfSk>
- ・『もっと豊かな日本のために 世界をもっと豊かに』、首相官邸、
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/ODA/index.html>

実践事例報告

プログラム作成・実践者

末村 和也

学校名

山口市立大内中学校

担当教科

社会科

実践教科

社会科（公民的分野）

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

ラオスから持続可能な地球社会について考える

(2) 単元のねらい

ラオスに関する疑問点について探究する活動を通して、日本がODAを行う意義について、多様な視点から考え、自分の意見をもつことができる。

(3) 概 要

- ・ラオスに行って実際に感じた6つの疑問の中から3つを選び、インターネットなどの情報を基に調べてレポートを作成し、発表する。調べて分からなかったことを、JICAラオス事務所の方にインタビューする。
- ・ODAを通じた日本とラオスの関係について疑問をもち、日本がODAを行う意義やその在り方について、ODAの経緯や国際機関が関わる重要性と関連づけて、自分の解釈をもつ。

(4) 指導上の留意点

- ・「貧困」や「開発途上国」など、抽象的な側面や対象が広義なことばを使うときには、具体的な国名や地域を使い、できる限り生活状況のデータや写真と合わせて理解させる。
- ・開発援助を先進国が「してあげている」という上からの立場ではなく、あくまでも国と国（地域）の対等な関係性の中で行われているものという立場で指導を行う。

(5) 児童生徒の感想や学び・気づき

単元全体の終わりに行ったレポート課題には、下のような生徒の記述が見られた。

【課題】日本がODAを行う意義（価値・重要性）について、政府の解釈を踏まえた上で、あなたの考えを自由に論じなさい。

I 他国との関係を良くし、つながりを強め、争いをしないようにする。また、貿易などを行っている国に援助をして、資源を優先的にもらう。日本が国際協力することによって世界中の国から戦争や紛争がなくなり平和な社会をつくりあげる。そして、争いがなくなることにより日本の安全が確保でき、経済成長にもつなげることができる。

II 日本はアジアへのODAが多いが、いろんな国へ支援することによって各国から日本が必要な資源を輸入できるかもしれないし、その国と新しい産業を作れるかもしれない。また、政府の思っているように環境問題は日本だけでなく、世界で解決することが必須であると思う。

Ⅲ 他国の生活の苦しい人々を助けることはとても素晴らしいことだが、現在の日本は決して豊かと言える状況ではないと考える。だから私は、支援額の一部を日本の政治へと回し、政治が安定するまで少し支援額を減らしたほうがいいと考える。

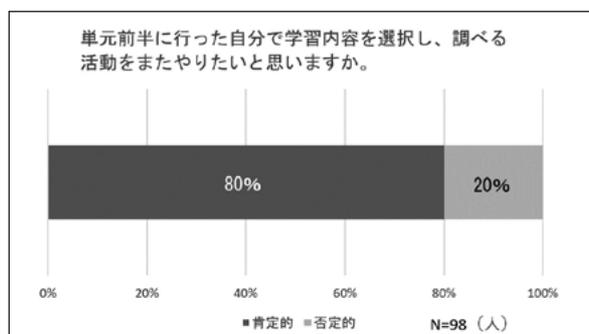
Ⅳ ODAの意義は、国際平和はもちろん、世界中の人たちみんなが安心して幸せに暮らせるような世界をつくっていくことだと考える。また、そんな気持ちがODAを通して多くの人に伝わっていき、NGOなどのような活動により多くの人が参加し、さらに多くの国や人々を救う意義もあると思う。それと、地球温暖化のような地球規模の課題解決を目指す意義もあるように、「してあげている」という一方的な考えですのではなく、お互いの役に立っているという考え方で取り組むべきだと考える。

ODAに対して、肯定的・否定的双方の見方がレポート課題の中に見られたが、日本国内や開発途上国の状況、日本にとっての利益や地球規模の課題といった多様な視点から多くの生徒が課題に対する自分の考えを述べていた。ODAだけでなく、社会にある様々な課題に対して表面的・一面的ではなく、多面的・多角的に考え、判断できる生徒を育てていきたい。

(6) 授業実践をした上での感想・ふり返し

単元を終えた後に行ったアンケートで、「単元前半のラオスに関する課題について、興味をもつことができましたか。」という質問に、94%の肯定的な回答が見られた。しかし、「自分で調べる活動をまたやりたいと思いますか。」という質問には、肯定的な回答は80%にとどまった(右図)。肯定的な回答の理由には、「教科書では知れない事を知る事ができる」、「自分の興味のあることを調べる中で、新たな疑問が生まれて勉強になる」といった回答が見られた。一方、否定的な理由には「インターネットの情報が多すぎて、どれが本当のものか見分けづらい」、「まとめるのがあまり得意ではない」といったものが多く見られた。

自分で学習内容を選択し、探究していく学習を充実させるためにはどのような支援が必要なのか、今後の課題として考える必要がある。



単元終了後に行ったアンケート



第5時 JICAラオス事務所の職員の方へのインタビュー



ODAプロジェクトマップから疑問点を考える

国際的視点でとらえ、「あり方」を深く考える

はじめに

教師海外研修で印象に残っていることは、科学技術の二面性を見たことだ。ザナイモ浄水場ではメコン川の水がきれいになっていく様子を見学し、ナムグムダム第一水力発電所では地形をうまく利用したグリーンエネルギーを生産していた。一方で、不発弾処理現場では実際に処理をさせてもらい、その威力や未だに不発弾が大量に残っている現実を知った。町中やホームステイ先の村では分解されないプラスチックが道端にたくさん捨てられていた。こういった二面性や裏側を考えたり、教えたりすることで、深い理解につながり、科学技術の在り方を考えることができる。

外国と日本では発展の速さや価値観も異なることも大きな気づきだった。JICA派遣職員の方や現地でも活躍されている日本人の方は、日本のやり方を押し付けることなく、ラオスの方が本当に望んでいることは何だろうかと考え、コミュニケーションを綿密にとって支援をされているように感じた。相手の歴史や文化・背景を踏まえて、外国との関係や科学技術の在り方を多角的に考察していくことが、誰一人取り残さない世界への一歩になると考える。

この教材の使い方

アクティビティ1ではニュースで話題になったことについて、その背景や解決方法を考えることで見えない偏見を持っていないか気づかせることができる。アクティビティ2では普段学習に使用している化学の教科書は科学技術の良い部分を扱っていることがほとんどであり、科学技術＝生活を豊かに、便利にするものというイメージが強いが、あえて戦争という科学技術の負の側面を扱うことで批判的・多角的な視点を養うことができる。

全体のねらい

表面上の情報から一步深い部分を考え、裏や逆から見ることによって見えてくるものや気づきを通して、国際社会において自ら多角的に考える姿勢を養う。

アクティビティ1 「マイノリティを考える」

● 概要

近年はインターネットやスマートフォンなどの普及により、私たちの生活はますます情報であふれかえったものになってきている。たくさんの情報があることによって、選択肢をより多く持つことができたり、SNSによって遠く離れている人にも素早く広く情報を発信したりすることができる。一方で、情報を表面上の情報だけを鵜呑みにし、インターネットやSNSなどで安易に他者を傷つけることも可能な世の中になっていることもまた事実である。本時では実際に日本国内で起きたマイノリティに関わるトラブルの背景や原因および解決策を考えることで、見えない偏見やSNSの恐ろしさに気づき、マイノリティについて考えるきっかけとする。併せてラオスで見えてきたマイノリティ事情を踏まえてグローバルな視野を養う。

●ねらい

情報社会においては偏見が生まれる可能性があることを理解し、マイノリティの立場に立って物事を考えることができる。

●主な対象

高校生

●用意するもの

- ・色のついたシール：一人1枚貼れるように4～5色をそれぞれ複数枚用意する。
- ・その他のシール：上記の色のシールとは異なるもの
- ・パワーポイント① (P132)
- ・ワークシート① (P133)：全員分
- ・ホワイトボードセット（ミニホワイトボード、マーカー、マーカー消し含む）：グループ数分

●所要時間

50分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
1. 『おでこシール』によるアイスブレイク (10分) (1) 全員が目をつむった状態で、各自のおでこに色のついたシールを1枚ずつ貼っていく。 1名だけには異なるシールを貼る。 (2) シールを貼り終わったら、学習者に「目を開けて、『無言』でグループを作って座る」ように指示を出す。 (3) グループが出来上がったら感想を共有する。 シールの色ごとにグループを作っている場合、「なぜ特別な指示が無いのに『同じ色』のシールでグループとなったのか？」を問う。	パワーポイント① 1～3枚目を用いる。 あらかじめ、学習者は椅子のみで円形に座っておく。 異なるシールは、金や銀、外国のシールなど特別感のあるシールだとなおよい。
2. 京都国際高校の甲子園優勝に対するSNS炎上について考える。(30分)	テーマ：マイノリティを考える 「気づかないうちに偏見を持っていることはないだろうか」

<p>(1) ワークシート①を配付する。</p> <p>(2) 「京都国際高校」の事例を紹介する。どのような特徴の学校か、SNSで誹謗中傷を受けた内容を理解する。(5分)</p> <p>(3) ワークシート①の「なぜ誹謗中傷は起きたのだろうか?」「解決する方法はあったらどうか」について各自で記入する。その後、グループ内で共有し、解決する方法についてはアイデアをすり合わせる。(15分)</p> <p>(4) グループごとにホワイトボードにまとめた内容を発表する。(10分)</p>	<p>パワーポイント①4～9枚目を用いる。京都国際高校は在日韓国人の学校という異なるシールを貼られた存在であるということに気づかせたい。</p> <p>「解決する方法」については、柔軟なアイデアが出るように、自由な発想でよいことを伝える。ワークシートにそって「この解決策の特徴や良いところ」についても可能な限り記入し、考えさせる。</p>
<p>ふり返し・まとめ (10分) ラオスにおいては、ラオ族、モン族、カム族など言語の異なる50以上の民族が同じ国内で共存している。マイノリティの格差を埋める活動として「みんなのカフェ (ADDP)」や「子ども文化センター (SVA)」などの活動を紹介し、本時の感想をワークシートの感想欄に記入させる。</p>	<p>パワーポイント①10～14枚目を用いて解説する。</p>

●用語の解説

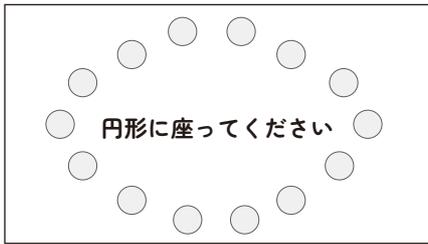
- ・京都国際高校：1947年京都朝鮮中学として開校したが2003年から一条校になり、現在は日本人生徒の方が多い。甲子園で勝利した際に歌う校歌の「東海（トンヘ：日本海のこと）」が注目された。
- ・ADDP：「特定非営利活動法人 アジアの障害者活動を支援する会」。主にラオスのビエンチャンで障がい者のスポーツ振興と就労支援を行っている。
- ・SVA：公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会。「本」を通じた教育文化支援活動や、緊急人道支援活動を行っている。

●解説

京都国際高校に対する誹謗中傷についての解決法を考える際に、発表では「校歌を日本語の歌詞にすればよい」といった京都国際高校側が変わるアイデアが多くなると予想される。そういった場合は「変わらなければならないのは京都国際高校（少数派）ですか?」と問いかけ、参加者に気づきを与え、学びを深めたい。

●パワーポイント①（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。



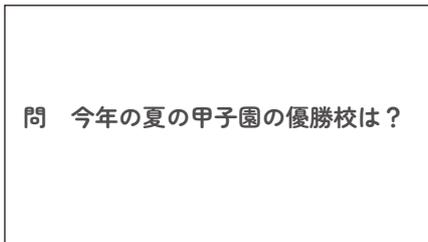
無言で、グループを作って
座ってください

気づかぬうちに偏見を持っていることは
ないだろうか。

今日のテーマ：マイノリティを考える

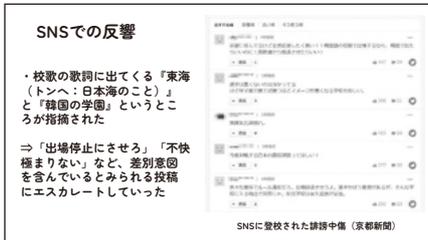


人権同和教育ホームルーム
2024.11.19



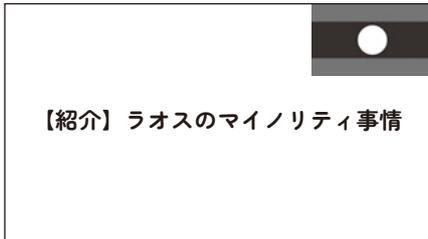
京都国際高校

- ・1947年に京都朝鮮中学として開校
- ・2004年から日本人も入学可能に
- ・現在は日本人の方が多いが、在日韓国人も在籍している
- ・「自尊」「尊重」「共生」を教育の根本とし、世界で活躍する真の国際人の育成を目指している
- ・多言語教育（英語・韓国語）の実践、徹底した進路指導、学力向上と人間力育成の両立を掲げ、クラブ活動や学校行事にも果敢に挑戦する姿勢を養っている
- ・海外研修・国際交流や異文化理解教育を通して人権意識を高め、一人ひとりへのきめ細やかな指導を実践している



問 どのようなことをすれば、京都国際高校は誹謗中傷を受けずに済んだらうか？

個人 ⇒ グループで考えてみよう

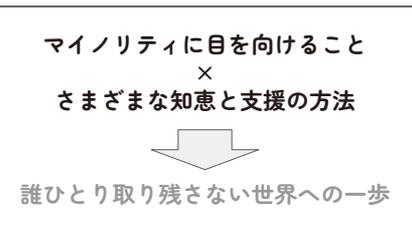


①少数民族

- ・民族：ラオ族（5.5%）、モン族（8%）、カム族（1.1%）など50民族
- ・言語：ラオ語（公用語）※ラオ族



絵本を届ける運動（シャンティ国際ボランティア会）



令和6年度 第2学年 2学期 人権同和教育 LHR ワークシート

()組()番()

メモ

①なぜ誹謗中傷は起きたのだろうか？

②解決する方法はあったらだろうか？

この解決策の特徴や良いところ

感想

アクティビティ2 「科学技術は世界を救うか？」

●概要

我々の生活の便利さや豊かさに貢献している科学技術についても、環境への悪影響を及ぼしたり、人を傷つけたりしている可能性が含まれている。これからの時代は、得られた情報をもとに多角的・批判的に思考することができる力が重要であると考え。本教材は、表面上の情報から一步深い部分を考え、裏や逆から見ることによって見えていくものや気づきを得るきっかけをつくるために作成した。歴史上の有名な科学者の功績とその科学技術を軍事利用された背景を学び、これからの科学技術の在り方を考察していく。

●ねらい

科学者が人類の歴史に与えた影響を多角的に考え、今後の科学技術のあり方に対する自分の考えを持つことができる

●主な対象

高校3年生（化学選択者）

●用意するもの

- ・パワーポイント② (P137)
- ・ワークシート② (P138)：全員分
- ・ジグソー活動用資料（参考文献のコピーなど）
- ・パソコン（情報検索用）：一人一台
- ・ホワイトボードセット（ミニホワイトボード、マーカー、マーカー消し含む）：グループ数分

●所要時間

100分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 導入（10分） 本時のめあて「科学者が人類に与えた影響を多角的に考え、科学技術に対する自分の考えを持つ」を共有する。	パワーポイント② 1～2枚目を用いる。 本時は化学×世界史の教科横断型授業であること、人類の歴史と科学者には密接な関係があることを伝える。 ※本時は化学の教員と世界史（社会）の教員のペアで展開できると良い。
2. ワークシート②を配布する。3～4人程度のグループに分かれ、グループ毎に「アルフレッド・ノーベル」、「アルベルト・アインシュタイン」、「フリッツ・ハーバー」の3人の科学者について調べる活動を行うことを伝える。（「エキスパート活動」）	調べる際には、教師が準備する資料だけではなく、個人の端末で調べたインターネット上の資料やYouTubeでの検索も許可する。

<p>3. アルフレッド・ノーベル、アルベルト・アインシュタイン、フリッツ・ハーバーの3人の科学者について、簡単に説明をする。(10分)</p> <p>4. グループを①「アルフレッド・ノーベル」を調べるグループ、②「アルベルト・アインシュタイン」を調べるグループ、③「フリッツ・ハーバー」を調べるグループに分ける。同じ科学者を調べるグループが複数になっても構わないが、必ず3人の科学者について調べるグループができるようにする。(25分)</p> <p>5. グループ替えをする。一つのグループに3人の科学者を調べた人が一人ずつ入るように3人グループをつくる(「ジグソー」)。グループ内で、それぞれが調べた3人の科学者の情報を共有していく。</p> <p>6. 3人の科学者の情報をふまえ、「科学者は世界を救ったのか? または救っていないのか?」について考える。その理由とあわせてグループの意見をホワイトボードにまとめる。</p> <p>7. グループごとに発表する。</p> <p>8. ラオスで感じた科学技術について説明を聞く(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メコン川の水を「ヂナイモ浄水場」でろ過して水道水をつくっている。 ・「ナムグム第一水力発電所」では自然の力をうまく利用し、発電している。 ・不発弾の処理現場では金属探知機を使って作業をしている。爆発時にはものすごい音が響く。 	<p>パワーポイント②3～5枚目を用いる。</p> <p>パワーポイント6枚目を使用する。「エキスパート活動」で調べる中で得た情報は、ワークシート②の左部「①選んだ科学者」の欄に記入していく。</p> <p>学習者の人数により、同じ科学者を調べた人が2人入る4人グループになっても構わない。</p> <p>パワーポイント7枚目を提示して指示を出す。ワークシート②の右部の欄に、グループで協議した内容をメモさせる。これらの情報をもとに、グループ内で合意形成を図るように促す。</p> <p>発表に対して、世界史(社会)教員と理科教員の双方の視点からコメントする。生徒からの意見を否定、判断するのではなく、教員自身の感想や考えを素直に伝えるよう意識する。</p> <p>パワーポイント②8～15枚目を用いて説明する。</p> <p>「ヂナイモ浄水場」や「ナムグム第一水力発電所」については科学が生活に役立っていることを伝える。</p> <p>不発弾について、処理作業の動画を見せることで、過去の負の遺物が今でも人を傷つけていることを理解させる。</p>
<p>ふり返し(10分) 以下のことについて、ワークシート②左下の欄に記入してまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの科学技術が世界を救うものであるために、大切なことは何だろうか。 ・私たちにできることは何だろうか。 ・本時の感想や気づいたこと。 	<p>パワーポイント16枚目を用いる。</p>

●用語の解説

- ・アルフレッド・ノーベル：ダイナマイトの発明によって掘削や採掘（開発）が容易になった。一方で、戦争に兵器として利用され、巨額の富を得た。それを悔やみノーベル賞を設立した。
- ・アルベルト・アインシュタイン：特殊相対性理論、 $E=mc^2$ の公式で有名。原子力を生み出したわけではないが、上記の公式がヒントになった。
- ・フリッツ・ハーバー：現在でも使われているアンモニアの工業的製法を見出した。開発当時はこれによって肥料の作成が容易になり、世界的食糧難の回避につながった。一方で第一次世界大戦においてはドイツ軍において毒ガス兵器の開発を主導した。

●解説

地歴担当の教員から2024年のノーベル平和賞（日本原水爆被害者団体協議会）についての補足があった。「ニュースでは喜ばしいこととして扱われているが、ノーベル賞のもともとの資金源が、戦争によって得たお金であることをたどれば、思うところがある」というコメントが教員から発せられ、生徒に対してまた別の視点を与えたようである。

パワーポイント② (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

コラボ授業 (化学×世界史)

科学技術は世界を救うか?

2024.12.19

本時のめあて

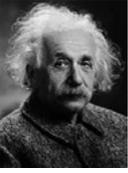
科学者が人類の歴史に与えた影響を多角的に考え、今後の科学技術のあり方に対する自分の考えを持つことができる

1人目の科学者：アルフレッド・ノーベル

- スウェーデンの化学者
- ダイナマイトの開発で有名
- 掘削や採掘 (開発) が簡易に
- 戦争で兵器としても利用される
- 遺言でノーベル賞をつくる



2人目の科学者：アルベルト・アインシュタイン



- ドイツ生まれのユダヤ人物理学者
- 特殊相対性理論で有名
- $E=mc^2$ の公式で有名
- 原子力を生み出したわけではないが、上記の公式がヒントとなった

3人目の科学者：フリッツ・ハーバー



- ドイツ生まれのユダヤ人化学者
- ハーバー・ボッシュ法 (NH₃の工業的製法) の生みの親。
- 第一次世界大戦ではドイツのために毒ガスを製造した。

1人の科学者を選んで詳しくなる (ジグソー)

- 時間 25分
- 検索するといろいろなホームページが出てきます。ネット上の記事は不正確なものもあるので、注意する。
- YouTubeなどの動画で学んでもよい。
- 生きた時代や歴史にも注目してみよう。
- 元のグループに戻り、その科学者について簡単に説明ができるように。

グループ議論

- 時間 20分
- 科学者は世界を救ったのか？ または救っていないのか？
- 理由とあわせてグループの考えをまとめよう。

【紹介】ラオスで感じた科学技術



メコン川の水

雨季でもあり、かなり汚れていた



チナイモ浄水場 ラオスの水道普及率 25%

さいたま市、横浜市などの行政から技術支援で水質の管理能力向上をはかっている。



ナムグム第一水力発電所

- 日本とラオスの絆のシンボル
- 内陸国で貿易が不利なラオス
- 水力発電事業は、ラオス経済を支える重要産業であり、外貨の獲得に大きく貢献している



UXO Lao ビジターセンター

※UXO: unexploded ordnance (不発弾)

多くの国が支援

被害にあった人の物語が不発弾に彫ってある

大型爆弾の中身 (クラスター爆弾)



不発弾爆破処理現場

ここに不発弾がある

午前中この間にこのエリアで3個見つけた

注意事項が書いてある この後、サインと血液型など記入

金属探知機で不発弾を探す



ラオスにおける不発弾の現状

- 8千万個の不発弾のうち、処理できているのは5%程度。すべて処理するには数十～100年かかる
- 50年前の戦争で用いられた爆弾だが、今でも年間300人前後のラオス人が不発弾の被害に遭い、亡くなっている。農作業で爆発したり、子どもが何かを知らず投げ合っで遊んで爆発したりすることもある
- すべて撤去作業はラオス人でやっている。
- ビジターセンターにも処理現場にもアメリカ国旗...



まとめ

これからの科学技術が世界を救うものであるために、大切なことは何だろうか。

私たちにできることは何だろうか。

ワークシート② (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

コロナ授業(化学×世界史)

科学技術は世界を救うか？

① 選んだ科学者() ()番()

私はこの科学者の技術は世界を(救った・救わなかった)と考える。

② グループ協議のメモ

私たちのグループは科学者たちの技術は世界を(救った・救わなかった)と考える。

③ まとめ

おわりに

教師海外研修の事前研修で聞いた、「私たちは微力ではあるが、無力ではない」という言葉が印象に残っている。今回の教師海外研修では初めての経験も多く、開発途上国に対するイメージは何となく持っていたが、現実を知り衝撃を受けたものが多かった。ラオスではすべての生徒が等しく教科書を持つことができていることや教員がボランティアで授業をしている状況、不発弾の処理を間近で見た教員が世界にどのくらいいるだろうか。これからの時代を担う生徒に対して授業をする立場である以上、この貴重な経験を少しでも生徒に伝えていくことが、私がしていくべきことだと強く感じた。しかし、研修の内容を理科の授業に効果的に入れていくことを目標に考えていたが、要素を取り入れるのにとっても苦戦した。授業への組み込み方や、生徒への伝え方はこれからも引き続き模索し、改善していきたい。

参考文献・引用資料

- ・『京都国際高校校歌《令和3年 選手権 4強》』
(YouTube、<https://www.youtube.com/watch?v=FlerRvh7vDQ>)
- ・『甲子園4強の京都国際に差別的ネット投稿 ヤフコメやツイッター、市民団体が問題視』
(京都新聞、2024.8.27) https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/627091#goog_rewarded)
- ・『マイノリティとは？マジョリティとの違いと種類・問題点と身近な具体例・差別や偏見を受けやすい理由』
(Spaceship Earth、<https://spaceshipearth.jp/minority/>)
- ・『そっか、日本と韓国って、そういう国だったのか。』（ムーギー・キム、東洋経済新報社、2022）
- ・『世界史は化学でできている』（左巻健男、ダイヤモンド社、2021）
- ・『戦争と科学者』（安斎育郎、かもがわ出版、2022）

実践事例報告

プログラム作成・実践者

吉岡 裕司

学校名

島根県立隠岐島前高等学校

担当教科

理科（化学）

実践教科

ホームルーム、化学

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

ホームルーム：人権同和教育（マイノリティ）

化学：化学が果たす役割、物質を通して未来を考える

(2) 単元のねらい

ホームルーム：全ての人が社会で共に生きるためには、何が必要かを考えることができる。

化学：これまで学習してきた内容を踏まえて、未来に向けてどうあるべきかを考え議論することができる。

(3) 概 要

アクティビティ1については、ホームルームの時間で実施し、日本国内におけるマイノリティに目を向けることに加えて、ラオスにおけるマイノリティ事情を理解することで、人権問題は全世界共通の課題であることを認識させることができた。

アクティビティ2については化学の時間で実施し、教科書における終章の部分で実施した。これまで学んだ化学の知識をもとに歴史的な背景を踏まえて、これからの科学技術の在り方を考察することができた。

(4) 指導上の留意点

アクティビティ1では、おでこシールのワークにおいて、特別なシールを貼る生徒に対して注意が必要である。取り残される疑似体験になる可能性が高いため、精神的に不安定になりやすい生徒は避ける。また、グループでの意見については「校歌を変える」のようなマイノリティ側が変わらなければならないような意見が多くなったため、想定しておくといわれる。

(5) 児童生徒の感想や学び・気づき

アクティビティ1においては、直前に韓国に研修旅行に行っている集団を対象に授業をしたため、より身近に感じ、受け取り方が深まったように感じた。「一人一人が国際理解につながるような取り組みができるといいなと思った。」「シールのワークで無意識にグループ分けをしていたから悪意がなくても人を傷つけているかもしれない。」「他の分野の問題でも少数派が変わらないといけないのかというところは考えていかなければいけないと思った。」「『こうでないといけない』という考えが無意識でもあるかもしれないと思った。」「SNSをうのみにせず、自分で考えることが大事だと思いました。」「こちら側も『韓国は日本に対して差別する、偏見を持っている』という偏見を捨ててはいけなと感じた。」「他の人の思想や価値観は簡単に変えられるものではないけれど、お互いの違いを認め合うということは不可能ではないと思う。」などの感想や気づきがあった。

アクティビティ2においては、3年生の理系の生徒に対して、化学のまとめの授業として実施した。「技術の発見は良いことで、科学者が悪いわけではない。」「科学技術に対する理解を深めることが今の私たちができることだと思います。」「本当に大切なのは『存在』ではなく『使い方』なんだから改めて思った。何事にも負の側面はあるし、私たちはそのことを理解しているから、危険な側面を持つものを使うときは十分に考える必要があるし、周りの人にその事実を伝えていくことも私たちのすべきことかなと思った。」「物事のとらえ方によって良いことも悪いこともあるから、どちらの側面もとらえられるようにしたい。」などの感想や気づきがあった。

【授業実践をした上での感想・振り返り】

いずれの授業も生徒は真剣に、集中を切らさずに取り組んでくれた。また、生徒の感想について大切な気づきを書いているものが多くあった。全体のねらいとしての、「表面上の情報から一步深い部分を考え、裏や逆から見ることによって見えてくるものや気づきを通して、国際社会において自ら多角的に考える姿勢を養う」については達成している生徒も多かったように感じた。課題としては、ラオス要素の組み込み方と中心となる問いを挙げたい。授業の構成において抽象度を上げた結果、ラオスを見てきて自分が本当に伝えたかったことが伝えられたのかというモヤモヤが残った。問いや構成については今後も練り直していきたい。



誰もが安心して生きられる社会の実現に向けて

～ラオスの事例から考える～

はじめに

ラオスでの経験は、現在生きる社会を俯瞰するきっかけを与えてくれた。ラオスでは多くの少数民族が生活をしているが、教育現場では母語と異なるラオ語が話されるために、多くの生徒が学習上の困難を抱えている。現在、日本でも外国にルーツを持つ生徒が増えていることもあり、同様の課題を抱えている人が多くいるため、ラオスの事例から考えるべきことは多い。また、ベトナム戦争中に落とされた不発弾の処理のために現在もラオス国内で多くの人々が尽力をしているのを知ることは、戦争の悲惨さ、また平和構築の重要性を再認識することにつながる。ラオスの事例から日本社会の現状との類似性を考え、自身にできることを具体的に考え、行動に移す姿勢を養うべく本教材を試作した。

この教材の使い方

- ・外国にルーツを持つ生徒が安心して教育が受けられるようにするためにはどのように人や社会が変容する必要があるかについて考える。
- ・平和の大切さを再認識し、実現するために自分にできる具体的な行動について考える。

全体のねらい

- ・グローバル化の中、すべての人に開かれた教育を実現することが難しいことを認識し、そのために言語教育や情報端末の利用等、課題解決のために必要な学びの在り方を模索させる。
- ・戦争が未来の人の生活をも苦しめうることを理解し、平和のために必要なことを考える中で平和実現において自分たちにもできることが多くあることを理解させる。

アクティビティ1 「この違いは何を生む？」

●概要

各グループに作業のための指示書を配布し、書かれる言語・情報端末の使用の可否・はさみ等の道具の使用の可否をそれぞれ変えて指定し、最終的な作業の完成のスピードで順位をつける。

教育の平等を実現するためには何が不十分だったのかを挙げさせる。

●ねらい

外国にルーツを持ち、異なる母語を持つ生徒にとって現在の学習環境にどのような課題があるかを体験し、それを解決するために必要なことは何かを考える。

●主な対象

中学生～高校生

●用意するもの（6グループで行う場合）

- ・パワーポイント①（P145）
- ・筆記用具（マジック等）：グループ数分

- ・準備物（グループごとに配布しやすいよう、封筒に以下の物をまとめておく）：グループ数分
 - ・指令書(1) (P144)：グループごとに入れる内容を変える。
 - ・はさみ：3つのグループの封筒に1つずつ入れる。残りのグループの封筒には入れない。
 - ・指令書(2)：パソコンやスマホ等の情報端末の使用許可が書かれた紙を3つのグループの封筒に1枚ずつ入れる。残りのグループの封筒には入れない。
 - ・白い紙：グループ数分（すべてのグループの封筒に1枚ずつ入れる）

●所要時間

45～50分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<ol style="list-style-type: none"> 1. ラオスで行われている教育の現状について説明する。(10分) 2. 【この違いは何を生む？】 クラスの生徒を6グループに分け、グループに筆記用具と予めセットした準備物①を渡す。生徒たちに「今から指令書に書かれた作業を遂行するように。完成した班から提出するように。」と伝える。 3. 生徒はグループに配られた指令書に沿って、封筒に入っている物品を使って作業を進める。(10分) 4. 作業を終了させる。それぞれのグループの指令書の内容を発表し、どんな違いがあったかを認識したのち、何が不平等だと感じたかを問いかける。(5分) 4. 現在、日本で勉強する外国にルーツをもつ生徒がどのような困難を抱えているかを説明する。(10分) 5. 日本の学校で外国につながりをもつ子どもが取り残されることなく学習ができるようにするためにはどのような環境が必要か、教育制度、教員、ともに勉強する児童生徒という三つの立場から考える。(10分) 	<p>解説 (P144)、パワーポイント① (P145) を参照。</p> <p>パソコンやスマホを使用できる班には「翻訳ソフト」も使用して良い旨を伝える。</p> <p>現実社会と照らし合わせて、「言語、機器の使用の有無、道具があるかどうか、教育を受けているかどうか（外国語教育の充実）」などに言及させる。</p> <p>中退率の高さや大学進学率が低いことについて言及する。</p> <p>個人で考え、グループ、最後は全体の前で発表させる。</p>
<p>ふり返し グローバル化が進行する中で、日本の教育には様々な課題があることを知る。誰もが安心して学べる環境の在り方を模索し、実現することは共生社会の実現にもつながるということを指摘する。(5分)</p>	

● 解 説

ラオスでは少数民族が多く暮らしているが、公用語はラオ語のみであり、それゆえに母語と異なる言語で授業が行われるために少数民族の国語や算数等教科の得点率はラオ族よりも低くなっている現状がある。小学校で初めてラオ語に触れる生徒も多い。ラオ語が卒業後の大都市での就労機会の獲得にもつながるため学習は必須である。

指令書(1)

※6グループに下のⅠ～Ⅵのいずれか一つの指令書が渡るように封筒に入れておく。また、グループによってはスマホやタブレットの使用を許可する。

Ⅰ

封筒に入っている紙を三角の形に切り、カレーの作り方を書いてください。

Ⅱ

封筒に入っている紙をハートの形に切り、卵焼きの作り方を書いてください。

Ⅲ

Cut the paper in the envelope into squares and draw instructions on how to make a hamburger.

Ⅳ

Cut the paper in the envelope into an oval shape and scratch the instructions for making spaghetti with meat

Ⅴ

ຕັດເຈ້ຍໃນຊອງເປັນຮູບກົມແລະແຕ້ມ
ໃສ່ມັນກ່ຽວກັບວິທີການເຮັດ
Oyakodon.

Ⅵ

ກະລຸນາປະໄວ້ເຈ້ຍໃນຊອງບໍ່ໄດ້ຕັດແລະ
ຂຽນວິທີການເຮັດ stew.

(指令書Ⅲ～Ⅵの日本語訳)

- Ⅲ 封筒に入っている紙を四角に切り、ハンバーグの作り方を書いてください。
- Ⅳ 封筒に入っている紙を楕円形に切り、ミートソーススパゲティの作り方をかいてください。
- Ⅴ 封筒に入っている紙を丸形に切り、親子丼の作り方を書いてください。
- Ⅵ 封筒に入っている紙を切らずにそのままにしてシチューの作り方を書いてください。

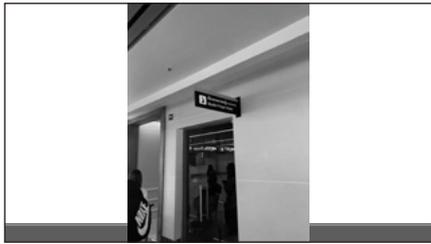
パワーポイント① (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

多民族国家で暮らすとは



- 1 面積
24万平方キロメートル
- 2 人口
744.3万人 (2022年、ラオス統計局)
- 3 首都
首都ビエンチャン
- 4 民族
ラオ族 (全人口の約半数以上) を含む
約150民族
- 5 言語
ラオス語
- 6 宗教
仏教

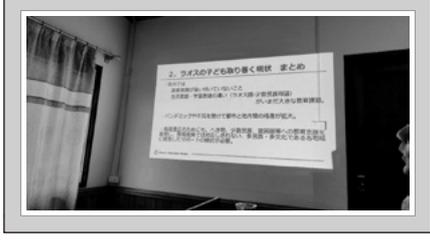


各班対抗ミッション

ミッションを達成した人から代表者は仁木のもとへ。
課題は班によって異なります。

I 封筒に入っている紙を三角の形に折り、右側の折り方をかいてください。
II 封筒に入っている紙の中心に切り、糊付きの折り方を置いてください。
III Cut the paper in the envelope into squares and draw instructions on how to make a bankpaper.
IV Cut the paper in the envelope into an oval shape and scratch the instructions for making spaghetti with meat sauce.
V ...
VI ...
VII ...
VIII ...

不平等な点が三つあったが、それは何か？



令和2年度中の日本帰還が必要な高校生等の中途・進路状況			
1. 中途進路			
中途進路先(帰国後)の状況	帰国後、1年以上経過	中途進路先(帰国後)	中途進路先
中途進路先(帰国後)の状況	就職	200	2.7%
中途進路先(帰国後)の状況(就職先)	自営/小売/サービス	100	1.0%
2. 進路状況			
進路先(帰国後)の状況	進路先(帰国後)の状況	進路先(帰国後)	進路先
進路先(帰国後)の状況	就職	400	11.3%
進路先(帰国後)の状況(就職先)	自営/小売/サービス	200	2.0%
3. 就職先(帰国後)の状況			
就職先(帰国後)の状況	就職先(帰国後)の状況	就職先(帰国後)	就職先
就職先(帰国後)の状況	就職	400	11.3%
就職先(帰国後)の状況(就職先)	自営/小売/サービス	200	2.0%
4. 進路先(帰国後)の状況			
進路先(帰国後)の状況	進路先(帰国後)の状況	進路先(帰国後)	進路先
進路先(帰国後)の状況	就職	400	11.3%
進路先(帰国後)の状況(就職先)	自営/小売/サービス	200	2.0%

アクティビティ2 「平和構築のために私たちにできることは？」

●概要

SDGsが2030年までの達成を目標としていることを挙げ、2030年までに平和構築のために自分たち自身にできることは何かを考える機会とする。

●ねらい

平和構築のための行動は国際機関や国だけが行うのではなく、個々人にできることも多くあるということに気づかせる。

●主な対象

中学生～高校生

●用意するもの

- ・パワーポイント② (P149)
- ・筆記用具 (マジック等)：グループ数分
- ・模造紙：グループ数分
- ・ふせん：グループ数分
- ・ワークシート (「平和構築計画シート」) (P148)：人数分
- ・異なる色のシール：それぞれ複数枚。合計で人数分-1となるように準備する。
- ・その他のシール：1枚

●所要時間

45～50分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
1. ラオスでの不発弾処理の現状について説明する。(15分)	ベトナム戦争時に落とされた不発弾による被害が現在も続いており、除去のための努力が継続されていることを伝える。 (解説 (P148)、パワーポイント② (P149) も参照)
2. 4～5人程度のグループに分かれる。模造紙、ふせん、筆記用具をグループに配布する。	

<p>3. グループ毎に「平和構築のために何が必要か」を考える。各グループに配布されたふせんを使い、一枚につき一つずつ、各自が自分の考えをできるだけたくさん書きだす。(10分)</p> <p>4. グループ内で、各自が自分の考えを発表しながら、ふせんを模造紙に貼り出していく。このとき、個人でできることは模造紙の右側に、個人では難しいことは模造紙の左側に貼るようにする。(5分)</p> <p>5. ワークシート(「平和構築計画シート」)を全員に配布する。模造紙で挙げた意見を参考に、自分たちが今後高校生・大学生・社会人として何ができるかを考え、各自記していく。(7分) →各グループ内で共有する。(3分)</p> <p>6. まとめ(5分) 「皆さん、今から目を閉じてください。教室でどんな音が聞こえるが、聞き耳を立ててみましょう。静かにゆったりとした気分を味わってください。その間に皆さんの額を少し触りますが、いいですか? もし、触られるのが嫌な人がいれば言ってください。その人は今から何がおきるのかを黙って観察しててください。」と伝え、生徒全員の額に異なる色のシールを1枚ずつランダムに貼っていく。 一人だけ別の色のシールを貼る。</p> <p>「喋らずに仲間を探してください」と指示を出す。</p>	<p>ふせんには、個人レベルから政府や国際機関ができることまで幅広く書き込むように促す。</p> <p>パワーポイント②を用いて、SDGsが2030年までの目標達成を掲げていることを知らせる。(SDGs目標達成の年に自分が何歳になっているかを意識させたい)</p> <p>傍観者のグループを作り、クラスメイトの動きを観察し、感じたことを言ってもらう。体に触れられるのが嫌な生徒を傍観者グループに入れるなど配慮する。</p> <p>色が同じ生徒同士で集まってグループを形成する傾向が極めて強い。</p>
<p>ふり返り</p> <p>6. のまとめをもとにふり返りを行う。 額のシールの色は人種、宗教、言語、国籍など様々なものに読み替えることができることを指摘し、自分の中に潜在的にそれぞれの違いに応じてグルーピングする傾向があるということに気づかせる。その上で、自分たちが平和構築のために大切にしなければならないことは何かを考え続けることが大切だということを伝える。(5分)</p>	

●解説

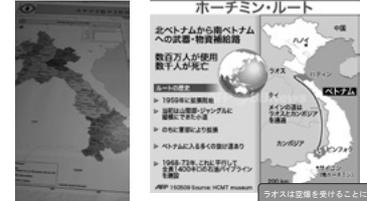
ラオスではホーチミンルートを遮断するためにベトナム戦争時に大量の爆弾が投下され、その多くが不発弾として現在も国内に残っている。そのため、毎年何十人もが被害に巻き込まれており、国にとっての大きな課題になっている。(ラオス政府は不発弾の問題をラオス独自のSDGs18番目のターゲットとして設定している。) 不発弾を取り除くために現在除去作業が行われているが、完了までまだ多くの時間を要すると推定されている。

ワークシート (「平和構築計画シート」) (見本)

平和構築のためにできること	HRNO()名前()
1 平和を実現するための行動計画(具体的に)	
【高校生として】	
【大学生として】	
【社会人として】	
2 一時間を通して感じたこと。これから実践していきたいこと。	

パワーポイント② (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

<p>平和構築のためにできること</p> <p>2024.11.21</p>	<p>豊かな社会の形成のために必要なことは...</p> <p>前回HRIにて豊かな社会を考えました...</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神的に豊かであること 自分も他人も大切に 経済的に余裕があること 助け合いの仕組みがある 福祉・医療 国籍や民族で差別されない ○戦争がなく、平和であること 	<p>世界地図の赤いところは何を表しているか？</p>  <p>5億3000万人の子どものたちが紛争に巻き込まれている</p>
<p>豊かな社会の前提として...</p> <p>平和で安全な社会を実現することが大切</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 平和構築の大切さについて学ぶ。 UXO VISITORS LAO CENTRE に訪問し、不発弾処理について学ぶ。 	<p>ベトナム戦争 (1964~1975年) アメリカが北ベトナムを攻撃</p> <p>ホーチミンルート</p> <p>北ベトナムから南ベトナムへの武器・物資補給路</p> <p>数百万人が使用 数十人が死亡</p>  <p>1969年に軍事施設 建設に着手し、 建設にすぎた。 1970年代後半に多くが埋没。 ベトナム戦争の終結に伴って 大量に北ベトナムに兵器が持ち込まれた。</p> <p>1980年 Source: HCRMT, HCRMT</p> <p>ラオスは地雷を受けることに</p>
<p>現在、戦争終了後も投下された不発弾が8千万個国内に残る</p>  <p>一年間で不発弾により40~50人の犠牲者が出る</p> <p>被害者の多くは子供</p>	<ul style="list-style-type: none"> 野原に遊んでいたら知らずに踏んで爆発させてしまう 危険なものだとわからず手にしてしまう たき火をして暖をとっていたら土のなかに不発弾がうまうまいて爆発 拾った金属を売って生活をしている人が金属をとるために大型の爆弾を解体して爆破する 	<p>不発弾を除去するためには数10年から100年がかかるといわれる</p>  <p>朝8時から夕方4時まで毎日除去作業が行われる。</p> <p>1200人の作業員が全国100の市町村で毎日作業の発表が行われている。</p>
		<p>18 LIVES SAFE FROM UXO</p> <p>ຊີວິດທີ່ປອດໄພຈາກລະເບີດບໍ່ທັນແຕກ</p>
<p>戦争は未来にも禍根を残すもの 平和を実現するためにできることは何だろうか？</p> <p>2024年のノーベル平和賞に日本籍団員 横井裕典 講演</p>  <p>ノーベル平和賞 日本籍団員</p>	<p>2030年までの達成目標 24歳になるまでに実現するためには何が必要か？</p> <p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p>	<p>平和を実現するために必要と思うことを付箋に書き、班の模造紙に貼っていく！ (7分)</p> <p>気になるポイント：意見の近いものはまとめて貼る</p> 
<p>付箋を分類する (5分)</p> <p>右側⇒自分たちができること 左側⇒政府など、自分たちよりも大きな組織が動く必要があること</p>	<p>平和を実現するための私たちの行動計画を立てる (7分)</p> <p>高校生として (~18歳) 大学生として (~22歳) 社会人として (23歳~)</p>	<p>各グループで行動計画の発表 (5分)</p>
<p>グループの代表者の発表</p>	<p>発表</p> 	<p>感想</p>

おわりに

ラオスへの海外研修を通して、途上国で自身が見聞きし、感じた多くのことは日本での課題を解決するための知恵を多く含んでいるのではと強く感じるようになった。途上国支援の現状を学びたいと考えて参加した本研修であったが、支援を受ける国からも支援する側が学べることは非常に多くある。例えば、ラオスの様々な場面で見られた共助の姿勢は、現代人の孤立を解消する上でのヒントになりうる。他国の現状から積極的に学び、それを生かしてよりよい社会を形成していこうとするしなやかな心を育てる一助に本教材がなればと願う。

実践事例報告

プログラム作成・実践者

仁木 敦子

学校名

徳島市立高等学校

担当教科

地理歴史

実践教科

ホームルーム

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ：平和構築のために自分たちにできることを考える

(2) 単元のねらい

現在各国で紛争が絶えず起こり、多くの子どもたちが巻き込まれており、紛争は未来を生きる子どもたちの平和をも蝕むものであるということやラオスでの不発弾の実態より学び、平和構築の重要性について再認識する。また、自分たちにできることが微力ではあるものの多くあるということに気づかせ、自分の意志で平和構築を実践していこうという姿勢を育てたい。

(3) 概 要

ラオスの不発弾の処理音を聞かせ、この爆発が起こる可能性が日常的にある環境で安心して生きることができるかどうかということや問いかけることから始めた。ラオスでの不発弾処理の現状について概観して平和構築の大切さを確認し、平和を実現するために必要なことをグループごとに分かれて付箋に書き、模造紙に貼っていった。その上で平和構築のための自身のこれからの行動計画を立てた。

(4) 指導上の留意点

平和構築のために必要なことを幅広く挙げさせることで、様々な面から自身にとれる行動を派生させて考え、行動計画を立てることができる。また、額にシールを貼るワーク中にはあえてシールが貼られない観察グループを作り、ゲーム中の他の生徒の様子を客観的に見て気づいたことを言ってもらった。

(5) 授業実践をした上での感想・ふり返り

生徒たちの感想文には「自分たちが平和構築のためにできることはあまりないと思っていたが、考えてみるとたくさんあり驚いた」など、平和のための取り組みを自分事化するきっかけとなったという趣旨のコメントが多かったように思う。また最後のシールのワークについての感想も多く、「知らないうちに自分と同じ特徴を持つ人を仲間とみなしている自分に驚いた」、「当初はルールがわからなかったこともあり、グループごとに集まるクラスメイトに追従していた。今自分が行っていることは正しいのかどうかを考えることを放棄しており、そのようなことは世の中にたくさんあるのではないかと感じた」など生徒たちにとっても自分たちの潜在意識を疑う機会になったようであった。昨今のニュースでも世界各地で紛争が勃発していることが報道されているが、今を生きる私たちが平和を願う心を失わず、主体的にできることを地道に行っていくことが大切なのだということや再確認する時間となった。

「ラオス×日本」から学ぶ国際理解

はじめに

「どうすれば日本のあらゆる子どもたちが世界と繋がり、お互いを理解し合うことができるのか」、これは私の教員人生の中での大きな課題である。世界に目を向け、学ぶことにより、自分の価値観や常識というフィルターを通した一元的な思考から、様々な文化を理解し、多角的・多面的に実像を捉える思考を獲得することができる。また、相手と対話をし、理解する態度を持つことで、世界の人々の関係は良くなると信じている。私は英語科教師であるが、受験のための英語だけではなく、『英語』というツールを通して世界と繋がってほしい、そして世界に目を向け、様々な人と関わり、学び、それが最終的に争いのない世界に繋がっていけば嬉しいという気持ちで日々教壇に立っている。

しかし、実際は日本の大半の子どもたちは海外の異文化に触れる機会が少なく、海外の人と対話する機会も少ない。そのような状況の中で、まず大切になるのは子どもたちに世界へ興味を持たせることであると考える。教師海外研修を通して得た経験を通して、生徒の興味や親しみのある内容から発展し、異文化体験や世界平和、国際協力、そして日本と世界の繋がりを感じられる教材を作成することを意識した。

この教材の使い方

本教材は、ラオス特有の食文化や観光、不発弾問題や国際協力にフォーカスを置いた教材となっている。しかし、どの国にも必ず日本とは異なる文化や光と影の両方の側面を抱えた状況、平和に関する課題等があるはずである。必要に応じて写真や内容を変更して活用していただきたい。加えて、英語科として実践したアクティビティが含まれるため、ワークシート等英語で表記されているものがある。しかし、いずれのアクティビティも日本語でも実践可能である。一部日本語バージョンの教材も記載しているため、必要に応じて活用していただきたい。

また、国際平和に関する教材の中に負の遺産について取り扱う場面があるが、その際には「この国はかわいそうな国なのだ」という先入観を子どもたちに植え付けることがないように、あらかじめその国の魅力や素敵な人々について学ぶ時間を十分に設けることも大切である。

最後に、アクティビティの中で正解が一つではない問いをたくさん用意している。子どもたちのディスカッションの時間を十分に設け、自由に自分の意見を伝え合うことを通して身近なところでも考え方の違いや価値観の違いが存在することを感じることができる。その際に自分の意見や相手の意見を決して否定せず、様々な考えを知る姿勢を持つように促進することが大切である。

全体のねらい

- ・多様な文化や生活、価値観を持つ人々が存在することや、日本とラオス間での国際協力について学び、多文化共生の意義について考え、互いの文化的な違いを尊重し対等な関係を築こうとする態度を身につける。
- ・異文化理解やラオスの地域格差、不発弾問題等様々な側面から平和の意味について改めて見つめ直し、一人ひとりの平和の「定義」を考え自分にできることは何かを考える。

●概要

世界中の食材や調味料、レシピについてクイズ形式で学習する。また、英語で書かれたレシピを読み解いた上で、実際にラオスのローカルフードである「カオソーイ」を協力して調理・試食し、食文化体験を行う。楽しく学び、食べ、感想を共有することを通して異文化に対する興味を促進することを狙いとしたアクティビティである。

●ねらい

- ・五感を通して世界の食文化について学ぶことにより、異文化に対する興味を促進させる。
- ・協力して調理を行い、感想を共有することを通して協力やコミュニケーションの大切さを学ぶ。

●主な対象

中学生～高校生

●用意するもの

[1時間目]

- ・パワーポイント① (P156/1～14枚目)
- ・ワークシート(1): 全員分 (P159)
- ・ワークシート(2)「うまみ世界地図」(P160上): グループ数分 (A3サイズで印刷する)
- ・ワークシート(3)「国名・調味料イラスト」(P160下): グループ数分 (B5サイズで印刷したものを予め切り離した状態を1セットとして使用する)
- ・各国の食品・調味料サンプル (スパイスセット、サルサ、ナンプラー、醤油、ベジマイト、ベーコンやチーズなど、可能な範囲で用意できるもの)

[2時間目]

- ・パワーポイント (P156/15～55枚目)
- ・ワークシート(4): 全員分 (P159)
- ・ワークシート(5): 全員分 (P159)

[3時間目]

- ・調理実習に必要な食材、調理器具
- ・エプロン、三角巾、マスク

●所要時間

3時間

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>[1 時間目]</p> <p>0. ワークシート(1)を配布する。</p> <p>1. ALTに、お気に入りの日本食について伝える。また、ALTからイギリスの料理について教えてもらう。</p> <p>2. 授業の目標を確認する。</p> <p>3. 世界のおいしいについて学ぶ。 “What is this made from/of?” “What does it taste like?”</p> <p>4. 世界のおいしいを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3～4人のグループにわかれる。 ・ ワークシート(2)「うまみ世界地図」と「国名・調味料イラスト」セットをグループに配布する。 ・ 生徒は「国名・調味料イラスト」のカードを「うまみ世界地図」に当てはめながら、それぞれの調味料や食材がどの国のものか、推測する。 	<p>生徒にとって身近な話題から入る。ALTとの対話の前に様々なペアで練習させることで、リラックスした雰囲気を作る。</p> <p>一部実物を用意したり、写真を見せたり、質問しながら説明することで、生徒たちに興味を持たせる。</p> <p>その地域周辺の国々で有名な料理や特産物等、既存知識から推測させる。</p>
<p>[2 時間目]</p> <p>5. What Am I cooking? (何を作っているでしょう?)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート(4)を配布する。生徒はペアになる。 ・ パワーポイントで料理の手順や材料等を順番に示し、生徒はワークシートに沿って料理名と国名を推測する。 <p>最後の問題でラオスのローカルフードである「カオソーイ」を出題する。その際の答え合わせで、最終時に実際にカオソーイを調理して試食することを伝える。</p>	<p>食について詳しい生徒とそうでない生徒がペアになるようにする。</p> <p>後半になるにつれ難易度が増すが、特に最終問題(カオソーイ)はインターネット等で調べさせ、答えを見つけてもよい。</p> <p>教師が実際に食べたカオソーイの写真や、特有の材料について解説する。</p> <p>※カオソーイはタイにも存在するが、ラオスのカオソーイはトマトベースの肉味噌が特徴である。</p>

<p>6. 「カオソーイ」 レシピの読解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(5)を配布する。 ・調理グループ（5人程度）に分かれ、「カオソーイ」の英語レシピの読解をする（レシピで使用される表現の習得、材料の確認、手順の確認）。 ・当日の役割について話し合う。 	<p>食材や調味料を匂ったり触ったりする中で、楽しみながら調理ができるようにする。</p> <p>パクチーは好き嫌いが分かれるため、事前に生徒の好みを確認しておく。</p>
<p>[3時間目]</p> <p>7. 「カオソーイ」 調理・試食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標を確認し、材料や調理の流れを再確認する。 ・各グループに分かれ、前時に話し合った役割を基に協力してカオソーイを作る。 できあがったグループから試食をする。 	<p>辛いのが苦手な生徒は、豆板醤を入れる前に肉味噌を別皿に分けるようにする。</p> <p>職員室にいる教員にも提供し、感想を共有したい。</p>
<p>ふり返り</p> <p>友達や先生と味の感想を共有し、交流する。</p>	

●用語の解説

- ・カオソーイ…ラオスのヌードルスープで、トマト入りのひき肉とナンプラーが効いたスープと太めのフォーが特徴。パクチーやライムなどをトッピングして食べ、辛み、酸味、旨味のミックスが味わえる。

●解 説

このアクティビティでは、生徒の興味の持ちやすい食文化から世界に目を向けることをねらいとしている。写真や動画による視覚だけでなく、調味料や食材から感じる嗅覚や触覚、味覚、調理をする際の聴覚など、あらゆる五感を刺激するものである。各活動において、自分の考えや感想を周囲と共有する時間を十分に設けることにより、より学びは深まるだろう。

今まで世界に目を向けたことのない子どもたちを含め、多くの子どもたちにとって日本とは異なる世界の食文化を学び、体験する良いきっかけになることを期待している。

パワーポイント① (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

The Table of the World (世界の食卓)



GOAL Exploring and appreciating global food cultures
(世界の食文化を探索し、理解しよう)

1. What is your favorite Japanese food?
What is Daniel's favorite British food?
Let's learn about world dishes
2. Let's explore world recipes!
Let's learn how to cook OO
3. Let's cook OO!

① Speaking : [TOPIC] What is your favorite Japanese food?

A: Hi! How are you, (相手の名前)?

B: I'm (good. / so-so. / sick). Thank you. And you?

A: I'm (good. / so-so. / sick). Thanks.

B: I'm will go to a Japanese restaurant this weekend.

What is your favorite Japanese food?

A: I see. My favorite Japanese food is _____.

B: Sounds nice. I will go to a _____ restaurant, then.





British Cuisine

Introduction

Hello everybody! Today, I would like to talk to you about British cuisine.

British cuisine is simple, but delicious.

Let's learn about some British food, and see what British people eat in a typical day.



Breakfast - A full English breakfast

A full English breakfast is a delicious way to start the day. It is a plate of food that includes:

- Eggs (scrambled or fried)
- Bacon
- Sausage
- Baked Beans
- Toast
- Mushrooms
- Tomatoes
- Black pudding

Full English breakfast can be huge, but they don't always need to include everything.

A recent survey said that this is the most popular dish in the UK.





Morning snack - sausage roll

British people love pastries. There are thousands of bakeries across the country.

The most popular by far, is the chain bakery 'Greggs', and their most popular product is the sausage roll.

A sausage roll is made of sausage meat wrapped in puff pastry, and Greggs sells two and a half million EVERY DAY.

Sausage rolls are so important to British culture that they are featured in songs, clothes and more.

Can you guess what this is?



Greggs fans can be sent off in sausage roll coffin as funeral home releases unusual designs

The funeral firm hopes to break the habit of making death dull.

Some of Greggs' bakery can now be featured in a sausage roll coffin as a funeral home is offering people a quirky service.

Lunch - fish and chips

Japanese people like to eat fish, but in the UK, the most popular way to eat fish is deep fried, and served with chips.

The fish used is usually a big white fish, such as cod or haddock. The fish is deep fried and traditionally wrapped in newspaper with chips.

A fish and chip shop is called a 'chippy', and you can choose your favourite side sauce at most chippies.

Salt and mush vinegar is classic, but people in the north also go for gravy or curry sauce.

If you ever go to the UK, please go to the beach and have fish and chips!



Afternoon snack - afternoon tea

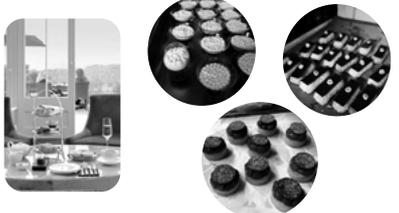
Often in the afternoon, British people will have tea with biscuits or other snacks.

Tea in the UK is very different to tea in Japan: Tea in the UK is always black leaf tea, served with milk, and ALWAYS served hot.

As well as biscuits, snacks can include scones, finger sandwiches and little sweets.

Of course, we also often drink tea on its own.





Dinner - roast dinner

'Roast dinner' (or 'Sunday dinner') is a major tradition in the UK. Every Sunday, families gather for a Sunday roast.

Sunday roast can be cooked at home, or eaten at a restaurant, and is usually had in the late afternoon.

A Sunday roast consists of:

- Roasted meat (Chicken, beef, pork, or sometimes lamb)
- Potatoes (Usually mashed, roasted or boiled)
- Vegetables (For example, beans, carrots, leeks, peas, cabbage)
- Gravy

However, most people's favourite part of a Sunday roast is a 'Yorkshire pudding'. Yorkshire puddings are not sweet, but savoury deep-fried lumps that is used to mop up the gravy.





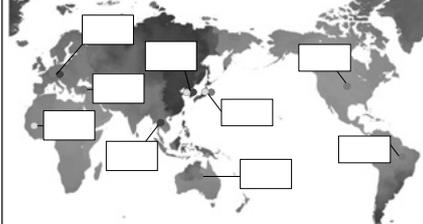
Pudding - sticky toffee pudding

In the UK, the word 'pudding' means any kind of dessert.

One of my favourites is sticky toffee pudding.

It is a rich, sticky sponge cake, made with dates.

You can eat it with hot custard or cold ice cream; I would recommend ice cream in the summer and custard in the winter!



What Am I Cooking? (私は何をつくっているでしょう?)

Question 1

1. Boil water and add salt.
(お湯をゆでて、塩を加えます。)

2. Put long, thin pasta in the boiling water.
(長くて細いパスタを沸騰したお湯にいれます。)

3. Cook the pasta until soft, then drain the water.
(パスタが柔らかくなるまでゆで、水を切ります。)

4. In a pan, cook bacon until crispy.
(フライパンで、ベーコンをカリカリになるまで炒めます。)

5. Mix eggs, cheese, and black pepper in a bowl.
(卵、チーズ、塩コショウをボウルで混ぜます。)

6. Add the pasta to the bacon, turn off the heat, and quickly mix in the egg mixture.

(ベーコンにパスタを加え、火を止め、すぐに卵の混合物を混ぜます。)

7. Stir until creamy and serve with extra cheese on top.

(クリーミーになるまで混ぜ、仕上げにチーズをかけて完成！)

HINT

It's an Italian dish with pasta, eggs, cheese, and bacon.

(イタリアの料理で、パスタ、卵、チーズ、ベーコンを使います。)

Question 2

1. Wash rice until the water is clear.

(米を水が透明になるまで洗います。)

2. Cook the rice and let it cool.

(ごはんを炊いて、冷めます。)

3. Mix vinegar, sugar, and salt, then stir it into the rice.

(酢、砂糖、塩を混ぜ、ご飯に混ぜ込みます。)

4. Slice raw fish and other toppings.

(生の魚や、その他のトッピングを切ります。)

5. Put the rice in small, hand-sized shapes.

(ご飯を小さなサイズに形作ります。)

6. Place the raw fish or other toppings on the top of the rice.

(生魚やトッピングをご飯の上にのせます。)

7. Serve with soy sauce, wasabi, and pickled ginger.

(醤油、わさび、がりと一緒に提供します。)

HINT

It's a Japanese dish made with raw fish and vinegared rice.

(日本の料理で、生魚と酢飯を使います。)

Question 3

1. Cook ground beef with onions and garlic.

(牛ひき肉を玉ねぎとニンニクで炒めます。)

2. Add chili powder, cumin, and tomatoes.

(チリパウダー、クミン、トマトを加えます。)

3. Warm up round, flat corn or flour tortillas.

(丸くて平たいトルティーヤを温めます。)

4. Spoon the beef mixture onto the tortillas.

(トルティーヤに肉の混合物をのせます。)

5. Add toppings like lettuce, cheese, salsa, and sour cream.

(レタス、チーズ、サルサ、サワークリームなどをトッピングします。)

6. Fold the tortillas and serve.

(トルティーヤを折りたたんで完成！)

HINT

It's a Mexican dish often served with various fillings wrapped in tortillas.

(様々な具材をトルティーヤで包んで食べるメキシコ料理です。)

Question 4

1. Cook basmati rice until soft and fluffy.
(バスマティライスを柔らかくふわふわになるまで炊きます。)

2. In a pan, cook onions, garlic, ginger, and spices like cumin, turmeric, and garam masala.

(フライパンで玉ねぎ、ニンニク、ショウガ、クミン、ターメリック、ガラムマサラなどのスパイスを炒めます。)

3. Add chicken pieces and cook until brown.

(鶏肉を加え、茶色くなるまで炒めます。)

4. Pour in yogurt and simmer until the chicken is tender.

(ヨーグルトを加え、鶏肉が柔らかくなるまで煮込みます。)

5. Stir in fresh coriander and serve with the rice.

(新鮮なコリアンダーを混ぜ、ライスと一緒に提供します。)

HINT

It's an Indian dish with lots of spices.

(たくさんスパイスを使ったインド料理です。)

Question 5

1. Cook pho noodles in boiling water until soft.

(フォー(米の麺)をお湯でゆでて柔らかくします。)

2. In a pot, cook ground pork with garlic and onions.

(鍋で豚ひき肉とニンニクと玉ねぎと一緒に炒めます。)

3. Add tomatoes, fish sauce (namp la), and chili paste, and stir.

(トマト、ナンプラ、チリペーストを加えて混ぜます。)

4. Pour in broth and simmer until flavors blend.

(出汁を加えて、味がなじむまで煮込みます。)

5. Serve the noodles in a bowl, pour the soup over them, and top with fresh herbs.

(麺をボウルに入れ、スープをかけ、上に新鮮なハーブをのせて提供します。)

HINT

It's a famous Laotian and Thai noodle soup with a fish sauce broth, pork, and fresh herbs.

(ラオスやタイの有名な麺スープで、魚醤のまいたスープと豚肉、ハーブが特徴です。)

ワークシート(1) (見本)

No.14 Communication English IIC 番外編 The Table of the World ①

番外編 The Table of the World (世界の食卓)
GOAL (目標) Exploring and appreciating global food cultures. (世界の食卓を探索し、楽しむ。)

① Speaking: [TOPIC] What is your favorite Japanese food?

A: Hi! How are you, (相手の名前)?
 B: I'm (good / so-so. / sick). Thank you. And you?
 A: I'm (good / so-so. / sick). Thanks.
 B: I'm will go to a Japanese restaurant this weekend.
 What is your favorite Japanese food?
 A: I see. My favorite Japanese food is _____.
 B: Sounds nice. I will go to a _____ restaurant, then.

② NEW WORDS (新出語句)

English	日本語	English	日本語
① America		⑥ Turkey	
② Australia		⑦ Britain	
③ Brazil		⑧ Europe	
④ Laos		⑨ Africa	
⑤ Thailand		⑩ Korea	

③ Umami in the World (世界のうまみ)

 Gravy sauce …肉汁ペースト。肉類、動物性タンパク質をベースにした、小麦粉やバターでとろみをつけたソース。	 Salca …トルコを原産地とする、甘く酸味のあるみりんと調味料の調味。	 Dainidashi …白だしの本物の味。子から作られ、強い香りと独特の風味。
 Nam pla …魚を発酵させて作る魚醤。塩が強く、料理に深みを加える。	 Bacalao …タラの塩漬けの干物。多くの伝統料理に使われる。	 Vapeurite …肉類食品で、塩辛い独特な風味がある。トーストに塗って食べる。

ワークシート(4) (見本)

No.15 Communication English IIC 番外編 The Table of the World ①

番外編 The Table of the World (世界の食卓)
GOAL (目標) Exploring and appreciating global food cultures. (世界の食卓を探索し、楽しむ。)

④ NEW WORDS 2 (新出語句 2)

English	日本語	English	日本語
① pho noodles		④ tea spoon	
② garlic		⑤ table spoon	
③ ginger		⑥ cut	

⑤ What Am I Cooking? (何を作っているでしょう?)

Q.1 (Answer) _____ (Country) _____

Q.2 (Answer) _____ (Country) _____

Q.3 (Answer) _____ (Country) _____

Q.4 (Answer) _____ (Country) _____

Q.5 (Answer) _____ (Country) _____

ワークシート(5) (見本)

No.16 Communication English IIC 番外編 The Table of the World ①

⑥ An English Recipe "Khao Soi (カオソーイ)"

Khao Soi ... This is an local noodle soup, meat and a tasty broth. It has a mix of spicy, sour, and savory flavors from chili, lime and fish sauce(ナンプラー).

Ingredients (1x)

Fresh noodles: 100g
 -Hot water (for boiling): as needed
 -Ground pork: 100g
 -Tomato (1/2 piece): 80g
 -Green onion: 5cm
 -Garlic: 1 clove
 -Ginger: 1 piece

(A) Seasoning
 -Iyo no Miso: 1 table spoon
 -Doonjanjang: 1/2 table spoon
 -Ground chili powder: 1/2 tea spoon

(B) Other
 -Salad oil: 1 table spoon

●Soup
 -Hot water: 600 mL
 -Chicken stock powder: 1 table spoon
 -Nam pla (fish sauce): 1 table spoon
 -Sugar: 1 tea spoon
 -Salt and pepper: 1/4 tea spoon
 -Cooking sake: 1 table spoon

●Toppings
 -Red onion: 30g
 -Cilantro: 10g
 -Shimamami Lemon: 1/2 piece

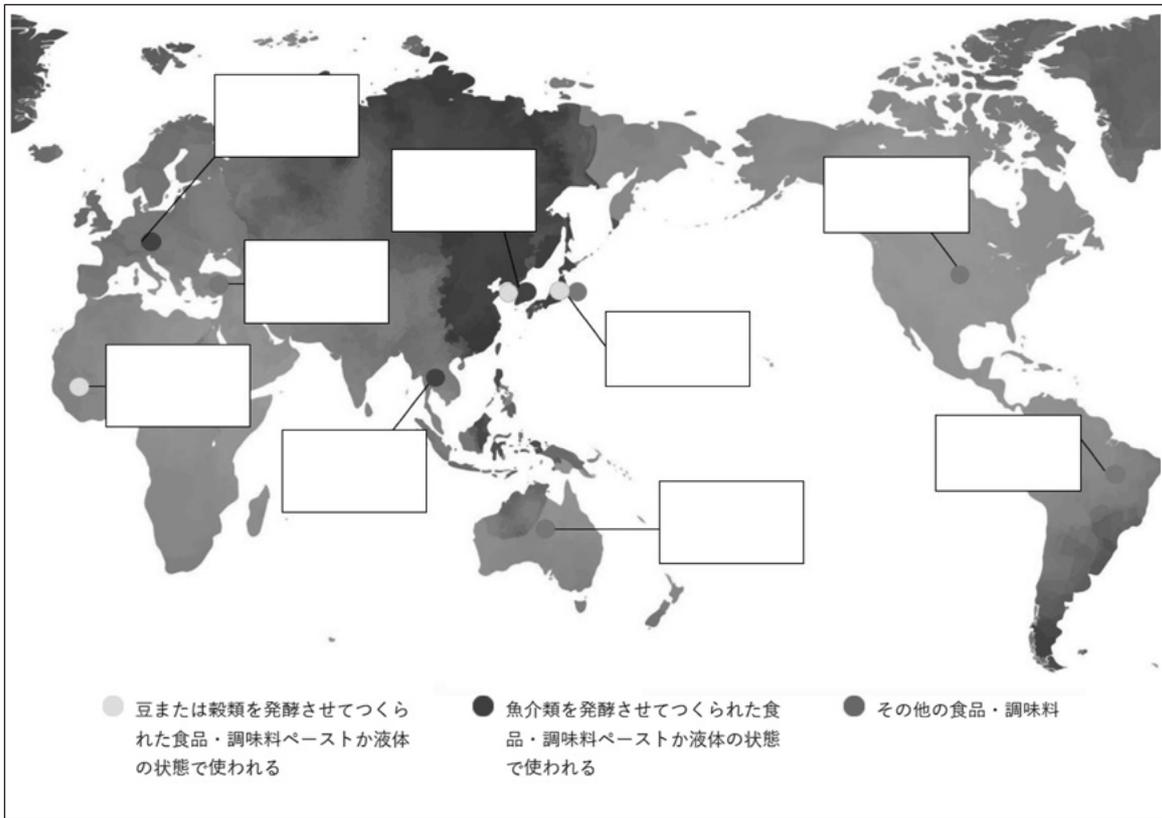
1. Cut the tomato into 8 equal pieces.
 2. Finely chop the green onion, garlic, and ginger.
 3. Thinly slice the red onion. Cut the cilantro into 3cm pieces. Slice the lemon into 5mm pieces.
 4. Heat the salad oil and the chopped ingredients from step 2 in a frying pan over medium heat. When the garlic becomes fragrant, add the ground pork and stir-fry.
 5. Once the pork changes color, add the tomato and the seasoning ingredients from (A) while keeping it on medium heat. Stir-fry until the tomato breaks down and becomes soft, then remove from heat.
 6. Boil water in a pot, add the pho noodles, and cook according to the package instructions. Drain the noodles using a strainer.
 7. In a separate pot, add the soup ingredients and bring to a boil over medium heat. Once it comes to a boil, remove from heat.
 8. Place the boiled noodles from step 6 into a bowl, pour the soup from step 7 over it, then top with the ingredients from steps 3 and 5. Enjoy!



※いずれもデータはウェブ上からダウンロードしてください。

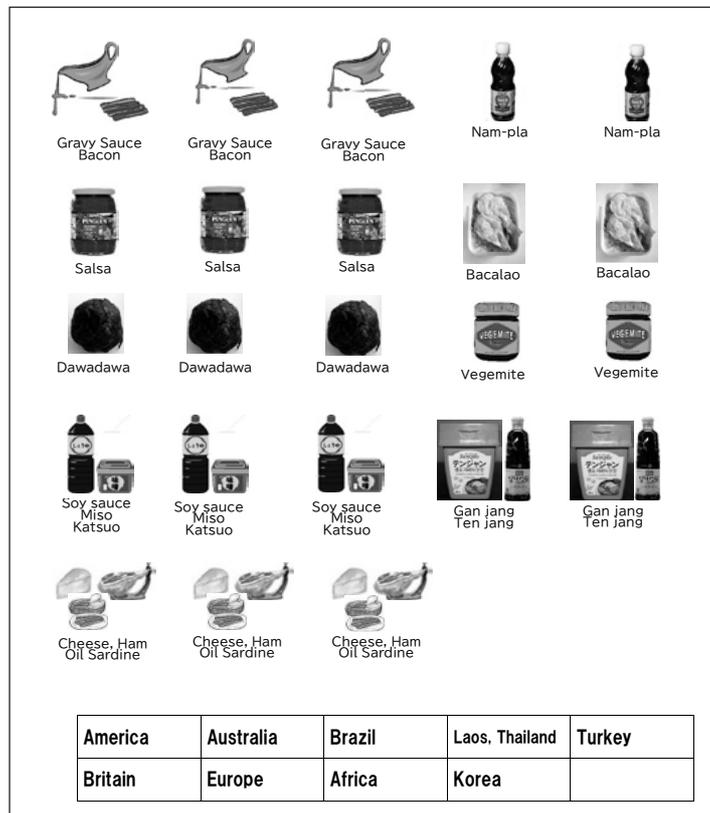
ワークシート(2)「うまみ世界地図」(見本)

※A3サイズで印刷してください。



ワークシート(3)「国名・調味料イラスト」(見本)

※B5サイズで印刷したものを予め切り離して使用してください。



※いずれもデータはウェブ上からダウンロードしてください。

●概要

持続可能な観光について考えるアクティビティである。観光が促進されることによるメリットとデメリットを「世界遺産に登録された富士山」と「The New York Timesにおいて世界で一番行きたい国に選ばれたラオス」についての英文を読むことから考える。オーバーツーリズムによって生じる諸問題をどのようにすれば防ぐことができ、持続可能な観光に繋がるかを考える。最終的には、観光地として人気を高めている地元の伯方島を中心に持続可能な観光に向けた取組を考え、英作文を書く。

●ねらい

- ・「持続可能な観光」について理解する。
- ・地元の伯方島の観光における課題とその解決策について考える。

●主な対象

高校生

●用意するもの

- ・パワーポイント② (P165)
[1時間目]
- ・ワークシート(6) (P166)：全員分
[2時間目]
- ・ワークシート(7) (P166)：全員分
- ・A2サイズの模造紙：グループ数
- ・マジック：赤色／青色各1本×グループ数
- ・スピーカー（リスニング音源再生のため）
[3時間目]
- ・ワークシート(8) (P166)：全員分

●所要時間

4時間

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>[1時間目]</p> <p>0. ワークシート(6)を配布する。</p> <p>1. 冬休みに行きたい場所についてペアで話し合う。 “You’ve got 100 million yen. You can go anywhere. Where would you like to go during the winter vacation?”</p>	<p>生徒にとって身近な話題から入る。特に、長期休暇を見据えて観光で行ってみたい場所について考える。まずは教師とALTがモデルスピーチを示す。</p>

<p>2. 授業の目標を確認する。</p> <p>3. 新出語句を確認した後、富士山が世界遺産に登録され、観光客が増加したことによるメリットとデメリットについて書かれた英文を読む。(資料・解説に掲載)その後、設問を解きながら、持続可能な観光について学ぶ。</p>	<p>設問を解説する中で、オーバーツーリズムの弊害について学ばせる。</p>
<p>[2時間目]</p> <p>0. ワークシート(7)を配布する。</p> <p>1. 観光客増加のメリットとデメリットについて4人のグループで考える。 “What are the pros and cons of increasing tourism?”</p> <p>2. 各グループにA2サイズの模造紙と、赤色と青色のマジックをそれぞれ1本ずつ配布する。観光客増加のメリットは赤色、デメリットは青色で模造紙に記入する。</p> <p>3. 持続可能な観光についてのスピーチをリスニングし、持続可能な観光について理解する。</p> <p>4. “What can we do to achieve sustainable tourism?” 事前に対話中でのリアクションや、話す内容についてのヒントを全体で確認する。その後、観光客として配慮できることについて5分程度個人で考え、ペアで話す。</p> <p>5. “The Charm of Laos and Challenges of Tourism” ワークシート(7)にある、ラオスの魅力や、特に世界遺産に登録されたルアンパバーンについての説明、観光地として着目されたことにより生じる弊害の可能性について書かれた英文を読む。</p>	<p>ワークシートで取り扱った内容以外にも様々な回答があることを伝える。</p> <p>リスニングで使用された有用表現を、リスニング後に全体で発音練習をすることにより、その後のスピーキング活動に活かされる。</p> <p>まずは教師とALTが共にモデルスピーチを示す。(資料・解説に例示掲載)</p> <p>現地の写真や動画、エピソード、実際に購入した物品を紹介しながら見せることでより生徒は興味を持つことができる。 開発途上国であるからこそその魅力についても解説の中で触れたい。</p>

<p>[3時間目]</p> <p>0. ワークシート(8)を配布する。</p> <p>1. 伯方島の持続可能な観光について、80語～100語の英語で自分の意見を書く。</p>	<p>生徒にとって身近な場所を取り上げ、自分事として考えさせるトピックを設定する。</p> <p>教師はライティングの構成についてヒントを示す。</p>
<p>ふり返り</p> <p>ライティングをクラス全体で共有し、お互いに英語でコメントを記入する。</p>	

●用語の解説

- ・持続可能な観光・・・「訪問客、業界、環境及び訪問客を受入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」
- ・オーバーツーリズム・・・過度な観光地化によって、地域住民の生活環境や観光客の観光体験に悪影響を与える状態のこと

●解 説

このアクティビティは、生徒にとって身近な観光を話題に、観光のメリットやオーバーツーリズムの弊害、持続可能な観光の実現に向けて自分達ができることを考えさせることがねらいである。まずは生徒たちの今までの旅行の経験の共有から始まり、世界遺産に登録された富士山やThe New York Timesで、世界で一番行きたい国に選ばれたラオスの記事を読む中で、その地域の魅力やオーバーツーリズムの弊害、それらを保護していくことの重要性を学ぶ。特に海外の国々の魅力について触れる中で、教師の経験や写真・動画をワークシートやスライドの中で補足教材として織り込むことにより、生徒の各国の文化への興味が深まることが期待される。最終的には、生徒たちにとって身近な、観光客が急増している観光地を取り上げ、観光客増加によるメリットとデメリットを踏まえた上で、自分事として持続可能な観光を実現するための策を考える時間を設けている。

●資 料

“What Happened to Mt. Fuji?” 本文

What happened to Mt. Fuji?

When Mt. Fuji was registered as a World Heritage site in 2013, people all over Japan were thrilled by the news. Many hoped that more foreign tourists would visit Japan's most famous mountain.

More than 200,000 people come to climb Mt. Fuji each summer, and it makes a lot of economic benefits. Also, Mt. Fuji has become very popular all over the world and many foreign people have understood the importance of Japanese culture.

However, this causes a lot of problems, too. Mt. Fuji can't handle so many tourists. There are not enough beds in the mountain huts near the top, for example, and there are not enough toilets, either. This is why “bullet climbing” (climbing overnight without sleep) is so common these days. This just makes the trails near the summit more crowded, of course.

●資料

“What can we do to achieve sustainable tourism?” ALTとの英会話の例

A : Hi, ○○! How's it going?

B : Good, thank you. You?

A : I'm fine, thanks.

In our English lessons, we learned about “sustainable tourism”.

What can we do to achieve sustainable tourism?

B : I think we can respect, understand, and follow the community's rules.

How about you?

A : I believe we can choose environmentally friendly transportation.

B : That's nice!

パワーポイント② (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

Sustainable Tourism (持続可能な観光)



GOAL ① Understand the "sustainable tourism(持続可能な観光)"
② Consider the Tourism Challenges of Hakata Island

- 1 •Where would you like to go during the winter vacation?
•Let's think about the case of "Mt. Fuji!"
- 2 •The pros and cons of increasing tourism
•Let's think about the case of "Luang Prabang"
- 3 •What can we do as tourists?
•What can we do to promote & protect the tourism of Hakata Island?
- 4 •[Writing]
The ways to protect the tourism of Hakata Island



ワークシート(6) (見本)

No.21 Communication English IIAB 番外編 Sustainable Tourism

0. Warm-up [Speaking]

Q.1 Where would you like to go during the winter vacation?

A: Where would you like to go during the winter vacation?
 B: I would like to go to _____
 A: (Reaction) What would you like to do there?
 B: I would like to _____
 A: (Reaction)
 B: How about you? Where would you like to go?
 A: I want to go to _____
 B: (Reaction) What would you like to do there?
 A: I want to _____

[Reaction]
 Sounds interesting. / Really? / That's nice. / I see. / Wow! / Oh!

[HINTS]
 eat delicious local foods such as ~. ~などの地元のおいしい料理を食べたい
 visit famous tourist spots. It is famous for ~. 有名な観光地を訪れたい。~で有名なだよ。
 enjoy shopping. I want to buy ~. ショッピングを楽しみたい。~を買いたい。

Q.2 Nowadays, many people enjoy traveling. Why do people travel?

[HINTS]
 * relax * discovery (発見) * health * culture * connection with others

1. New Words

English	Part of speech	Meaning	English	Part of speech	Meaning
1) move	動詞	移動する	5) overnight	副詞	一泊
2) handle	動詞	扱う	6) trail	名詞	小径
3) last(s)	動詞	最後になる	7) common	形容詞	共通の
4) bullet	名詞	弾丸	8) summit	名詞	山頂

2. Reading

What happened to Mt. Fuji?

When Mt. Fuji was registered as a *World Heritage site in 2013, people all over Japan were thrilled by the news. Many hoped that more foreign tourists would visit Japan's most famous mountain.

More than 200,000 people come to climb Mt. Fuji each summer, and it makes a lot of economic benefits. Also, Mt. Fuji has become very popular all over the world and many foreign people have understood the importance of Japanese culture.

However, this causes a lot of problems, too. Mt. Fuji can't handle so many tourists. There are not enough beds in the mountain huts near the top, for example, and there are not enough toilets, either. This is why "bullet climbing" (climbing overnight without sleep) is so common these days. This just makes the trails near the summit more crowded, of course.

Q.1 2013年、富士山はどのように登録されましたか？

Q.2 Q.1に登録された結果、富士山にどのような影響があったのでしょうか？良い影響と悪い影響に分けて、日本語でそれぞれ具体的に説明しなさい。

良い影響	悪い影響

ワークシート(7) (見本)

No.22 Communication English IIAB 番外編 Sustainable Tourism

3. Warm-up 2 [Listening & Speaking]

[Listening] 音源を聴きながら、聴き取ったことについてスピーチを準備しましょう。

① スピーチの中で話された項目を以下の中から選び、記号で答えなさい。

a. Choose eco-friendly accommodations b. Reduce waste
 c. Support local business d. Walk or use public transportation
 e. Respect local culture and customs f. Use digital tickets and maps
 g. Avoid harm to wildlife and natural habitats

[Speaking] What Can You Do to Achieve Sustainable Tourism?

A: Hi, ○○! How's it going?
 B: (), thank you. You?
 A: (), thanks.
 In our English lessons, we learned about "sustainable tourism".
 What can we do to achieve sustainable tourism?
 B: I think we can _____
 How about you?
 A: I believe we can _____

[Reaction]
 Sounds interesting. / Really? / That's nice. / I see. / Wow! / Oh!

[HINTS]
 choose environmentally-friendly transportation: 環境に優しい交通手段を選ぶ
 respect, understand, and follow the community's rules: 地元ルールを敬い、理解し、従う
 be mindful of over-tourism and visit less crowded spots
 観光過多に気を付け、あまり混雑していない場所を訪れる

4. Reading

The Charm of Laos and Challenges of Tourism

[P.1] Laos, a country with beautiful nature and a peaceful way of life, has become more popular with tourists in recent years. It was even chosen by The New York Times as the most "desirable" country to visit. People come not only from Asia, but also from the United States, Europe, and other parts of the world. What makes it so attractive to tourists?

[P.2] The people of Laos are friendly and kind and have a slow and relaxed pace. The natural beauty of the Mekong River and the surrounding mountains is also a great place to relax. Especially, many tourists visit the city of **(P.3) Luang Prabang**. The city is a World Heritage site, with many old temples and historic buildings, and you can still see traditional customs like the monks' "almos-giving ceremony" every day. Traditional culture is often lost in more developed countries, but in Laos, it is still part of "daily life".

However, **(P.4) tourism can cause some important things to be lost**. As tourism grows, traditions and rituals can become commercialized, losing their original meaning. Also, the growth of tourism and more visitors can harm nature. Finally, "depending on tourism, local life may change, with prices rising and making life harder for local people."

*desirable: 魅力的な *almos-giving ceremony: 行状 *daily life: 日常生活
 *depending on: ~に依存して

Q.1 下線部(P.1)を言い換えた内容を、本文中から11語で抜き出さなさい。

Q.2 下線部(P.2)について、ラオスの人々ほどのような人と説明されているか、日本語で答えよ。

Q.3 下線部(P.3)について、ルアンパバーンほどのような街と説明されているか、日本語で答えよ。

Q.4 下線部(P.4)について、観光によって失われる可能性があるものは何か、本文を基に日本語で答えよ。

ワークシート(8) (見本)

No.23 Communication English IIAB 番外編 Sustainable Tourism

5. Writing

[TOPIC]
 The number of tourists visiting Hakata Island is increasing year by year.

● What are the potential positive and negative effects of more tourists visiting Hakata Island?
 ● What do you think should be done to promote sustainable tourism?

Write your opinion.

＜条件＞
 ・80～100語の英語で書きなさい。
 ・[TOPIC]の問いに対する自分の意見を必ず含めること。構成は以下を参考にしても良い。

【構成のヒント】

① Introduction (導入)
 ・トピックや背景情報を簡単に紹介する。

EX) Hakata Island is attracting more tourists each year. This brings many economic benefits, but we also have to be concerned about the negative effects.

② Body (本文)
 ・第一パラグラフ: ポジティブな影響について
 ・第二パラグラフ: ネガティブな影響について

③ Conclusion (結論)
 ・持続可能な観光のために必要な対策を提案する。

【構成メモ】

Teacher's Feedback

※いずれもデータはウェブ上からダウンロードしてください。

アクティビティ3 『『ラオス×日本』から考える国際平和』

●概要

平和について、戦争や内乱・紛争などの直接的な暴力のない「消極的平和」だけでなく、貧困・抑圧・差別など社会構造に起因する間接的な暴力のない「積極的平和」、両方の側面から考え、最終的には自分達にできることや世界の最前線で活躍されているJICA海外協力隊の方の話を直接伺い国際協力について学ぶことのできるアクティビティである。ラオスの不発弾問題について、教師が現地で学んできたことを共有し、不発弾に関する漫画（JICA「戦争のあとに残るものーラオスの不発弾」）を読む中で平和について考えることから始まり、不発弾はラオスだけではなく日本にも当てはまる問題であることを自分事として理解する。そこから、平和の対義語について考える中でグループ活動や意見交換を行い、平和とは何かを多面的に考える。自分にとっての平和は何か、平和な世界とは何か、そのために自分ができることは何か、他者と意見交換をする中でさまざまな考え方や価値観を共有することが期待される。最終的にはJICAオンライン出前講座を活用し、JICA海外協力隊として世界の平和の実現のために活躍されている方のお話を伺う中で国際協力について学ぶ。

●ねらい

- ・ラオスの不発弾を通して、戦争の悲惨さを自分事として理解する。
- ・他者と意見交換や活動をする中で、平和の定義を多面的に捉え、自分にとっての平和や自分達にできることを考える。
- ・JICAオンライン出前講座を通して、開発途上国や世界に広がる諸課題を解決するための国際協力について学び、興味を持つ。

●主な対象

高校生

●用意するもの

- ・パワーポイント③ (P173)
- ・タブレット端末
- [1時間目]
- ・ワークシート(9) (P175)：全員分
- ・不発弾に関する漫画『2. 戦争のあとに残るものーラオスの不発弾』（「井上きみどりの、日本とアジアの絆をたどる旅（ラオス・ベトナム編）」JICA, 2016／参考文献・引用参照）：印刷して全員分
- ・不発弾から作られたスプーン、栓抜き、不発弾爆発後の破片など（現物）
- ・ハンドボールを茶色いガムテープで巻いたもの
- ・ワークシート(10) (P175)：全員分
- [2時間目]
- ・ワークシート(11) (P175)：全員分
- ・すごろくのマスシート (P177)：グループ数分 ※B4サイズに印刷しておく
- ・人物カード (P176)：予め1枚ずつ切り離し、一人1枚渡せる枚数を準備する。
- ・すごろくのコマ（「1歩進めゲーム」で使用）：人数分
- [3時間目]
- ・ワークシート(12) (P177)：全員分

- ・赤、白、緑、青など異なる色のシール：それぞれ複数枚。合計で人数分－1となるように準備する。
- ・その他のシール：1枚
- ・SDGsゴールのカード：掲示用に1セット（ポスター等でも良い）

●所要時間

4時間

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>[1時間目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に生徒を4～5人のグループに分けておく。 2. ラオスの基礎情報について学ぶ 3. ラオスの上空から見える景色 「これは世界遺産でもある、ラオスのルアンパバーンの街並みを飛行機の中から撮った写真です。実はこの景色には隠れているものがあります。何でしょうか？自由に話してみましよう。」 「戦争に関することです。」「隠れたものからはこのようなものが作られています。」とヒントを出し、不発弾から作られたスプーンや栓抜きをグループに配布し、実際に触らせる。 4. 不発弾についての解説 国土を占める割合、歴史、クラスター爆弾について、実際の大きさ等を説明する。 5. 不発弾が変えてしまうもの 漫画とワークシート(9)を配布（またはスライドとして提示）して、生徒と一緒に読みながら、生徒は各問いについて考える。 各問いは個人で考えた後にグループ→全体で共有する。 6. Q.3「木の実を見つけるために森の中へ入った子どもたち。子どもたちは『丸いもの』を見つけた後、何をしたでしょう？」の問いに合わせ、「自由に使ってみてね。」と各グループに『丸いもの』を配布する。 	<p>事前にその国について学んでいる場合は説明を簡略化する。</p> <p>物品のパッケージの中には、ラオスの不発弾に関する歴史や情報が含まれているため、それもヒントとして扱うことができる。</p> <p>実物の写真を見せながら説明を行うことが望ましい。</p> <p>生徒たちの意見交換をする際には、様々な答えがあってよいことを強調する。</p> <p>茶色いガムテープを巻き付けたボールなどを各グループに渡し、自由に使って遊んでも良いと伝える。（投げる、転がす等）</p>

<p>7. 不発弾撤去作業の見学・体験の共有 不発弾撤去作業の手順や、実際に撤去作業を見てのエピソード、不発弾爆発の様子を生徒たちに写真や動画を見せながら話す。</p> <p>8. 日本の不発弾の事故等について調べる。 ・ワークシート(10)を配布する。 ・生徒はタブレット端末を用いて、日本での不発弾の事故を調べ、その内容をワークシート(10)に記入する。その後グループ→全体で共有する。</p>	<p>6. での遊びが落ち着いた状況で解説を始める。</p> <p>空港など、案外身近なところに不発弾問題は存在する。遠い国の話ではないこと、自分の身近なところにも存在する問題であることを認識させる。</p>
<p>[2時間目]</p> <p>0. ワークシート(11)を配布する。</p> <p>1. ワークシートに沿って平和の対義語を考える。</p> <p>2. ワークシートのその他のQもグループで考え、出た意見を全体でも共有する。</p> <p>3. 「一歩進めゲーム」を行う。 ・各グループに1枚ずつすごろくのマスシートを配布する。</p> <p>・各生徒に、さまざまな境遇を持つ人物についての情報が書かれたカードを1人1枚ずつ配布する。 生徒はその人物になりきり、教師からの質問の答えがYesになる人はすごろくのマスを進める。</p> <p>【質問】 「あなたは安心して過ごすことができる場所があります」 「あなたは毎日お風呂に入ることができます」 「あなたは週末に親しい人とお出かけをし、ショッピングをすることができます」 「あなたは思ったことや考えたことを自由に発言したり、行動したりできます」 「あなたはその境遇から奇異の目で見られ、差別されることはありません」</p>	<p>正解不正解はないと強調する。前時の授業を踏まえ、多くの生徒が「戦争」と回答することが想定される。</p> <p>正解不正解はなく、相手の意見を尊重して意見交換を行うよう促す。 Q.3、Q.4の心理・感情に触れる回答は、無理に紙に書いたり共有する必要はないことを伝えておく。</p> <p>※このアクティビティは非常にセンシティブな内容を含むため、生徒の置かれている状況や背景を充分配慮する。</p> <p>グループに異なる境遇を持つ人物がくるように、配慮して配布する。</p> <p>Yesに当てはまるか分からない場合は無理にコマを進めなくてもよいと伝える。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・活動終了後、グループや全体でどのような人がいたのかを共有する。 また、周囲とのマスの進み方を比較して、活動をしている時に自分がどのような気持ちになったかを共有する。 ・「あなたがなりきった人の生活は平和でしたか？」と問い、話し合う。 <p>4. 平和について、以下の質問をする。 まずは個人で考え、その後グループで共有する。 「あなたにとっての平和とは何ですか？」 「平和な世界とはどのような世界だと思いますか？」</p> <p>5. 平和の対義語を改めて考える。</p>	<p>共有の時間は十分に設け、生徒の意見に対して共感をすることを意識する。</p> <p>様々な答えがあってもよいことを事前に伝えた上で、グループで話し合わせる。</p> <p>ここで出た回答は次時の授業のワークシート(12)の冒頭に反映させる。</p> <p>正解不正解はないこと、複数答えを書いてもよいことを伝える。授業の最初に書いた対義語から変化しているかを確認する。(もちろん同じでも良い)</p>
<p>[3時間目]</p> <p>0. ワークシート(12)を配布する。</p> <p>1. 前時のふり返しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和の対義語を共有する。 ・みんなにとっての「平和」を共有する。 <p>2. 「あなたの友達をみつけてくださいゲーム」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール説明を行う。 「合図があるまで目を開けてはいけません。」 「声に出して話してはいけません。」 「自分の名札を見てはいけません。」 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の名札に1枚ずつ色のついたシールを貼っていく。1人だけ、他の生徒に貼るシールとは全く異なるシールを貼る。 ・「目を開けてください。あなたの友達を見つけてください。見つけたら近くに集まって座ってください。」と指示を出す。 	<p>「皆が仲良く暮らせる」、「差別のない世界」、「皆が平等」、「皆が楽しく幸せ」などの意見が想定される。</p> <p>色シールについて、その後同じ色をもつ生徒同士でグループ活動を行うため、あらかじめ誰にどの色のシールを貼るか考えておいた方がよい。また、異なる種類のシールを貼る1人は、クラスの間人間関係を考慮して選ぶ。</p> <p>体に触れられることを嫌がる生徒もいる。最初に名札に触れることを伝え、嫌な生徒は観察役にする。 ※異なるシールを貼られた1人だけが集団の輪に入れない現象が想定される。</p>

- ・以下のような問いを投げかける。
「なぜその友達で集まったのですか？」
「(一人になってしまった生徒に対して) 友達が見つからず、どのような気持ちになりましたか？」
「ゲームの指示は、あなたの友達を見つけてください、でした。『同じシールで集まってください』とは伝えていません。」

- ・解説する。事例として(既習事項である) 俚約令、身分差別、被差別部落、人種差別などを取り上げる。

3. ディスカッション

以下の質問について、グループでそれぞれ10分程度話し合い、全体で共有する。

Q. あなたは、「平和を実現するための暴力は仕方のないことだと思いますか？」

Q. あなたは「死刑制度」に賛成ですか？反対ですか？

⇒全体でそれぞれ「賛成」「反対」「どちらともいえない」の人数を数え、それぞれの理由を尋ね、板書する。

⇒様々な価値観や意見を持った人がいること、死刑制度も「平和を実現するための暴力」に分類されうること、視点が変われば自分達の意見も変わる可能性があることに気付く。

4. 平和を実現するための国際協力を考える。

- ・SDGsについて解説する。

- ・(SDGs17のゴールのカードをそれぞれホワイトボードに貼り付ける)

グループで『みんなが平和に暮らせる世界』を実現するために特に必要だと感じるゴールを5つ選ぶよう指示し、グループで話し合う。

生徒たちの考えに共感しながら、落ち着いた雰囲気でお話しかける。

なんでもないシール1枚(レットル)で、無意識に集団が操作されてしまうことを体感させたい。

各問いの答えは一つではないことを強調し、それぞれの立場から理由などを自由に話し合わせる。

ゴールを選ぶ理由を伝え合うことに重点を置くため、

- ・どのゴールを選んでも正解、不正解はないこと。

- ・ゴールを選ぶ際は多数決ではなく話し合いで決めること。

を予め伝えておく。

<p>・SDGsのゴール全てが、平和な世界をつくるために必要であることを説明し、『『平和』な世界を実現するために、私たち自身ができることは何だろうか?』と問いかけ、グループで話し合う。その後クラス全体で共有する。</p>	<p>全体での共有では、できる限り幅広い視点からの意見が出されるよう、発表者を意識して指名する。</p>
<p>ふり返り 感想の記入、共有</p>	

●用語の解説

「積極的平和」、「消極的平和」…平和学において平和は「消極的平和」と「積極的平和」に分類される。「消極的平和」とは戦争や内乱・紛争などの直接的な暴力が無い状態のことを指し、「積極的平和」とは消極的平和の要素に加え、貧困・抑圧・差別など社会構造に起因する間接的な暴力（構造的暴力）もない状態のことを指す。

●解説

国際平和について取り扱う際に、戦争の側面のみから平和について学ぶ場合、生徒たちは当事者意識を持つことが難しく、さらに悲惨な内容を扱うことから平和学習に疲弊してしまうことを危惧している。そのため、消極的平和と積極的平和の両方の側面からアプローチする内容とした。最終的には、「より平和な世界をつくるために」というポジティブかつ現代の諸課題に目を向けた内容を取り扱っている。JICAオンライン出前講座を活用し、世界の最前線で活躍されている方からの生の声を聞くことにより、より興味を持って平和問題や国際協力について考えられるようにした。さらに、ディスカッションをする機会を多く設けることにより、身近にも様々な意見を持った人がいることや、その背景にある思考や価値観を共有し、生徒たちの視野をより広げることが期待される。ディスカッション等を行う際には生徒たちが話しやすい人間関係を考慮したグループ作りや、相手の意見を受容する雰囲気作りをするための教師からの声かけが必須である。

パワーポイント③ (見本)

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

「ラオス×日本」から考える国際平和
人権・同和教育HR (2024.11.14)




(1) ラオスについて学ぼう！

<ラオスの基本情報>

国名：ラオス

首都：ビエンチャン

民族：約50の民族
(ラオ族が半数以上、カム族、モン族)

言語：ラオ語



(2) ラオスの上空から見える景色



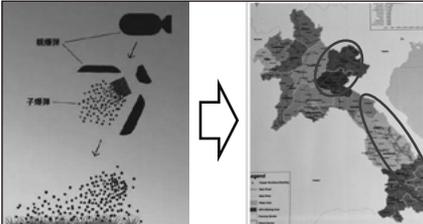
ラオスの世界遺産の街「ルアンパバーン」の上空写真



ヒント



正解：不発弾


井上きみどりの
日本とアジアの
絆をたどる旅

(3) 不発弾が変えてしまうもの
戦争のあとに残るもの
ラオスの不発弾







(4) 不発弾撤去作業の見学・体験



① 金属探知機で不発弾を探す



ブルブル…
(振動)

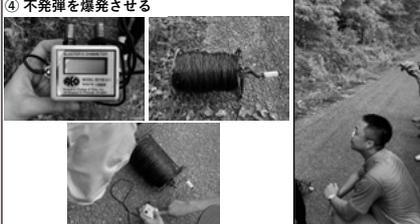
② 不発弾の発見⇒土のう、赤いマークの設置



③ 住民への避難の呼びかけ



④ 不発弾を爆発させる



(5) 不発弾はラオスだけの話…?



◎ 日本での不発弾の事故等について調べてみましょう。



<Warm-up>
1. 平和の対義語は「戦争」？みんなが考える「平和」の対義語は・・・
 ・平和の対義語は、「**貧困**」である。
 ・平和の対義語は、「**争い**」である。
 ・平和の対義語は、「**苦しみ**」である。
 ・平和の対義語は、「**差別**」である。
 ・平和の対義語は、「**偏見**」である。
 ・平和の対義語は、「**不平等**」である。



2. みんなにとっての「平和」とは・・・
 ・平和とは、「自由があり、皆が仲良く暮らせること」である。
 ・平和とは、「不自由なく暮らし、意見が尊重され、楽しい生活ができること」である。
 ・平和とは、「しっかりと職につき、支えてくれる機関や人、生活のお金があること」である。
 ・平和とは、「差別のない世界」である。
 ・平和とは、「争いがなく、みんなが平等」である。
 ・平和とは、「全ての人人間らしく生きることができる状態」である。
 ・平和とは、「皆が楽しく幸せを感じながら生活できること」である。
 ・平和とは、「皆平等に安心できる職機が手に入る状況のこと」である。
 ・平和とは、「全ての犯罪が減ること」である。
 ・平和とは、「自分のしたいことが自由にできて、心広く暮らせていけること」である。

あなたの友達を見つけてください。

- 合図があるまで目を開けてはいけません。
- 声に出して話してはいけません。
- 自分の名札を見てはいけません。



● なんでもないシール1枚（レッテル）で、「集団」が操作されてしまう
・身分差別（被差別部落の人々）
 「○○部落や○○部落に住んでいる人たちは近寄らないほうがいい。」・俵約令
・人種差別
 「○○人は敵だ！！排除せよ。」
 「人間はボリス（共同体）的動物である」
 ・・共同体を創り、その中で生きる動物
 ⇒ その中で無意識に他者にレッテルを貼り排除していないか？
 無意識に操作されていないか？
 （権力者が貼ったレッテル1枚で操作されていないか？）



2. みんなにとっての「平和」とは・・・
 ・平和とは、「自由があり、皆が仲良く暮らせること」である。
 ・平和とは、「不自由なく暮らし、意見が尊重され、楽しい生活ができること」である。
 ・平和とは、「しっかりと職につき、支えてくれる機関や人、生活のお金があること」である。
 ・平和とは、「差別のない世界」である。
 ・平和とは、「争いがなく、みんなが平等」である。
 ・平和とは、「全ての人人間らしく生きることができる状態」である。
 ・平和とは、「皆が楽しく幸せを感じながら生活できること」である。
 ・平和とは、「皆平等に安心できる職機が手に入る状況のこと」である。
 ・平和とは、「全ての犯罪が減ること」である。
 ・平和とは、「自分のしたいことが自由にできて、心広く暮らせていけること」である。

<Understanding International Cooperation>
 ● 国際協力について学ぼう！
 SDGs・・・「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」とは、すべての人々にとってよりよいより持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな課題の解決を目指します。



Q. グループで、「みんなが平和に暮らせる世界」を実現するために特に必要だと感じる項目を5つ選びましょう。その際、多数決ではなく話し合いで決めましょう。



ワークシート(9) (見本)

Q1 不発弾の被害を受け、ブンテンさんの生活はどのようになってしまったでしょうか。
<あなたの予想>
.....
.....
<みんなの予想>
.....
.....

Q2 もしあなたがブンテンさんだったら、どのように感じるでしょうか。
<あなたの意見>
.....
.....
<みんなの意見>
.....
.....

Q3 本の実を見つけるために森の中へ入った子供たち。
子供たちは、「良いもの」を見つけた後、何をしましたか？
<あなたの予想>
.....
.....
<みんなの予想>
.....
.....

ワークシート(10) (見本)

日本の不発弾問題について調べてみよう

2年1組()番 名前()

<自分が調べたこと>



<MEMO>

★本日の授業の感想(わかったこと、感じたこと)★

.....
.....
.....

ワークシート(11) (見本)

「ラオス×日本」から考える国際平和②

2年1組()番 名前()

☐ あなたにとっての「平和」を考え、自分達にできることは何かを考えよう。

<Warm-up>

●平和の対義語は「 」である。

Q1 あなたが安心して過ごせる場所や時間はどこいつ？

.....

Q2 その安心できる場所や時間を創り出す要因は何だったのでしょうか？

.....

Q3 最近、怒りや不安、緊張を感じた出来事は何でしたか？ (※心の中で考えたでも OK)

.....

Q4 怒りや不安、緊張を感じた要因は何だったのでしょうか？ (※心の中で考えたでも OK)

.....

Activity 「一歩進め」

あなたが選んだ役割: []

あなたが選んだ歩数: []

0. 前に進んだこと、あるいは進めなかったことについて、どのように感じましたか？

.....

0.5 あなたにとっての平和とは何ですか？

平和とは、.....である。

<Try again>

●平和の対義語は「 」である。

0.6 平和な世界とはどのような世界かと思いませんか？

平和な世界とは、.....である。

0.7 平和な世界を実現するためにできることは何だろうか？

.....

★本日の授業の感想(わかったこと、感じたこと)★

.....
.....
.....

※いずれもデータはウェブ上からダウンロードしてください。

人物カード

※一人1枚に配れるようにコピーし、予め1枚ずつ切り離しておく。

あなたは、地域の銀行の支店長の娘です。大学で経済学の勉強をしています。	あなたは、ホームレスの27歳の男性です。
あなたは、麻薬中毒依存症の若いミュージシャンのガールフレンドです。	あなたは、山間部の人里離れた村に住む農民の19歳の息子です。
あなたは、車椅子でしか移動できない障がいを持つ若い男性です。	あなたは、自宅で寝たきりの父親を介護している58歳の女性です。
あなたは、アフガニスタンから逃れてきた24歳の難民です。	あなたは、中国からの不法侵入者です。
あなたは、自動車製造工場を定年退職した労働者です。	あなたは、日本駐在のアメリカ大使の娘です。
あなたは、小学校でいじめられたことをきっかけに引きこもっている29歳の青年です。	あなたは、事業が上手くいっている貿易会社の社長です。
あなたは、小学校も修了していない17歳の遊牧民の女の子です。	あなたは、ファストフード業が上手くいっている中国系移民の息子です。
あなたは、刑務所から出所したばかりの30歳の男性です。	あなたは、プログラマーとしてリモートワークをしている28歳のエンジニアです。
あなたは、戦争で家族を失った13歳のシリア難民の少年です。	あなたは、パラリンピック選手として水泳に取り組む25歳の女性です。
あなたは、家族の期待に応えようと医者を目指している21歳の大学生です。	あなたは、長年勤めていた工場が閉鎖し、仕事を失った48歳の男性です。
あなたは、重い病気と闘っている入院中の12歳の少年です。	あなたは、遠距離恋愛をしている21歳の大学生です。
あなたは、薬物依存から抜け出そうとリハビリ施設に入っている27歳の女性です。	あなたは、洪水で家を失い、仮設住宅で暮らしている56歳の男性です。
あなたは、オリンピックで金メダルを獲得した22歳の水泳選手です。	あなたは、ベストセラー小説を出版した28歳の作家です。
あなたは、毎朝通勤電車で仕事に向かっている30歳の独身サラリーマンです。	あなたは、高級車を複数所有している45歳の実業家です。

すごろくのマスシート (見本)

一歩進め 

	2	3	4	5
10	9	8	7	6
11	12	13	14	15
	19	18	17	16

ワークシート(12) (見本)

「ラオス×日本」から考える国際平和③
2年1組()番 名前()

目標:国際協力について学び、自分達にできることは何かを考えよう。
<Warm-up>

1. 平和の対義語は「戦争」？ みんなが考える「平和」の対義語は・・・

- ・平和の対義語は、「貧困」である。
- ・平和の対義語は、「争い」である。
- ・平和の対義語は、「苦しみ」である。
- ・平和の対義語は、「差別」である。
- ・平和の対義語は、「偏見」である。
- ・平和の対義語は、「不平等」である。

戦争の側面から平和について考えるだけでなく様々な側面から平和について考えることができました。

2. みんなにとっての「平和」とは・・・

- ・平和とは、「自由があり、皆が仲良く暮らせること」である。
- ・平和とは、「不自由なく暮らし、意見が尊重され、楽しい生活ができること」である。
- ・平和とは、「しっかりと職につき、支えてくれる機関や人、生活するお金があること」である。
- ・平和とは、「差別のない世界」である。
- ・平和とは、「争いがなく、みんなが平等」である。
- ・平和とは、「全ての人が人間らしく生きることができる状態」である。
- ・平和とは、「皆が楽しく幸せを感じながら生活できること」である。
- ・平和とは、「皆平等に安心できる環境が手に入る状況のこと」である。
- ・平和とは、「全ての犯罪が消えること」である。
- ・平和とは、「自分のしたいことが自由にできて、心配なく暮らせていけること」である。

3. アクティビティ:「あなたの友達をみつけてください」

<Discussion>

Q.あなたは、「平和を実現するための力は仕方ないことだ」と思いますか？なぜですか？

Q.あなたは、「死刑制度」に賛成ですか？反対ですか？それはなぜですか？

<Understanding International Cooperation>

●国際協力について学ぼう！

SDGs・・・“Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)”とは、すべての人々にとってよりよい持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境変化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。

Q.「みんなが平和に暮らせる世界」を実現するために必要なものはどれだと思いますか？特に必要だと感じる項目を5つ選び、○で囲みましょう。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

Q.「平和」な世界を実現するために、私たち自身ができることは何だろう？

●世界の最前線で活躍する人たちの話を聞こう！(R6.12.24 予定)








※いずれもデータはウェブ上からダウンロードしてください。

おわりに

「世界の食文化」、「持続可能な観光」、「国際平和と国際協力」それぞれ全く異なる大きなテーマで授業を実践したが、いずれも体験やディスカッション、現場で活躍されている方との交流などを通し、生徒たちにとって視野を広げ、新しい発見や気づき、興味や疑問が生まれてくる時間となったようだ。あくまでこれらのアクティビティは生徒たちの世界に対する興味を持つことをねらいとしており、学びの出発点に過ぎない。今回のアクティビティを通して、今後生徒たちが自身の日常生活の中で世界にも目を向けてアンテナを張り、さらに主体的に学びを深めるトリガーになったら嬉しい。

授業実践をする中で、子どもたちの持つ気づきや視点に私自身多くのことを学ばせていただいた。多様な価値観を理解することの重要性を伝える立場として、私自身さらにいろいろなことに挑戦して学ぶ姿勢や多様な価値観を受け入れる姿勢を持つことや、多くの人々と対話することを大切にしていきたい。

参考文献・引用資料

- ・ JICA【開発途上国・教育】 開発途上国について徹底解説 (<https://youtu.be/CnRf59bfF6s>)
- ・ 国連世界観光機関 (UN Tourism) 駐日事務所 持続可能な観光の定義 (<https://unwto-ap.org/why/tourism-definition/>)
- ・ 朝日新聞 SDGs ACTION! オーバーツーリズムとは? (<https://www.asahi.com/sdgs/article/15357805?msockid=375b754a242166f21cc7672d25f367f0>)
- ・ UMAMI INFORMATION CENTER 世界のうまみ文化 (<https://www.umamiinfo.jp/world/culture/>)
- ・ 国際連合広報センター SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは? 17の目標ごとの説明、事実と数字 (https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31737/)
- ・ 一般社団法人平和政策研究所 平和の概念再考: 平和学における和解の位置づけ (<https://ippjapan.org/archives/1633>)
- ・ 『豊かさとは何か』(暉峻淑子、岩波新書、1989年)
- ・ 『グローバルな時代を生きるための 異文化理解入門』(伊沢伊都夫、研究者、2013年)
- ・ 『戦争のあとに残るものーラオスの不発弾』(井上きみどり・JICA、2017年)
- ・ 『Going Global: Strategies for Active Reading』(CHART INSTITUTE、数研出版株式会社、2018年)

実践事例報告

プログラム作成・実践者

玉井日向子

学校名

愛媛県立今治西高等学校伯方分校

担当教科

英語

実践教科

英語、家庭科、人権・同和教育ホームルーム

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

ラオスからはじまる国際理解

(2) 単元のねらい

ラオスの食文化や観光、不発弾問題を通して国際理解を促進し、自分達にもできることを考える。

(3) 概 要

- ①世界の調味料や食材を学び、ラオスのローカルフード（カオソーイ）を調理・実食する。
- ②富士山やラオスのルアンパバーンの観光客増加を背景に、持続可能な観光について考え、地元の観光を守るためにできることについてエッセイを書き、共有する。
- ③活動やディスカッションを通して平和について多面的に捉え、平和の実現のために自分達にできることを考え、国際協力について学ぶ。

(4) 指導上の留意点

答えのない問いを多く含むため、まずは意見の出しやすい雰囲気作りをすることを大切にして授業を実施する。

アクティビティ3の平和学習において、その国の持つ負の遺産を伝えるより前にその国の持つ特徴や魅力を十分伝えておく必要があることであるファーストインプレッションが生徒のその国に対する印象や興味に対する大きな役割を担っていると考える。まずは世界の様々な事柄に親しみを感じ、異文化を理解し、様々な考えを持つ人と対話することのおもしろさや良さを感じられるような授業内容から始まるように授業を構成すべきであると考えている。

(5) 児童生徒の感想や学び・気づき

[アクティビティ1]

(生徒)

- ・すごい匂いの調味料がたくさんあり、これが実際に料理されるとどうなるのか気になった。ナンプラーは、匂いがきつくて食べられるか不安だったが、スープにいれるととてもおいしくてたくさんおかわりした。
- ・カオソーイの香辛料とパクチーの効いた香りが、昔祖父の住んでいたタイの味を思い出した。日本と同じアジアの国の料理だが、味・香り・雰囲気が全く違った。しかし日本の食べ物と似ている部分もあると思った。次機会があれば、ドイツの料理を食べてみたい。
- ・初めて食べる味や匂いがたくさんあった。東南アジアの料理を食べたのは人生で初めてだった。とても不安だったがおいしかった。もっといろいろな世界の料理を食べてみたい。

- ・初めて海外の料理を食べた。まあまあおいしかった。班のみんなで協力しながら調理できた。
- ・少し辛かったが、肉味噌はトマトの味が効いていてとてもおいしかった。今回はカオソーイを作ったが、他の国の料理も作って食べてみたいし、家族に作ってあげたい。

[アクティビティ 2]

(教師)

観光のメリットや、オーバーツーリズムのデメリットについて、日本の富士山やラオスのルアンパバーン観光事情を学ぶ中で積極的に話し合いながら理解をすることができたようである。最終的には地元の伯方島の観光を守るための取組について話し合いやライティング活動が行われた。各地域の文化的な魅力を理解しつつ、それらを保護することの重要性を認識したようだった。

[アクティビティ 3]

(生徒)

- ・実際に行って、自分の目で見て初めてわかることがあるのだと話を聞く中でひしひしと伝わってきた。ラオスの不発弾の話は考えて想像するだけでも痛いし悲しいし辛かった。今回の授業でとても興味が湧いたので、将来機会があれば先生の参加したような研修に参加したい！
- ・日本でも今も各地で不発弾が見つかることに驚いた。日本にとどまっているだけだと、考えが偏ってしまう気がするので、もっと世界のことを知りたいと思う。今、私たちが毎日平和に暮らせていることは本当に環境に恵まれているのだと再認識することができた。そのことに感謝しつつ、私は世界を旅するときに、いろいろな人とコミュニケーションをとることができるように英語の勉強をもっと頑張りたい。
- ・私にとっての「平和」は、争いがなくて、毎日笑顔で楽しくいられることである。自分と相手の考えや価値観が異なると争いごとが起きると思う。自分ができることとして、相手の意見をしっかりと聞いて、お互い寄り添い合えば、戦争が起きなくなると思う。
- ・立場が違ったら、こんなにも行き辛い世の中になるのだと一歩進めゲームで実感した。他人事だったら「可哀想」だけで終わってしまうような事柄も、その人の立場に立って考えてみると、少しでも理解できたと思う。みんなが平和に生きられる社会を作るために自分ができることを考えて実践していきたい。
- ・今回の授業を受けて一番印象に残ったことは、ストリートチルドレンのことを知ったことである。元々、聞いたことはあったが、ガリガリの子どもたちが枝豆を売っている姿を見て心がとてもモヤモヤした。この状況を知り、広めていくことが私たちの使命だと感じた。
- ・今回の授業で、国際協力にすごく興味をもつことができた。開発途上国は正直マイナスなイメージがあったが、普段私たちが使用しているものに開発途上国で作られたものが使われていることもあると初めて知った。私が気付いていないことはまだまだたくさんあるはずであるため、もっと世界のことを学びたい。私は将来海外に行ってみたいと考えているが、その時に誰かの助けになるような活動をしたい。
- ・環境も言語も食も異なる国の中で活躍されているJICA海外協力隊の方はとてもかっこよかった。裕福な生活ができない子どもたちがいると聞いた時は胸が締め付けられた。私は将来医療関係の職に就きたい。そこでもし機会があれば、海外研修にも参加し、現地の医療体制を学び、改めて私にできることを考えていきたいと強く思った。

【授業実践をした上での感想・ふり返り】

全く異なるジャンルを取り扱ったアクティビティをそれぞれ実施したが、それらの学びをきっかけに生徒たちは「もっと知りたい」、「自分も海外研修や協力隊に参加してみたい」と、感想の中で共有してくれたことがとても嬉しい。各アクティビティに最近の流行を取り込むことによりきっとさらに生徒の興味を引くものとなっただろう。問いの内容や構成など、改善の余地がたくさんある。今後も引き続き授業改善を行い、生徒と共に学んでいきたい。



調理したカオソーイ



JICAオンライン出前講座の様子

MEMO

MEMO

学びのプログラム集

—2024年度JICA中国・四国 教師海外研修 授業実践報告書—

2025年3月発行

独立行政法人国際協力機構 中国・四国センター

執筆・作成：2024年度JICA中国・四国 教師海外研修参加教員
指導・監修：山中信幸（川崎医療福祉大学非常勤講師・開発教育
ファシリテーター）



**独立行政法人 国際協力機構
中国センター（JICA中国）**

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1
TEL 082-421-6305 FAX 082-420-8082
<https://www.jica.go.jp/chugoku/>

**独立行政法人 国際協力機構
四国センター（JICA四国）**

〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
TEL 087-821-8824 FAX 087-822-8870
<https://www.jica.go.jp/shikoku/>